

第2章

介護技術評価票データ分析による OJT の在り方の検討

1. 介護技術評価 自己評価・他者評価実施概要

(1) 実施概要

介護キャリア段位制度における「アセッサー養成講習」の課題として、事業所全体の介護スキルレベルを確認し、評価を実施する際の事業所としての課題抽出、また、評価を実施する介護職員の優先順位を決める参考とするため、『トライアル評価「課題1」』を実施した。

トライアル評価「課題1」では、外国人介護人材を含めた初任者研修修了相当の方への技術評価用指標として開発された入門レベルの評価項目セット（29項目）を用い、事業所内の介護職員の介護スキルレベルを、大まかに把握することとした。

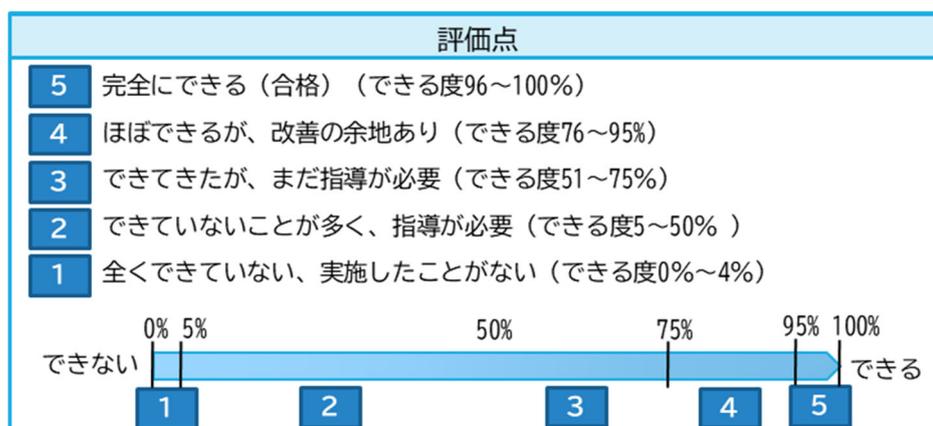
なお、入門レベルの評価項目セットは介護キャリア段位制度の評価項目には組み込まれていないが、基礎的なスキルレベルの評価項目となっているため、この評価項目を活用することで、短時間でかつ複数の介護職員の介護スキルレベルを把握し課題を抽出することを可能とした。

今回の課題において、事業所内の介護職員を5名程度選定し（上限5名）、評価については選定された介護職員による自己評価と、受講者による他者評価を実施した。

実施した自己評価と他者評価の評価結果を比較し、以下について考察を行うこととした。

- ・評価として差が出やすい介護行為はどのようなところにあるのか
（自己評価で気づきにくい点、他者評価で気づきにくい点など）
- ・事業所全体として介護スキル向上を図らなければならない項目があるか
- ・事業所内で重点的（優先度高）に介護スキル向上を図らなければならない職員は誰であるか

なお、評価については以下の通り5段階として、評価を実施した。



第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

評価項目

1. 入浴介助		
項目		評価項目
①	体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始めることに同意を得るとともに、声をかけて、利用者の状態を確認する
②	衣服着脱の介助	気候条件に合わせて、順序だった衣服と履き物の着脱の介助を行う
③	手浴の介助	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、手浴の介助を行う
④	足浴の介助	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、足浴の介助を行う
⑤	入浴の介助	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、入浴の介助を行う
⑥	整容（洗面）	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を洗って拭き乾かす介助を行う
⑦	整容（洗髪等）	髪、頭皮、肌、爪などの身体部位の手入れの介助を行う
⑧	全身清拭	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、全身を拭き乾かす
⑨	顔の清拭	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を拭き乾かす

2. 食事介助		
項目		評価項目
①	体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始めることに同意を得るとともに、声をかけて、利用者の状態を確認する
②	食事の介助	食事の摂取のプロセスやメカニズムを理解し、それを踏まえた食事の介助を行う
③	口腔ケア	口腔内の清掃の介助とチェックを行う
④	食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告	自分で対応した事柄を記録し、報告する

3. 排泄介助		
項目		評価項目
①	体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始めることに同意を得るとともに、声をかけて、利用者の状態を確認する
②	トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助	トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介助を行う
③	尿器・便器を用いた介助	尿器・便器を用いて排泄の介助を行う
④	おむつ交換	おむつを交換する
⑤	食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告	自分で対応した事柄を記録し、報告する

4. 移乗・移動・体位変換		
項目		評価項目
①	起居の介助	ベッドから起き上がった後、起き上がった後の座位を保持するよう介助を行う
②	車いすへの移乗の介助	ベッドから車椅子へ移乗の介助を行う
③	車いす移動の介助	車いすを用いた移動の介助を行う
④	福祉用具の使用方法及び点検業務	福祉用具の使用方法を理解し、福祉用具が安全に使えるか点検を行う
⑤	歩行の介助	歩行（常に片方の足が地面についた状態で、一步一步足を動かす）の介助を行う
⑥	体位変換	利用者がベッドで寝ている生活が続くときに、姿勢を変えて体を移動させる
⑦	立位の介助	立位になったり、立位を保持するよう介助を行う

5. 感染症対策・衛生管理		
項目		評価項目
①	安全衛生教育	身体介護業務に伴う安全衛生に関し、感染対策（適切な手洗い、健康上のリスクへの対応、疾病予防に必要な知識、自己ケア等）の詳細な知識を有する

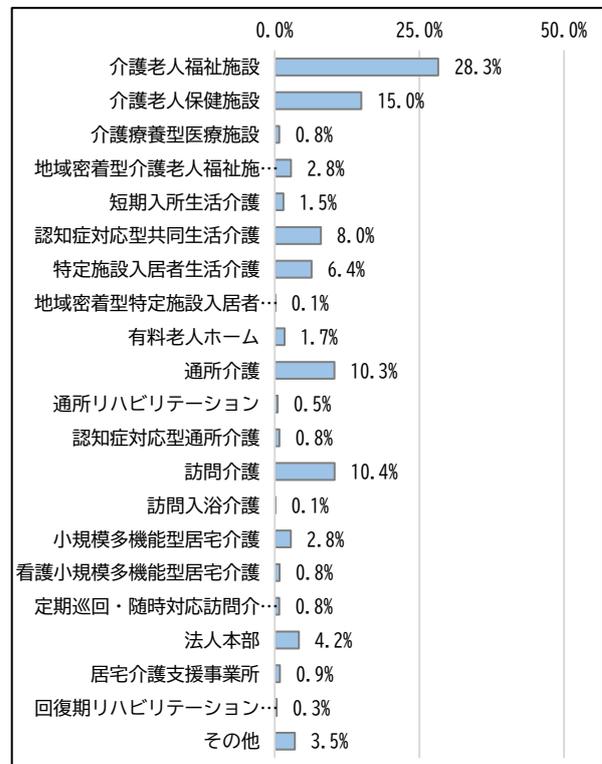
6. 事故発生防止		
項目		評価項目
①	緊急時・事故発見時の対応	事故が発生した時は、上司にすみやかに、事故発生時の状況を具体的に（いつ、どこで、誰が、どのように、どうしたか等）報告する
②	介護職種における事故防止のための教育	身体介護業務に伴う安全衛生に関し、事故防止、安全対策（リスク管理、車いすの点検等）の詳細な知識を有する
③	介護職種における疾病・腰痛予防	身体的快適性や健康および身体的・精神的な安寧を確保する（例えば、バランスのとれた食事をする、健康を害するものを避ける、予防摂取を受ける、定期的な健康診断を受ける、ボディメカニクス等を活用する）

2. 介護技術評価 自己評価・他者評価実施結果

(1) 実施結果概要

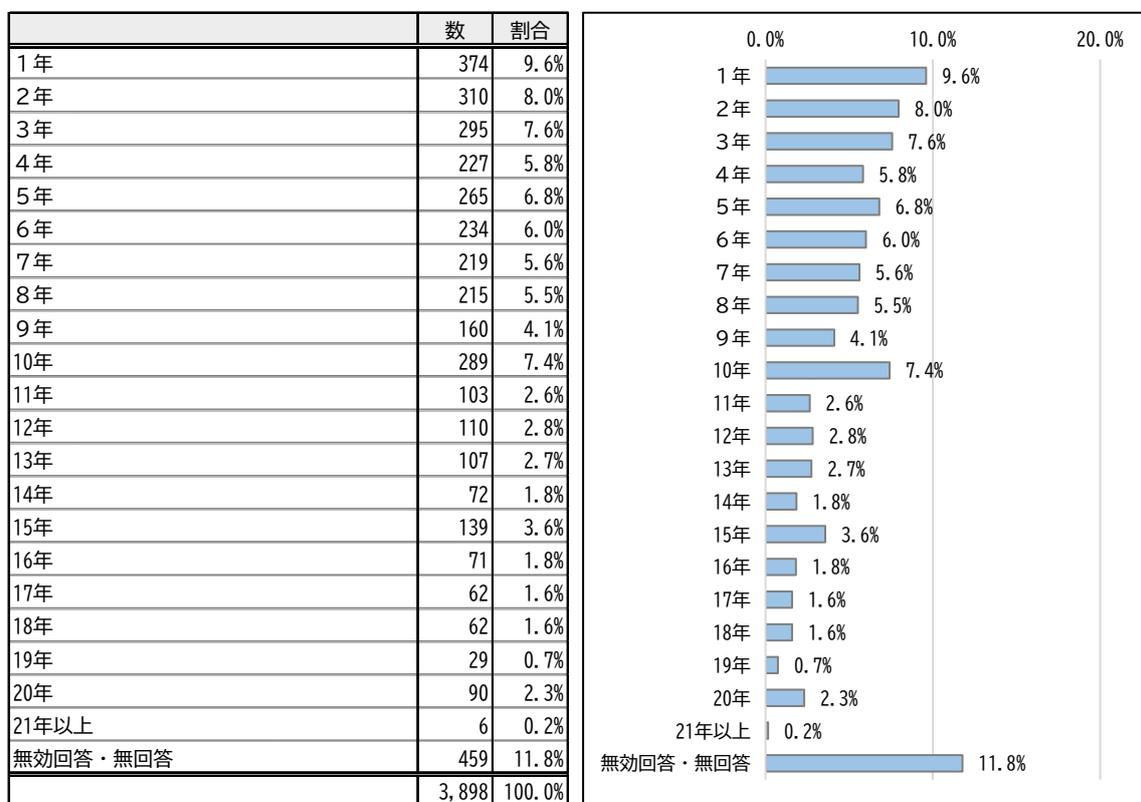
本評価実施結果として、有効件数は3,898件となり、介護サービス事業内容ごとの件数は以下の通りとなった。なお、以降の分析について、回答数の多い「介護老人福祉施設」「介護老人保健施設」といった施設系、並びに「通所介護」「訪問介護」といった在宅系、「認知症対応型共同生活介護（以降、グループホームという）」「特定施設入居者生活介護（以降、特定施設という）」といった居住系について、サービス種別ごとの分析における分類項目とし、分析を進めることとした。

	数	割合
介護老人福祉施設	1,102	28.3%
介護老人保健施設	583	15.0%
介護療養型医療施設	31	0.8%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	110	2.8%
短期入所生活介護	59	1.5%
認知症対応型共同生活介護	311	8.0%
特定施設入居者生活介護	248	6.4%
地域密着型特定施設入居者生活介護	5	0.1%
有料老人ホーム	66	1.7%
通所介護	402	10.3%
通所リハビリテーション	20	0.5%
認知症対応型通所介護	32	0.8%
訪問介護	404	10.4%
訪問入浴介護	5	0.1%
小規模多機能型居宅介護	109	2.8%
看護小規模多機能型居宅介護	33	0.8%
定期巡回・随時対応訪問介護看護	31	0.8%
法人本部	163	4.2%
居宅介護支援事業所	35	0.9%
回復期リハビリテーション病棟	13	0.3%
その他	136	3.5%
	3,898	100.0%



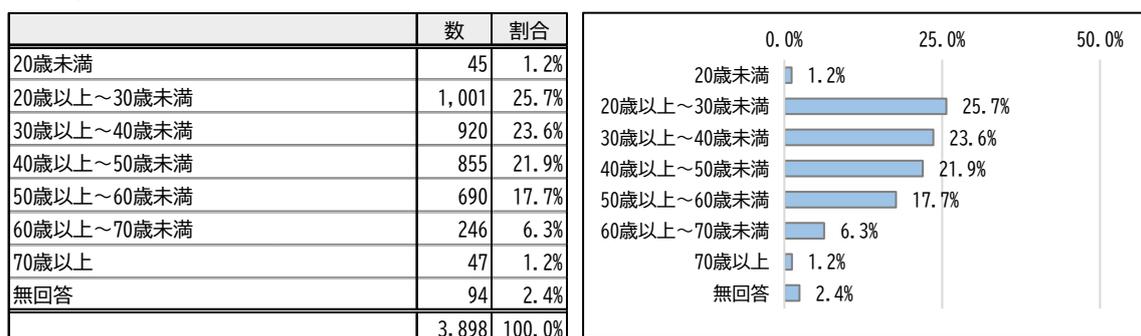
第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

次の着目視点として「介護職員としての経験年数」を取り上げた。今回の評価における介護職員の介護職員としての経験年数は以下の通りとなった。



その他、介護職員の年齢、勤務形態、現在の事業所における経験年数、保有資格、アセッサー講習受講状況、レベル認定取得状況は以下の通りとなっている。

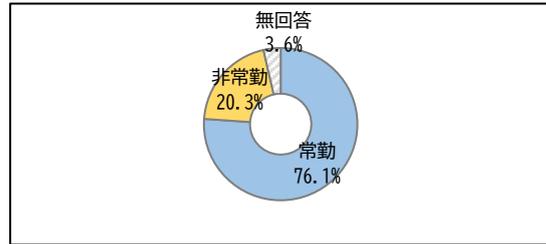
<年齢>



第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

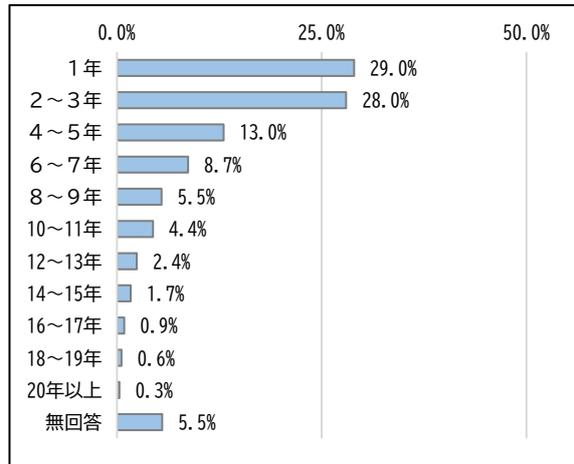
<勤務形態>

	数	割合
常勤	2,967	76.1%
非常勤	791	20.3%
無回答	140	3.6%
	3,898	100.0%



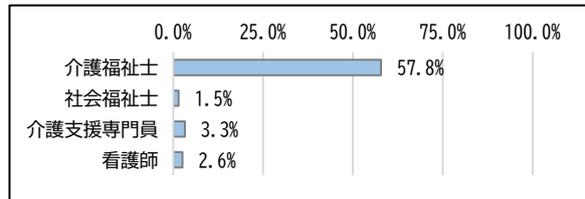
<現在の事業所における経験年数>

	数	割合
1年	1,129	29.0%
2～3年	1,091	28.0%
4～5年	508	13.0%
6～7年	339	8.7%
8～9年	213	5.5%
10～11年	172	4.4%
12～13年	95	2.4%
14～15年	66	1.7%
16～17年	35	0.9%
18～19年	22	0.6%
20年以上	12	0.3%
無回答	216	5.5%
	3,898	100.0%



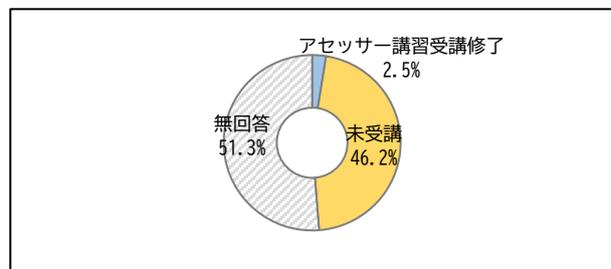
<保有資格>

	数	割合
介護福祉士	2,254	57.8%
社会福祉士	60	1.5%
介護支援専門員	128	3.3%
看護師	101	2.6%
	3,898	



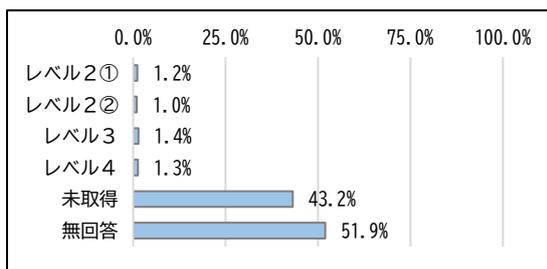
<アセッサー講習受講状況>

	数	割合
アセッサー講習受講修了	99	2.5%
未受講	1,801	46.2%
無回答	1,998	51.3%
	3,898	100.0%



<レベル認定取得状況>

	数	割合
レベル2①	45	1.2%
レベル2②	38	1.0%
レベル3	56	1.4%
レベル4	51	1.3%
未取得	1,683	43.2%
無回答	2,025	51.9%
	3,898	100.0%



(2) 自己評価・他者評価実施結果

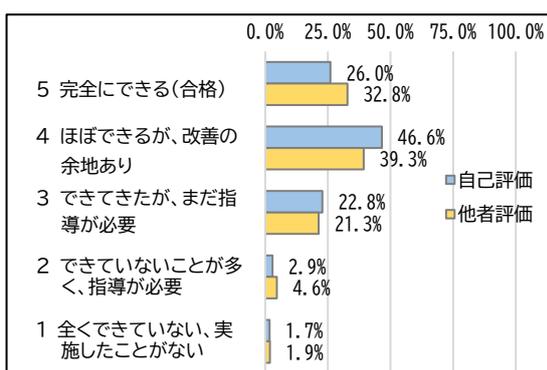
介護技術評価項目ごとの自己評価・他者評価結果は以下の通りとなった。

1. 入浴介助

① 体調の確認等

介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始めることに同意を得るとともに、声をかけて、利用者の状態を確認する

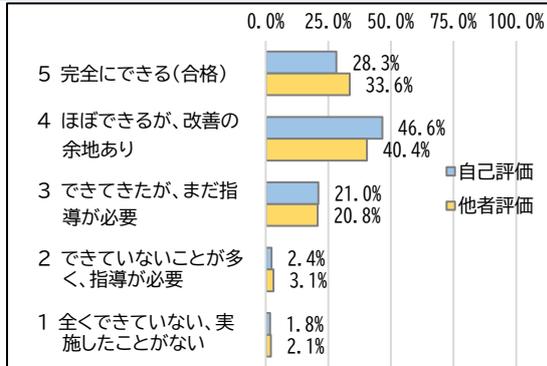
	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,014	26.0%	1,272	32.8%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,815	46.6%	1,523	39.3%
3 できてきたが、まだ指導が必要	888	22.8%	825	21.3%
2 できていないことが多く、指導が必要	113	2.9%	180	4.6%
1 全くできていない、実施したことがない	68	1.7%	73	1.9%
	3,898	100.0%	3,873	100.0%



② 衣服着脱の介助

気候条件に合わせて、順序だった衣服と履き物の着脱の介助を行う

自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,101	28.3%	1,300	33.6%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,815	46.6%	1,565	40.4%
3 できてきたが、まだ指導が必要	819	21.0%	804	20.8%
2 できていないことが多く、指導が必要	92	2.4%	121	3.1%
1 全くできていない、実施したことがない	70	1.8%	80	2.1%
	3,897	100.0%	3,870	100.0%

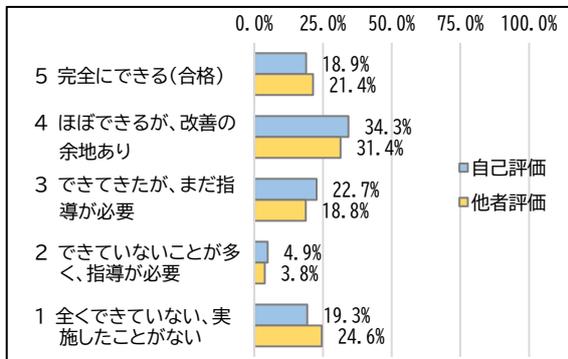


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

③ 手浴の介助

清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、手浴の介助を行う

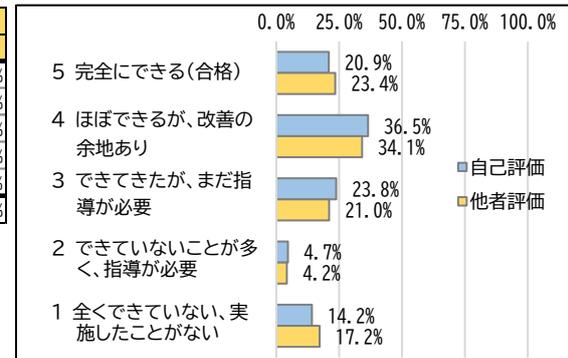
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	732	18.9%	824	21.4%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,330	34.3%	1,211	31.4%
3 できてきたが、まだ指導が必要	879	22.7%	723	18.8%
2 できていないことが多く、指導が必要	190	4.9%	148	3.8%
1 全くできていない、実施したことがない	748	19.3%	947	24.6%
	3,879	100.0%	3,853	100.0%



④ 足浴の介助

清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、足浴の介助を行う

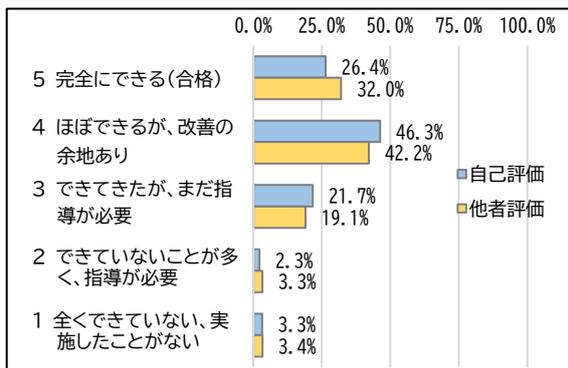
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	811	20.9%	904	23.4%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,416	36.5%	1,316	34.1%
3 できてきたが、まだ指導が必要	924	23.8%	810	21.0%
2 できていないことが多く、指導が必要	181	4.7%	162	4.2%
1 全くできていない、実施したことがない	550	14.2%	664	17.2%
	3,882	100.0%	3,856	100.0%



⑤ 入浴の介助

清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、入浴の介助を行う

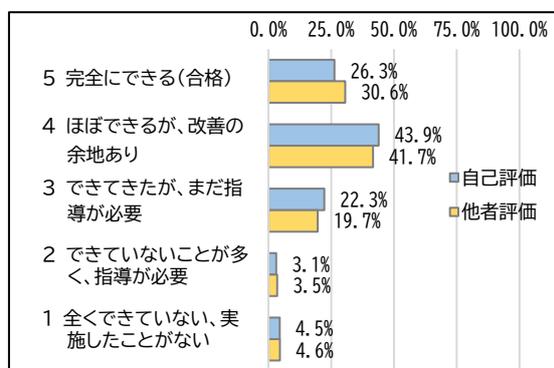
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,027	26.4%	1,237	32.0%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,800	46.3%	1,629	42.2%
3 できてきたが、まだ指導が必要	843	21.7%	736	19.1%
2 できていないことが多く、指導が必要	89	2.3%	129	3.3%
1 全くできていない、実施したことがない	128	3.3%	130	3.4%
	3,887	100.0%	3,861	100.0%



⑥ 整容（洗面）

清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を洗って拭き乾かす介助を行う

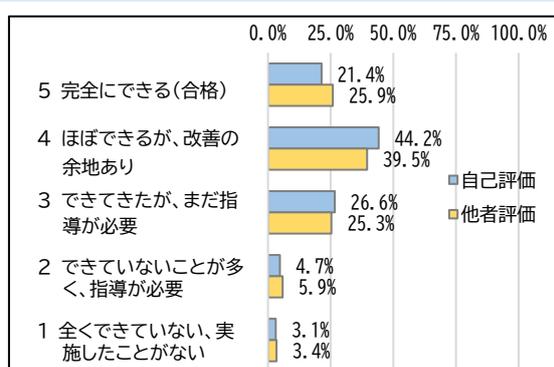
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる（合格）	1,021	26.3%	1,182	30.6%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,706	43.9%	1,609	41.7%
3 できてきたが、まだ指導が必要	866	22.3%	759	19.7%
2 できていないことが多く、指導が必要	120	3.1%	135	3.5%
1 全くできていない、実施したことがない	174	4.5%	176	4.6%
	3,887	100.0%	3,861	100.0%



⑦ 整容（洗髪等）

髪、頭皮、肌、爪などの身体部位の手入れの介助を行う

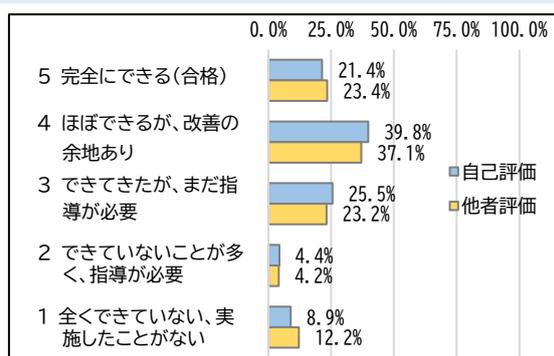
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる（合格）	830	21.4%	999	25.9%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,717	44.2%	1,526	39.5%
3 できてきたが、まだ指導が必要	1,035	26.6%	977	25.3%
2 できていないことが多く、指導が必要	184	4.7%	226	5.9%
1 全くできていない、実施したことがない	121	3.1%	133	3.4%
	3,887	100.0%	3,861	100.0%



⑧ 全身清拭

清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、全身を拭き乾かす

自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる（合格）	830	21.4%	903	23.4%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,546	39.8%	1,429	37.1%
3 できてきたが、まだ指導が必要	992	25.5%	894	23.2%
2 できていないことが多く、指導が必要	171	4.4%	160	4.2%
1 全くできていない、実施したことがない	345	8.9%	469	12.2%
	3,884	100.0%	3,855	100.0%

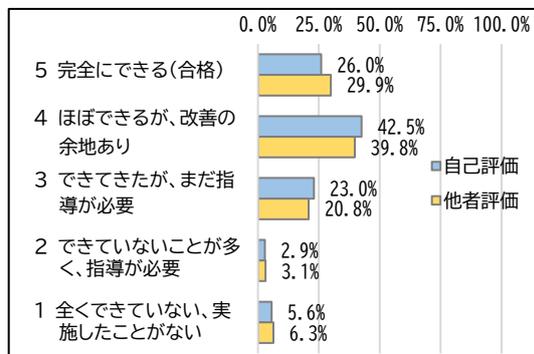


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

⑨ 顔の清拭

清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を拭き乾かす

自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,010	26.0%	1,155	29.9%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,653	42.5%	1,536	39.8%
3 できてきたが、まだ指導が必要	893	23.0%	804	20.8%
2 できていないことが多く、指導が必要	111	2.9%	120	3.1%
1 全くできていない、実施したことがない	219	5.6%	245	6.3%
	3,886	100.0%	3,860	100.0%

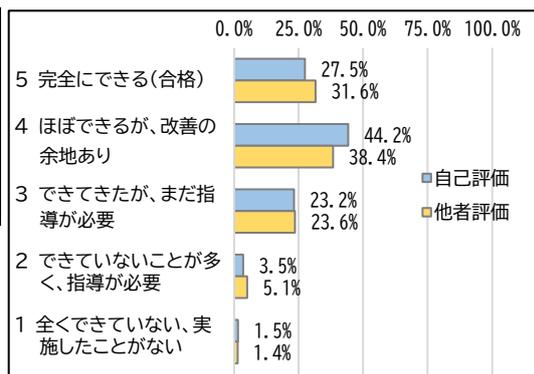


2. 食事介助

① 体調の確認等

介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始めることに同意を得るとともに、声をかけて、利用者の状態を確認する

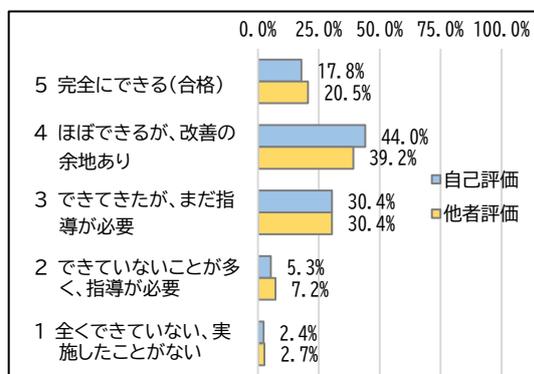
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,070	27.5%	1,222	31.6%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,724	44.2%	1,485	38.4%
3 できてきたが、まだ指導が必要	906	23.2%	914	23.6%
2 できていないことが多く、指導が必要	137	3.5%	197	5.1%
1 全くできていない、実施したことがない	60	1.5%	54	1.4%
	3,897	100.0%	3,872	100.0%



② 食事の介助

食事の摂取のプロセスやメカニズムを理解し、それを踏まえた食事の介助を行う

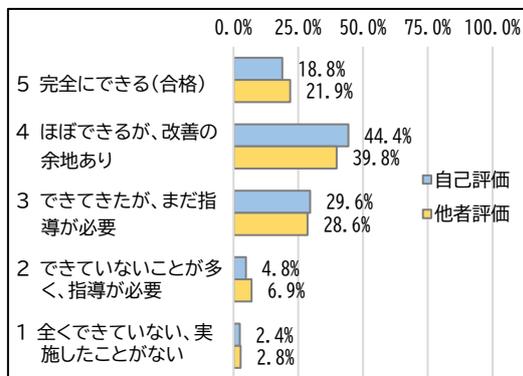
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	693	17.8%	793	20.5%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,712	44.0%	1,513	39.2%
3 できてきたが、まだ指導が必要	1,183	30.4%	1,174	30.4%
2 できていないことが多く、指導が必要	207	5.3%	278	7.2%
1 全くできていない、実施したことがない	92	2.4%	103	2.7%
	3,887	100.0%	3,861	100.0%



③ 口腔ケア

口腔内の清掃の介助とチェックを行う

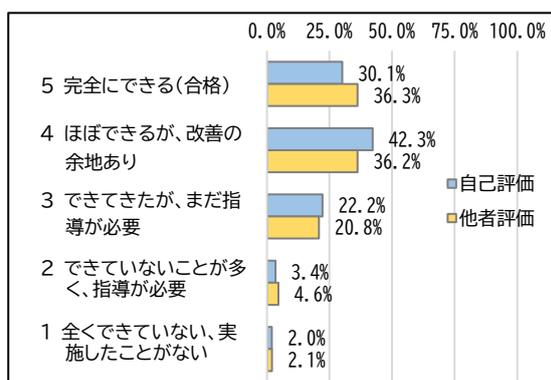
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	731	18.8%	845	21.9%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,726	44.4%	1,538	39.8%
3 できてきたが、まだ指導が必要	1,150	29.6%	1,103	28.6%
2 できていないことが多く、指導が必要	186	4.8%	268	6.9%
1 全くできていない、実施したことがない	94	2.4%	107	2.8%
	3,887	100.0%	3,861	100.0%



④ 食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告

自分で対応した事柄を記録し、報告する

自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,173	30.1%	1,403	36.3%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,647	42.3%	1,402	36.2%
3 できてきたが、まだ指導が必要	866	22.2%	806	20.8%
2 できていないことが多く、指導が必要	134	3.4%	179	4.6%
1 全くできていない、実施したことがない	77	2.0%	80	2.1%
	3,897	100.0%	3,870	100.0%

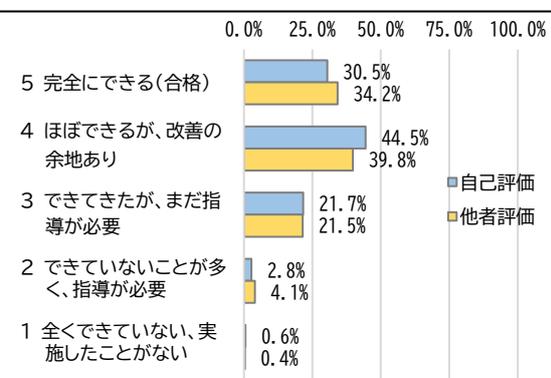


3. 排泄介助

① 体調の確認等

介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始めることに同意を得るとともに、声をかけて、利用者の状態を確認する

自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,188	30.5%	1,325	34.2%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,733	44.5%	1,541	39.8%
3 できてきたが、まだ指導が必要	844	21.7%	833	21.5%
2 できていないことが多く、指導が必要	108	2.8%	157	4.1%
1 全くできていない、実施したことがない	23	0.6%	15	0.4%
	3,896	100.0%	3,871	100.0%

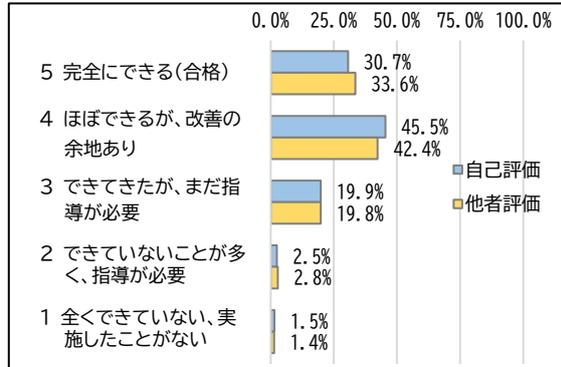


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

② トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助

トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介助を行う

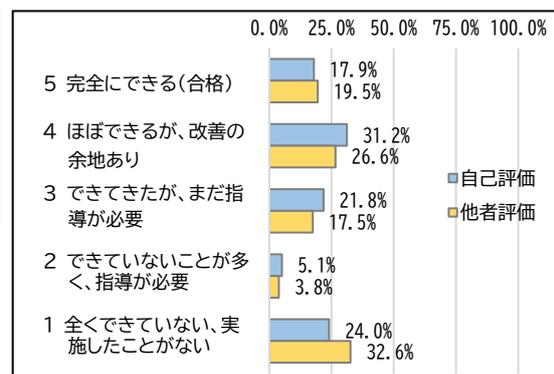
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,193	30.7%	1,298	33.6%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,769	45.5%	1,638	42.4%
3 できてきたが、まだ指導が必要	773	19.9%	767	19.8%
2 できていないことが多く、指導が必要	97	2.5%	110	2.8%
1 全くできていない、実施したことがない	59	1.5%	53	1.4%
	3,891	100.0%	3,866	100.0%



③ 尿器・便器を用いた介助

尿器・便器を用いて排泄の介助を行う

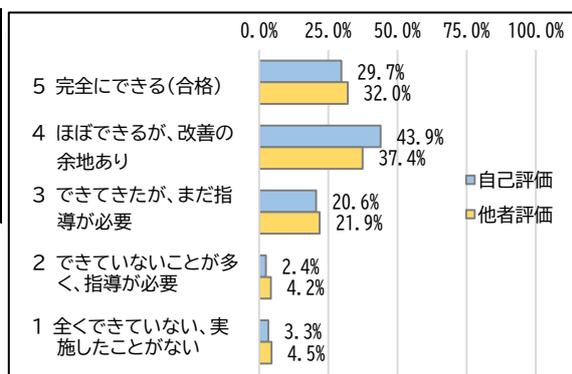
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	695	17.9%	749	19.5%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,209	31.2%	1,023	26.6%
3 できてきたが、まだ指導が必要	845	21.8%	671	17.5%
2 できていないことが多く、指導が必要	196	5.1%	147	3.8%
1 全くできていない、実施したことがない	931	24.0%	1,254	32.6%
	3,876	100.0%	3,844	100.0%



④ おむつ交換

おむつを交換する

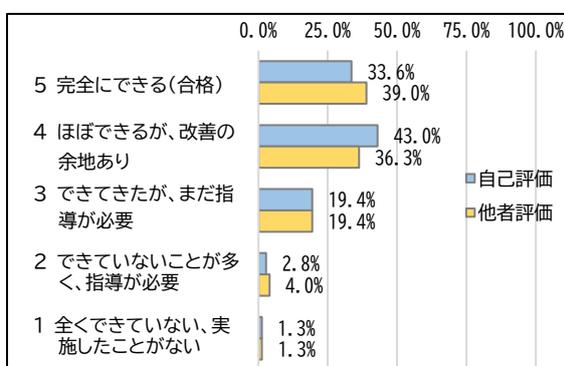
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,155	29.7%	1,236	32.0%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,706	43.9%	1,444	37.4%
3 できてきたが、まだ指導が必要	800	20.6%	845	21.9%
2 できていないことが多く、指導が必要	95	2.4%	163	4.2%
1 全くできていない、実施したことがない	129	3.3%	172	4.5%
	3,885	100.0%	3,860	100.0%



⑤ 食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告

自分で対応した事柄を記録し、報告する

自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,307	33.6%	1,508	39.0%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,673	43.0%	1,403	36.3%
3 できてきたが、まだ指導が必要	757	19.4%	751	19.4%
2 できていないことが多く、指導が必要	108	2.8%	156	4.0%
1 全くできていない、実施したことがない	49	1.3%	50	1.3%
	3,894	100.0%	3,868	100.0%

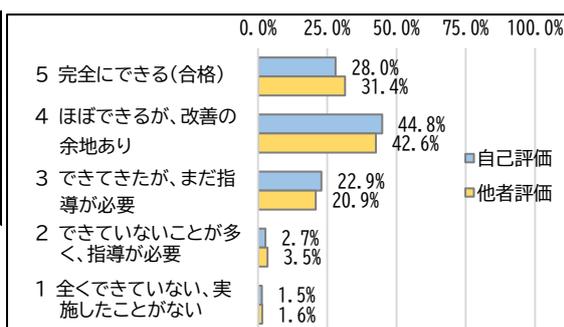


4. 移乗・移動・体位変換

① 起居の介助

ベッドから起き上がったり、起き上がった後の座位を保持するよう介助を行う

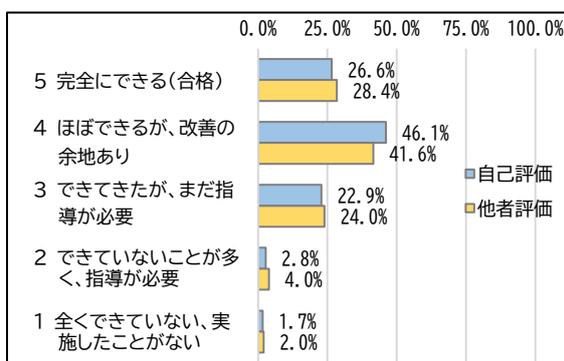
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,090	28.0%	1,214	31.4%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,743	44.8%	1,645	42.6%
3 できてきたが、まだ指導が必要	892	22.9%	808	20.9%
2 できていないことが多く、指導が必要	105	2.7%	135	3.5%
1 全くできていない、実施したことがない	57	1.5%	61	1.6%
	3,887	100.0%	3,863	100.0%



② 車いすへの移乗の介助

ベッドから車椅子へ移乗の介助を行う

自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,032	26.6%	1,097	28.4%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,792	46.1%	1,607	41.6%
3 できてきたが、まだ指導が必要	889	22.9%	926	24.0%
2 できていないことが多く、指導が必要	107	2.8%	153	4.0%
1 全くできていない、実施したことがない	66	1.7%	79	2.0%
	3,886	100.0%	3,862	100.0%

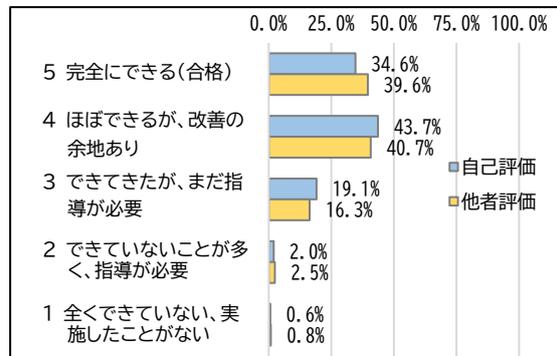


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

③ 車いす移動の介助

車いすを用いた移動の介助を行う

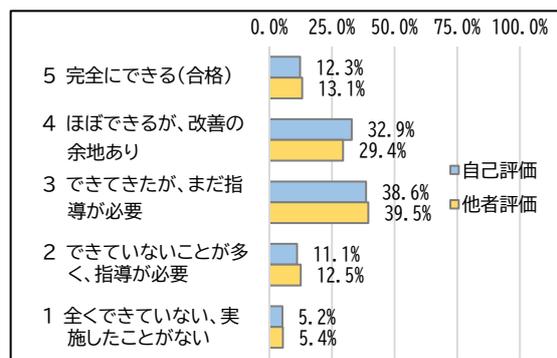
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,349	34.6%	1,534	39.6%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,701	43.7%	1,577	40.7%
3 できてきたが、まだ指導が必要	743	19.1%	633	16.3%
2 できていないことが多く、指導が必要	78	2.0%	96	2.5%
1 全くできていない、実施したことがない	25	0.6%	32	0.8%
	3,896	100.0%	3,872	100.0%



④ 福祉用具の使用方法及び点検業務

福祉用具の使用方法を理解し、福祉用具が安全に使えるか点検を行う

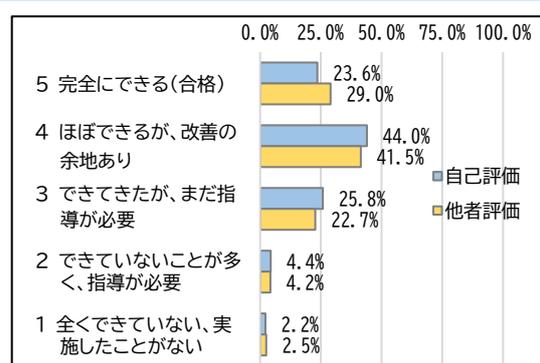
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	477	12.3%	505	13.1%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,276	32.9%	1,136	29.4%
3 できてきたが、まだ指導が必要	1,498	38.6%	1,525	39.5%
2 できていないことが多く、指導が必要	430	11.1%	484	12.5%
1 全くできていない、実施したことがない	202	5.2%	209	5.4%
	3,883	100.0%	3,859	100.0%



⑤ 歩行の介助

歩行(常に片方の足が地面についた状態で、一步一步足を動かす)の介助を行う

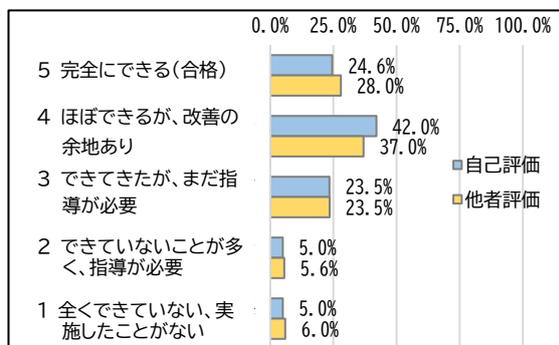
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	919	23.6%	1,124	29.0%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,713	44.0%	1,607	41.5%
3 できてきたが、まだ指導が必要	1,007	25.8%	880	22.7%
2 できていないことが多く、指導が必要	171	4.4%	164	4.2%
1 全くできていない、実施したことがない	87	2.2%	98	2.5%
	3,897	100.0%	3,873	100.0%



⑥ 体位変換

利用者がベッド寝ている生活が続くときに、姿勢を変えて体を移動させる

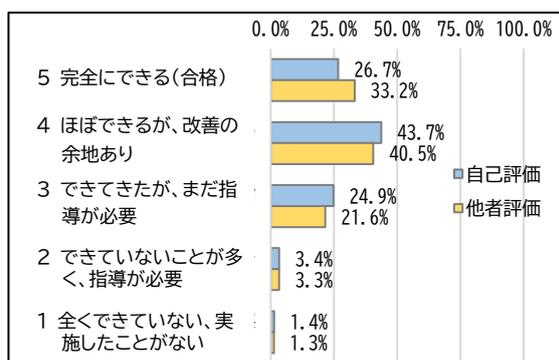
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	953	24.6%	1,078	28.0%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,631	42.0%	1,426	37.0%
3 できてきたが、まだ指導が必要	911	23.5%	907	23.5%
2 できていないことが多く、指導が必要	193	5.0%	215	5.6%
1 全くできていない、実施したことがない	193	5.0%	230	6.0%
	3,881	100.0%	3,856	100.0%



⑦ 体位変換

立位になったり、立位を保持するよう介助を行う

自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	1,040	26.7%	1,285	33.2%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,703	43.7%	1,568	40.5%
3 できてきたが、まだ指導が必要	968	24.9%	836	21.6%
2 できていないことが多く、指導が必要	131	3.4%	129	3.3%
1 全くできていない、実施したことがない	53	1.4%	51	1.3%
	3,895	100.0%	3,869	100.0%

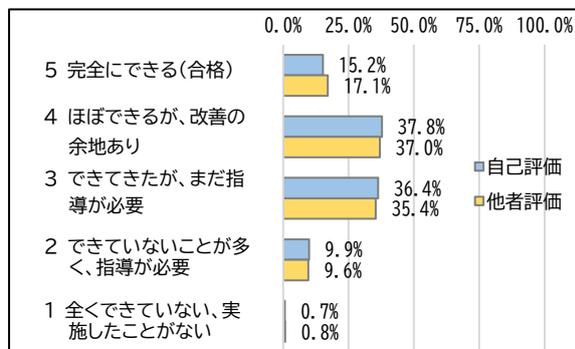


5. 感染症対策・衛生管理

① 安全衛生教育

身体介護業務に伴う安全衛生に関し、感染対策（適切な手洗い、健康上のリスクへの対応、疾病予防に必要な知識、自己ケア等）の詳細な知識を有する

自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	593	15.2%	663	17.1%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,473	37.8%	1,434	37.0%
3 できてきたが、まだ指導が必要	1,416	36.4%	1,373	35.4%
2 できていないことが多く、指導が必要	387	9.9%	373	9.6%
1 全くできていない、実施したことがない	26	0.7%	31	0.8%
	3,895	100.0%	3,874	100.0%

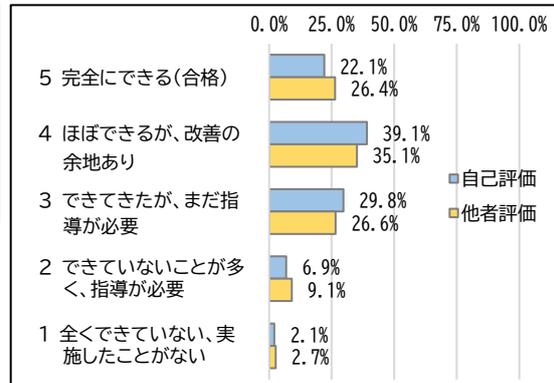


6. 事故発生防止

① 緊急時・事故発見時の対応

事故が発生した時は、上司にすみやかに、事故発生時の状況を具体的に（いつ、どこで、誰が、どのように、どうしたか等）報告する

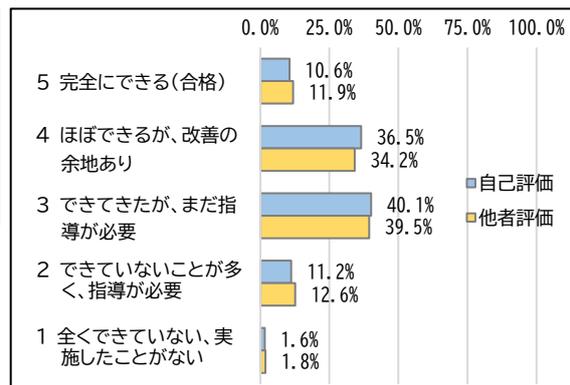
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	861	22.1%	1,024	26.4%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,525	39.1%	1,362	35.1%
3 できてきたが、まだ指導が必要	1,160	29.8%	1,032	26.6%
2 できていないことが多く、指導が必要	268	6.9%	354	9.1%
1 全くできていない、実施したことがない	83	2.1%	103	2.7%
	3,897	100.0%	3,875	100.0%



② 介護職種における事故防止のための教育

身体介護業務に伴う安全衛生に関し、事故防止、安全対策（リスク管理、車いすの点検等）の詳細な知識を有する

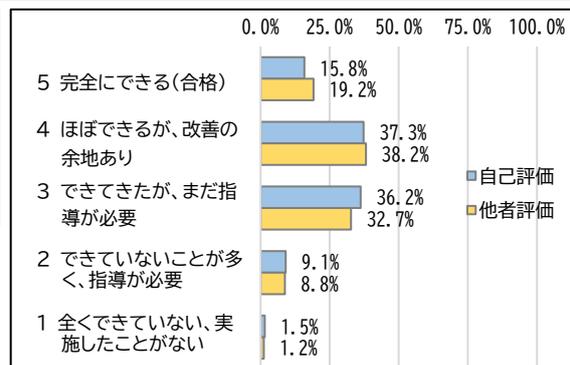
自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	412	10.6%	460	11.9%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,423	36.5%	1,325	34.2%
3 できてきたが、まだ指導が必要	1,563	40.1%	1,529	39.5%
2 できていないことが多く、指導が必要	436	11.2%	490	12.6%
1 全くできていない、実施したことがない	63	1.6%	71	1.8%
	3,897	100.0%	3,875	100.0%



③ 介護職種における疾病・腰痛予防

身体的快適性や健康および身体的・精神的な安寧を確保する（例えば、バランスのとれた食事をする、健康を害するものを避ける、予防摂取を受ける、定期的な健康診断を受ける、ボディメカニクス等を活用する）

自己評価	自己評価		他者評価	
	数	割合	数	割合
5 完全にできる(合格)	617	15.8%	742	19.2%
4 ほぼできるが、改善の余地あり	1,454	37.3%	1,478	38.2%
3 できてきたが、まだ指導が必要	1,412	36.2%	1,268	32.7%
2 できていないことが多く、指導が必要	355	9.1%	341	8.8%
1 全くできていない、実施したことがない	59	1.5%	45	1.2%
	3,897	100.0%	3,874	100.0%

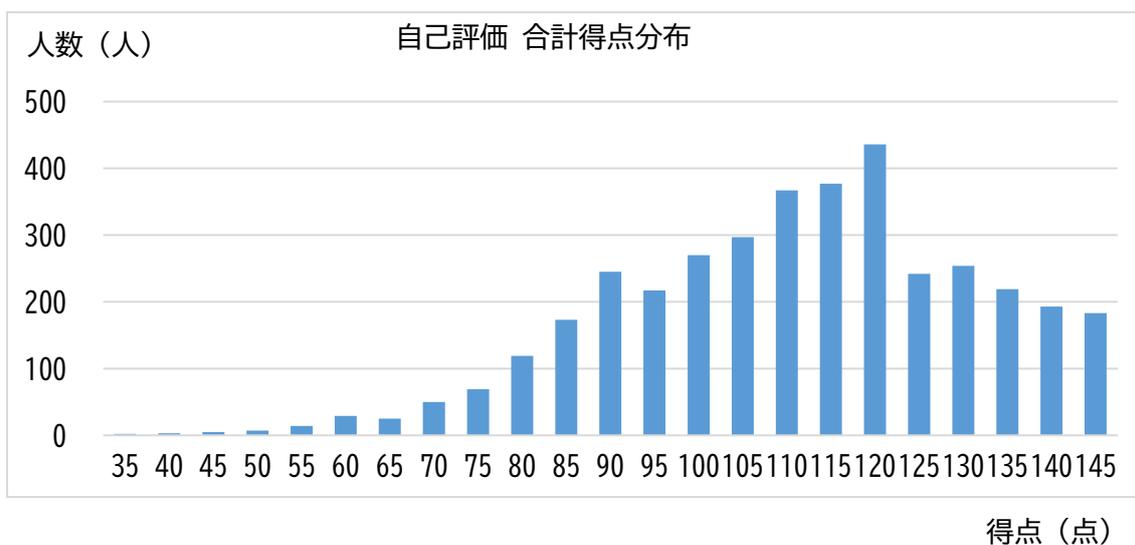


(3) 自己評価・他者評価分析 (分布比較)

評価点について1項目あたり5点満点、29項目の為、合計145満点とした、自己評価合計得点・他者評価合計得点の分布については以下の通りとなった。

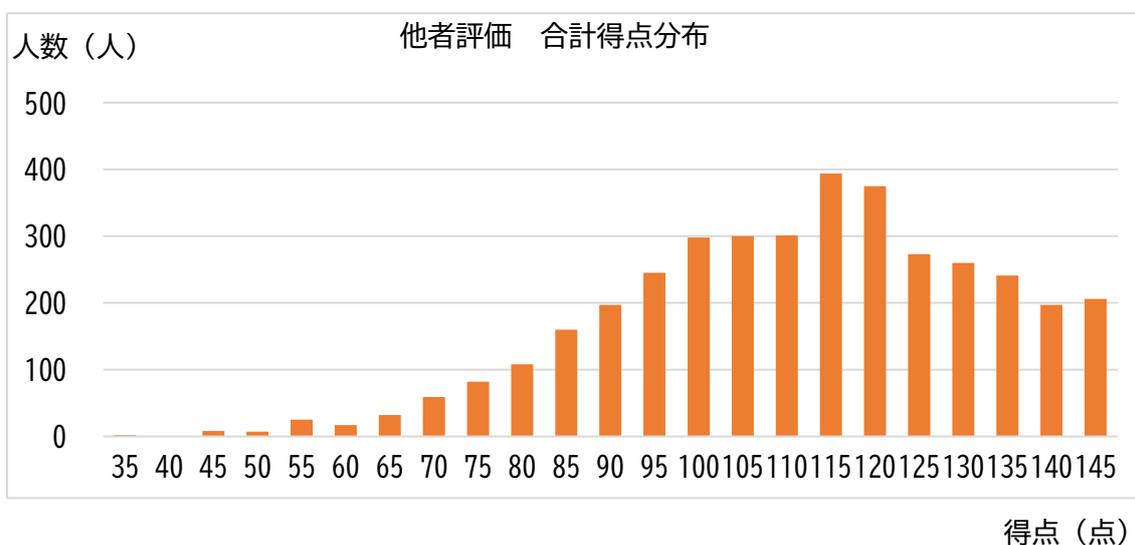
<自己評価 合計得点分布>

合計得点平均 108.9 標準偏差 20.8



<他者評価 合計得点分布>

合計得点平均 109.0 標準偏差 21.4



第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

(4) 自己評価・他者評価分析 (介護職員経験年数)

評価結果を踏まえ、自己評価・他者評価結果を「介護職員としての経験年数」にて集計分析をしたところ以下の通りとなった。

<対象人数>

介護職員経験年数 (年)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
人数 (人)	375	311	296	228	266	236	219	216	160	289	103	110	108	72	140	71	62	62	29	90

■ 1. 入浴介助

<自己評価 平均点数>

1. 入浴介助		自己評価 平均点																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
①	体調の確認等 介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	3.65	3.84	3.81	3.86	3.88	3.94	3.84	4.00	4.07	4.02	4.15	4.35	4.18	4.04	4.16	3.94	4.15	4.24	4.38	4.08
②	衣服着脱の介助 気候条件に合わせて、順序だった衣服と履き物の着脱の介助を行う	3.60	3.84	3.82	3.95	3.86	4.00	3.96	4.10	4.15	4.06	4.22	4.30	4.32	4.14	4.28	4.10	4.24	4.23	4.41	4.07
③	手浴の介助 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、手浴の介助を行う	2.67	3.01	3.15	3.19	3.10	3.28	3.46	3.45	3.45	3.48	3.58	3.66	3.70	3.58	3.70	3.45	3.68	3.61	4.00	3.71
④	足浴の介助 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、足浴の介助を行う	2.78	3.25	3.35	3.37	3.34	3.48	3.53	3.62	3.63	3.68	3.69	3.77	3.79	3.75	3.81	3.61	3.84	3.79	4.17	3.76
⑤	入浴の介助 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、入浴の介助を行う	3.52	3.75	3.82	3.90	3.75	3.91	3.92	4.07	4.12	3.95	4.07	4.35	4.13	4.14	4.19	4.03	4.21	4.35	4.45	4.04
⑥	整容 (洗面) 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を洗って拭き乾かす介助を行う	3.53	3.68	3.82	3.81	3.69	3.88	3.84	4.00	3.94	3.94	4.00	4.22	4.21	3.92	4.14	3.99	4.08	4.21	4.45	4.01
⑦	整容 (洗髪等) 髪、頭皮、肌、爪などの身体部位の手入れの介助を行う	3.39	3.61	3.64	3.74	3.63	3.72	3.78	3.90	3.97	3.88	3.97	4.17	4.09	3.99	4.04	3.82	4.05	4.13	4.34	3.89
⑧	全身清拭 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、全身を拭き乾かす	3.05	3.35	3.51	3.53	3.52	3.68	3.67	3.77	3.87	3.75	3.74	4.08	3.94	3.90	3.89	3.79	3.82	3.98	4.31	3.76
⑨	顔の清拭 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を拭き乾かす	3.48	3.68	3.69	3.77	3.65	3.78	3.81	3.93	3.97	3.91	3.83	4.27	4.15	3.97	4.13	3.92	4.13	4.06	4.34	3.98

<他者評価 平均点数>

1. 入浴介助		他者評価 平均点																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
①	体調の確認等 介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	3.57	3.82	3.80	3.88	3.96	4.01	4.00	4.09	4.09	4.11	4.06	4.36	4.30	4.26	4.12	3.94	4.11	4.37	4.45	4.22
②	衣服着脱の介助 気候条件に合わせて、順序だった衣服と履き物の着脱の介助を行う	3.49	3.81	3.85	3.87	3.96	4.00	4.06	4.14	4.16	4.17	4.24	4.39	4.45	4.35	4.30	4.27	4.39	4.39	4.34	4.24
③	手浴の介助 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、手浴の介助を行う	2.56	2.96	3.05	3.12	3.06	3.23	3.42	3.35	3.41	3.38	3.51	3.57	3.66	3.51	3.63	3.46	3.35	3.66	3.86	3.73
④	足浴の介助 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、足浴の介助を行う	2.67	3.19	3.29	3.35	3.40	3.47	3.52	3.53	3.56	3.68	3.65	3.81	3.89	3.74	3.80	3.73	3.69	3.81	4.10	3.91
⑤	入浴の介助 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、入浴の介助を行う	3.41	3.73	3.87	3.91	3.89	4.00	4.04	4.12	4.20	4.16	4.19	4.45	4.32	4.24	4.29	4.11	4.40	4.37	4.38	4.16
⑥	整容 (洗面) 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を洗って拭き乾かす介助を行う	3.49	3.74	3.76	3.83	3.77	3.94	3.97	4.12	4.04	4.07	4.09	4.26	4.27	3.96	4.20	4.14	4.27	4.32	4.34	4.21
⑦	整容 (洗髪等) 髪、頭皮、肌、爪などの身体部位の手入れの介助を行う	3.29	3.59	3.62	3.71	3.70	3.72	3.90	3.92	4.04	3.92	4.01	4.30	4.12	4.11	4.14	3.86	4.15	4.13	4.34	4.06
⑧	全身清拭 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、全身を拭き乾かす	2.92	3.26	3.44	3.46	3.33	3.62	3.77	3.72	3.85	3.76	3.61	3.99	4.07	3.94	3.81	3.80	3.89	4.03	4.21	3.83
⑨	顔の清拭 清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を拭き乾かす	3.41	3.68	3.70	3.72	3.67	3.83	3.93	3.95	3.97	4.03	3.97	4.30	4.31	4.13	4.12	4.04	4.29	4.19	4.31	4.10

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

＜他者評価 偏差値＞ (平均点：3.9 標準偏差：0.4)

偏差値<40

偏差値>60

1. 入浴介助		他者評価 偏差値																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	40.9	47.5	47.1	49.1	51.4	52.8	52.6	54.8	54.8	55.6	54.0	62.3	60.6	59.6	55.8	50.9	55.5	62.5	64.6	58.5
② 衣服着脱の介助	気候条件に合わせて、順序だった衣服と履き物の着脱の介助を行う	38.7	47.3	48.3	49.0	51.4	52.3	54.0	56.4	56.7	57.2	58.8	63.1	64.6	61.9	60.6	59.7	62.9	62.9	61.8	59.1
③ 手浴の介助	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、手浴の介助を行う	13.4	24.1	26.6	28.5	27.1	31.5	36.7	34.9	36.5	35.5	39.1	40.7	43.2	39.3	42.3	37.9	34.9	43.3	48.7	45.2
④ 足浴の介助	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、足浴の介助を行う	16.4	30.6	33.1	34.8	36.3	38.1	39.4	39.6	40.6	43.7	42.9	47.3	49.4	45.3	47.0	45.2	44.1	47.2	55.2	50.0
⑤ 入浴の介助	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、入浴の介助を行う	36.5	45.0	48.9	50.0	49.4	52.3	53.5	55.7	57.9	56.7	57.5	64.8	61.1	58.8	60.4	55.5	63.4	62.5	62.7	56.7
⑥ 整容(洗面)	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を洗って拭き乾かす介助を行う	38.7	45.5	45.9	47.8	46.1	50.9	51.6	55.7	53.6	54.4	54.8	59.6	59.8	51.3	57.9	56.3	59.9	61.2	61.8	58.2
⑦ 整容(洗髪)	髪、頭皮、肌、爪などの身体部位の手入れの介助を行う	33.1	41.3	42.2	44.5	44.3	45.0	49.8	50.3	53.5	50.3	52.7	60.6	55.7	55.5	56.2	48.6	56.4	55.9	61.8	53.9
⑧ 全身清拭	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、全身を拭き乾かす	23.2	32.4	37.4	37.7	34.3	42.1	46.3	44.8	48.4	45.9	41.8	52.2	54.2	50.9	47.4	47.1	49.4	53.3	58.1	47.9
⑨ 顔の清拭	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を拭き乾かす	36.4	43.8	44.3	44.9	43.5	47.9	50.5	51.0	51.6	53.2	51.6	60.6	60.8	55.8	55.8	53.6	60.3	57.7	60.9	55.2

入浴介助全般として、介護職員の経験年数で見ると、1年目の介護職員は「できていない」と評価されており、2年目以降11年目あたりまでは平均的、12年目以上にて平均点より高く「できている」と評価されている。

一方、「手浴の介助」については経験年数に関係なく「できていない」と評価されていることから、介護現場において実施されていない傾向にあるといえる。また、「足浴の介助」については8年目、「全身清拭」については5年目まで平均点より低く出ていることから、これらの介護についてはある程度の経験年数を積まないで経験しない、あるいは経験を積んだ職員が実施している、といったことがあるといえる。

＜自己評価・他者評価平均点差＞ (計算式：他者評価平均点－自己評価平均点)

自己評価・他者評価 平均点差<0

1. 入浴介助		平均点差 (他者評価－自己評価)																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	-0.07	-0.02	-0.01	0.02	0.08	0.08	0.16	0.08	0.02	0.09	-0.09	0.02	0.12	0.22	-0.04	0.00	-0.03	0.13	0.07	0.14
② 衣服着脱の介助	気候条件に合わせて、順序だった衣服と履き物の着脱の介助を行う	-0.11	-0.03	0.02	-0.08	0.11	-0.01	0.10	0.04	0.01	0.12	0.01	0.09	0.13	0.21	0.02	0.17	0.15	0.16	-0.07	0.18
③ 手浴の介助	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、手浴の介助を行う	-0.11	-0.05	-0.10	-0.07	-0.03	-0.05	-0.04	-0.10	-0.04	-0.11	-0.07	-0.09	-0.04	-0.07	-0.07	0.01	-0.32	0.05	-0.14	0.02
④ 足浴の介助	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、足浴の介助を行う	-0.10	-0.05	-0.06	-0.02	0.07	-0.01	-0.01	-0.09	-0.07	0.00	-0.04	0.04	0.09	-0.01	-0.01	0.13	-0.15	0.02	-0.07	0.16
⑤ 入浴の介助	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、入浴の介助を行う	-0.11	-0.02	0.04	0.01	0.14	0.09	0.12	0.05	0.08	0.21	0.12	0.11	0.19	0.10	0.10	0.08	0.19	0.02	-0.07	0.11
⑥ 整容(洗面)	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を洗って拭き乾かす介助を行う	-0.04	0.06	-0.06	0.02	0.08	0.07	0.12	0.13	0.10	0.13	0.09	0.05	0.06	0.04	0.06	0.15	0.19	0.11	-0.10	0.20
⑦ 整容(洗髪)	髪、頭皮、肌、爪などの身体部位の手入れの介助を行う	-0.10	-0.02	-0.02	-0.04	0.06	0.00	0.12	0.02	0.07	0.04	0.04	0.13	0.03	0.13	0.10	0.04	0.10	0.00	0.00	0.17
⑧ 全身清拭	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、全身を拭き乾かす	-0.13	-0.09	-0.07	-0.08	-0.19	-0.06	0.11	-0.05	-0.02	0.01	-0.13	-0.09	0.12	0.04	-0.08	0.01	0.06	0.05	-0.10	0.08
⑨ 顔の清拭	清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を拭き乾かす	-0.07	0.00	0.01	-0.05	0.03	0.06	0.12	0.01	0.00	0.12	0.14	0.03	0.16	0.15	-0.01	0.13	0.16	0.13	-0.03	0.12

入浴介助全般として、介護職員の経験年数で見ると、1年目から4年目あたりまで、自己評価が高く他者評価では低く出ている、すなわち、自分では「できている」と思っているが、他者からすると「できていない」と評価される傾向にあるといえる。

一方、「介護をする前の体調確認等」については経験年数に関係なく、自分では「できている」と思っているが、他者からすると「できていない」と評価される傾向、すなわち、自分では「やっているつもり」と思う傾向にあり、言い換えると、ベテランになると、介護を

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

行う前の利用者アセスメント、すなわち、根拠に基づく介護の第一歩である根拠情報取得について「省略してしまう」傾向があると読み取れ、注意が必要である。

■ 2. 食事介助

<自己評価 平均点数>

2. 食事介助 項目	評価項目	自己評価 平均点																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	3.65	3.83	3.81	3.93	3.88	3.99	3.89	4.01	4.00	4.03	4.11	4.29	4.15	4.13	4.16	3.89	4.10	4.24	4.38	4.10
② 食事の介助	食事の摂取のプロセスやメカニズムを理解し、それを踏まえた食事の介助を行う	3.37	3.51	3.56	3.63	3.56	3.69	3.68	3.82	3.81	3.83	3.78	4.06	4.01	3.92	3.99	3.83	3.87	4.00	4.38	3.90
③ 口腔ケア	口腔内の清掃の介助とチェックを行う	3.44	3.58	3.61	3.70	3.63	3.70	3.70	3.86	3.87	3.82	3.94	4.04	3.92	3.88	3.96	3.70	4.05	3.87	4.28	3.89
④ 食事や排泄等チェックリスト等	自分で対応した事柄を記録し、報告する	3.61	3.85	3.79	3.93	3.81	3.94	3.90	4.17	4.03	4.06	4.30	4.31	4.22	4.24	4.14	3.96	4.26	4.23	4.38	4.09

<他者評価 平均点数>

2. 食事介助 項目	評価項目	他者評価 平均点																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	3.54	3.82	3.77	3.92	3.88	4.03	3.97	4.13	4.01	4.08	4.12	4.22	4.27	4.22	4.19	3.90	3.98	4.39	4.45	4.18
② 食事の介助	食事の摂取のプロセスやメカニズムを理解し、それを踏まえた食事の介助を行う	3.20	3.43	3.42	3.59	3.52	3.71	3.78	3.86	3.83	3.91	3.81	4.08	4.19	4.00	4.06	3.90	3.74	4.15	4.31	4.07
③ 口腔ケア	口腔内の清掃の介助とチェックを行う	3.24	3.51	3.55	3.63	3.60	3.72	3.78	3.89	3.83	3.95	3.88	4.09	4.08	3.94	4.17	3.66	3.97	3.97	4.17	3.94
④ 食事や排泄等チェックリスト等	自分で対応した事柄を記録し、報告する	3.58	3.83	3.77	3.93	3.88	4.02	4.06	4.27	4.14	4.23	4.31	4.30	4.35	4.32	4.22	4.10	4.29	4.31	4.28	4.26

<他者評価 偏差値> (平均点 : 3.9 標準偏差 : 0.4)

偏差値 < 40



偏差値 > 60



2. 食事介助 項目	評価項目	他者評価 偏差値																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	40.0	47.6	46.1	50.3	49.0	53.3	51.6	56.1	52.8	54.5	55.7	58.4	59.9	58.5	57.5	49.8	52.0	62.9	64.6	57.3
② 食事の介助	食事の摂取のプロセスやメカニズムを理解し、それを踏まえた食事の介助を行う	30.7	37.0	36.7	41.3	39.5	44.6	46.4	48.7	47.7	49.9	47.3	54.7	57.6	52.4	54.0	49.8	45.4	56.4	60.9	54.3
③ 口腔ケア	口腔内の清掃の介助とチェックを行う	31.9	39.1	40.2	42.4	41.6	45.0	46.5	49.4	47.7	51.0	49.2	54.9	54.5	50.9	56.9	43.3	51.6	51.6	57.1	50.9
④ 食事や排泄等チェックリスト等	自分で対応した事柄を記録し、報告する	40.9	47.8	46.3	50.6	49.2	52.9	54.0	59.9	56.2	58.7	60.8	60.6	61.9	61.1	58.5	55.1	60.3	60.8	59.9	59.4

食事介助について「食事の介助」では1年目から5年目まで、「口腔ケア」では1年目から2年目まで「できていない」と評価される傾向にあり、12年目以降にならないと平均点以上にならないことから、これらの介助については、介護現場における介護技術の習得の難しさ、また、OJT実施の難しさがあると読み取れる。

一方で、「自身が実施した事柄の記録・報告」については、1年目からできるようになっており、4年目以降、平均点より高くなっていることから、介護記録・報告については早い段階からOJTが実施され、できるようになっている、といえる。

したがって、介護現場において介護記録自体は適切に残されているが、根拠に基づく介護として「食事の介助」や「口腔ケア」を行う際の情報としての活用がされていない可能性が読み取れる。

<自己評価・他者評価平均点差> (計算式：他者評価平均点－自己評価平均点)

自己評価・他者評価 平均点差<0

2. 食事介助		平均点差 (他者評価－自己評価)																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	-0.11	-0.01	-0.05	-0.01	-0.00	0.04	0.08	0.12	0.01	0.04	0.01	-0.07	0.12	0.10	0.03	0.01	-0.11	0.15	0.07	0.08
② 食事の介助	食事の摂取のプロセスやメカニズムを理解し、それを踏まえた食事の介助を行う	-0.17	-0.08	-0.14	-0.04	-0.04	0.02	0.10	0.04	0.01	0.08	0.04	0.02	0.18	0.08	0.06	0.07	-0.13	0.15	-0.07	0.17
③ 口腔ケア	口腔内の清掃の介助とチェックを行う	-0.20	-0.07	-0.06	-0.07	-0.03	0.03	0.08	0.03	-0.04	0.12	-0.06	0.05	0.16	0.07	0.20	-0.04	-0.08	0.10	-0.10	0.06
④ 食事や排泄等チェックリスト等	自分で対応した事柄を記録し、報告する	-0.03	-0.03	-0.02	0.00	0.07	0.08	0.16	0.11	0.11	0.17	0.01	-0.01	0.12	0.08	0.08	0.14	0.03	0.08	-0.10	0.17

食事介助全般として、介護職員の経験年数で見ると、1年目から5年目あたりまで、自己評価が高く他者評価では低く出ている、すなわち、自分では「できている」と思っているが、他者からすると「できていない」と評価される傾向にあるといえる。

一方、「介護をする前の体調確認等」については経験年数に関係なく、自分では「できている」と思っているが、他者からすると「できていない」と評価される傾向、すなわち、自分では「やっているつもり」と思う傾向にあり、言い換えると、ベテランになると、介護を行う前の利用者アセスメント、すなわち、根拠に基づく介護の第一歩である根拠情報取得について「省略してしまう」傾向があると読み取れ、注意が必要である。

また、「口腔ケア」についても経験年数に関係なく、自分では「できている」と思っているが、他者からすると「できていない」と評価される傾向にあり、ベテランになると、口腔ケアと実施後の口腔内チェックが「雑になってしまう」傾向があると読み取れ、注意が必要である。

■ 3. 排泄介助

<自己評価 平均点数>

3. 排泄介助		自己評価 平均点																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	3.74	3.88	3.84	4.02	3.99	4.05	4.00	4.15	4.14	4.09	4.27	4.38	4.21	4.19	4.22	4.04	4.16	4.35	4.48	4.11
② トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助	トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介助を行う	3.66	3.84	3.88	3.93	3.96	4.09	3.98	4.17	4.16	4.10	4.27	4.36	4.34	4.25	4.23	4.17	4.26	4.23	4.41	4.23
③ 尿器・便器を用いた介助	尿器・便器を用いて排泄の介助を行う	2.63	2.84	3.01	3.06	3.05	3.12	3.25	3.32	3.28	3.19	3.59	3.51	3.70	3.31	3.17	3.37	3.52	3.50	3.28	3.72
④ おむつ交換	おむつを交換する	3.60	3.79	3.79	3.88	3.79	3.90	3.92	4.09	4.16	4.00	4.13	4.39	4.16	4.13	4.22	4.13	4.18	4.18	4.45	4.21
⑤ 食事や排泄等チェックリスト等	自分で対応した事柄を記録し、報告する	3.72	3.92	3.93	4.09	3.96	4.09	4.00	4.21	4.17	4.14	4.25	4.35	4.31	4.31	4.23	4.01	4.19	4.26	4.38	4.17

<他者評価 平均点数>

3. 排泄介助		他者評価 平均点																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	3.66	3.85	3.82	4.01	4.03	4.09	4.07	4.20	4.17	4.22	4.23	4.32	4.33	4.33	4.23	4.06	4.02	4.44	4.52	4.38
② トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助	トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介助を行う	3.56	3.84	3.87	3.94	4.07	4.13	4.10	4.23	4.21	4.21	4.24	4.41	4.46	4.32	4.37	4.13	4.18	4.34	4.41	4.40
③ 尿器・便器を用いた介助	尿器・便器を用いて排泄の介助を行う	2.36	2.69	2.83	3.01	2.84	2.98	3.09	3.19	3.18	3.09	3.29	3.23	3.65	3.14	3.04	3.36	3.06	3.44	3.03	3.78
④ おむつ交換	おむつを交換する	3.42	3.73	3.65	3.77	3.71	3.85	3.99	4.07	4.08	4.08	4.10	4.25	4.25	4.14	4.19	4.06	4.06	4.40	4.52	4.36
⑤ 食事や排泄等チェックリスト等	自分で対応した事柄を記録し、報告する	3.63	3.90	3.90	4.03	3.95	4.15	4.20	4.33	4.24	4.28	4.32	4.27	4.39	4.44	4.32	4.15	4.27	4.24	4.31	4.33

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

＜他者評価 偏差値＞ (平均点：3.9 標準偏差：0.4)

偏差値<40

偏差値>60

3. 排泄介助		他者評価 偏差値																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	43.1	48.2	47.5	52.7	53.4	54.9	54.5	57.7	57.0	58.3	58.6	61.1	61.3	61.5	58.7	54.0	52.9	64.3	66.5	62.7
② トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助	トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介助を行う	40.6	48.1	49.0	50.8	54.3	55.9	55.1	58.8	58.2	58.2	58.8	63.5	64.9	61.1	62.6	55.9	57.3	61.6	63.7	63.3
③ 尿器・便器を用いた介助	尿器・便器を用いて排泄の介助を行う	7.9	16.8	20.8	25.5	21.1	24.7	27.9	30.5	30.1	27.8	33.1	31.5	43.1	29.1	26.3	35.0	27.1	37.1	26.2	46.4
④ おむつ交換	おむつを交換する	36.8	45.0	42.8	46.3	44.6	48.5	52.1	54.3	54.5	54.5	55.1	59.3	59.3	56.2	57.5	54.0	54.2	63.4	66.5	62.1
⑤ 食事や排泄等チェックリスト等	自分で対応した事柄を記録し、報告する	42.3	49.7	49.9	53.3	51.1	56.4	57.8	61.4	58.9	60.1	61.0	59.8	63.1	64.5	61.0	56.6	59.9	59.0	60.9	61.5

排泄介助について「トイレでの介助」「自身が実施した事柄の記録・報告」では、1年目からできるようになっており、4年目以降、平均点より高くなっていることから、トイレ介助や介護記録・報告については早い段階からOJTが実施され、できるようになっている、といえる。

一方で、「おむつ交換」については、1年目で「できていない」と評価され、7年目以降にならないと平均点以上になっていないが、施設等において「おむつゼロ運動」や「オムツ外しへの取り組み」などが進められているため、技術習得について、おむつ交換だけの技術だけでなく、その点についても考慮する必要がある。

「尿器・便器を用いた介助」については経験年数に関係なく平均点が低いことから、当該介助についてはあまりされていないといえる。

＜自己評価・他者評価平均点差＞ (計算式：他者評価平均点－自己評価平均点)

自己評価・他者評価 平均点差<0

3. 排泄介助		平均点差 (他者評価－自己評価)																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 体調の確認等	介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始める	-0.08	-0.04	-0.02	-0.01	0.05	0.04	0.07	0.04	0.03	0.12	-0.05	-0.06	0.11	0.14	0.01	0.01	-0.15	0.08	0.03	0.27
② トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助	トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介助を行う	-0.10	-0.01	-0.00	0.01	0.11	0.03	0.12	0.07	0.05	0.11	-0.04	0.05	0.12	0.07	0.14	-0.04	-0.08	0.11	0.00	0.17
③ 尿器・便器を用いた介助	尿器・便器を用いて排泄の介助を行う	-0.27	-0.16	-0.18	-0.05	-0.21	-0.14	-0.16	-0.13	-0.11	-0.10	-0.31	-0.28	-0.05	-0.17	-0.13	-0.01	-0.45	-0.06	-0.24	0.06
④ おむつ交換	おむつを交換する	-0.17	-0.06	-0.14	-0.11	-0.08	-0.05	0.06	-0.02	-0.08	0.08	-0.03	-0.14	0.09	0.01	-0.03	-0.07	-0.11	0.23	0.07	0.14
⑤ 食事や排泄等チェックリスト等	自分で対応した事柄を記録し、報告する	-0.09	-0.02	-0.02	-0.06	-0.01	0.06	0.19	0.12	0.07	0.14	0.06	-0.07	0.08	0.14	0.09	0.14	0.08	-0.02	-0.07	0.17

排泄介助全般として、経験年数に関係なく、自分では「できている」と思っているが、他者からすると「できていない」と評価される傾向にある。これについては排泄介助実施時における「プライバシーへの配慮」がされていない可能性があるといえ、ベテランになってもそのあたりの配慮がされない、ともするとそれがあたり前の介助となっている可能性があり、注意が必要である。

また、介護記録についても自分では「できている」と思っているが、他者からすると「できていない」と評価される傾向となっており、この点については、排泄記録として残すべき必要な情報が記録されていない可能性、つまり、排泄の有無だけの記録にとどまっており、排泄時の利用者の様子や介助状況について記録されておらず、根拠に基づく介護の情報が適切に残されていない可能性があると考えられる。

■ 4. 移乗・移動・体位変換

<自己評価 平均点数>

項目	評価項目	自己評価 平均点																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 起居の介助	ベッドから起き上がったり、起き上がった後の座位を保持するよう介助を行う	3.61	3.78	3.81	3.97	3.85	3.97	3.96	4.09	4.14	4.04	4.12	4.38	4.21	4.07	4.19	4.18	4.18	4.23	4.66	4.16
② 車いすへの移乗の介助	ベッドから車椅子へ移乗の介助を行う	3.62	3.73	3.83	3.91	3.85	3.94	3.88	4.08	4.12	4.03	4.08	4.40	4.16	4.03	4.12	4.18	4.11	4.19	4.59	4.02
③ 車いす移動の介助	車いすを用いた移動の介助を行う	3.82	3.97	4.00	4.07	4.05	4.12	4.01	4.18	4.23	4.18	4.16	4.48	4.27	4.18	4.32	4.23	4.29	4.42	4.62	4.22
④ 福祉用具の使用方法及び点検業	福祉用具の使用方法を理解し、福祉用具が安全に使えるか点検を行う	2.98	3.21	3.22	3.23	3.25	3.36	3.45	3.54	3.48	3.49	3.61	3.73	3.70	3.54	3.70	3.46	3.61	3.82	4.07	3.60
⑤ 歩行の介助	歩行(常に片方の足が地面にいた状態で、一歩一歩足を動かす)の介助を行う	3.47	3.65	3.68	3.81	3.71	3.87	3.81	3.96	3.96	3.97	4.00	4.14	4.07	3.99	4.17	3.86	3.92	4.06	4.48	3.97
⑥ 体位変換	利用者がベッド寝ている生活が続くときに、姿勢を変えて体を移動させる	3.44	3.61	3.58	3.70	3.66	3.68	3.84	3.92	3.85	3.87	3.81	4.15	4.07	3.86	4.10	3.87	4.02	4.11	4.34	4.01
⑦ 立位の介助	立位になったり、立位を保持するよう介助を行う	3.57	3.71	3.79	3.89	3.83	3.94	3.89	4.11	4.08	4.01	4.10	4.31	4.17	4.07	4.17	4.06	4.00	4.23	4.52	3.96

<他者評価 平均点数>

項目	評価項目	他者評価 平均点																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 起居の介助	ベッドから起き上がったり、起き上がった後の座位を保持するよう介助を行う	3.51	3.72	3.85	3.94	3.91	4.06	4.05	4.18	4.18	4.19	4.22	4.45	4.35	4.22	4.32	4.14	4.15	4.32	4.59	4.36
② 車いすへの移乗の介助	ベッドから車椅子へ移乗の介助を行う	3.45	3.61	3.73	3.88	3.83	3.93	4.01	4.07	4.03	4.11	4.20	4.36	4.26	4.19	4.25	4.10	3.97	4.27	4.45	4.11
③ 車いす移動の介助	車いすを用いた移動の介助を行う	3.75	3.97	4.05	4.13	4.09	4.23	4.23	4.31	4.23	4.31	4.31	4.49	4.41	4.35	4.45	4.32	4.29	4.47	4.55	4.38
④ 福祉用具の使用方法及び点検業	福祉用具の使用方法を理解し、福祉用具が安全に使えるか点検を行う	2.85	3.12	3.13	3.35	3.19	3.34	3.50	3.51	3.47	3.50	3.52	3.75	3.71	3.65	3.59	3.45	3.52	3.66	3.86	3.64
⑤ 歩行の介助	歩行(常に片方の足が地面にいた状態で、一歩一歩足を動かす)の介助を行う	3.41	3.67	3.79	3.85	3.86	3.97	3.97	4.09	4.01	4.10	4.13	4.25	4.26	4.11	4.27	4.00	3.94	4.18	4.38	4.14
⑥ 体位変換	利用者がベッド寝ている生活が続くときに、姿勢を変えて体を移動させる	3.27	3.52	3.51	3.73	3.57	3.75	3.91	3.93	3.91	3.97	3.90	4.05	4.28	3.90	4.20	3.82	3.82	4.27	4.41	4.23
⑦ 立位の介助	立位になったり、立位を保持するよう介助を行う	3.54	3.78	3.83	4.00	3.90	4.09	4.06	4.24	4.18	4.17	4.21	4.42	4.40	4.26	4.35	4.11	4.03	4.34	4.55	4.26

<他者評価 偏差値> (平均点 : 3.9 標準偏差 : 0.4)

偏差値 < 40



偏差値 > 60



項目	評価項目	他者評価 偏差値																			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 起居の介助	ベッドから起き上がったり、起き上がった後の座位を保持するよう介助を行う	39.2	44.8	48.5	50.9	50.1	54.0	53.8	57.4	57.4	57.5	58.3	64.5	61.8	58.5	61.0	56.3	56.4	61.2	68.3	62.1
② 車いすへの移乗の介助	ベッドから車椅子へ移乗の介助を行う	37.6	42.0	45.2	49.3	47.9	50.6	52.8	54.5	53.1	55.6	57.8	62.3	59.5	57.7	59.3	55.1	51.6	59.9	64.6	55.5
③ 車いす移動の介助	車いすを用いた移動の介助を行う	45.7	51.6	53.7	55.9	55.0	58.6	58.8	60.8	58.7	60.9	61.0	65.8	63.6	61.9	64.7	61.2	60.3	65.1	67.4	62.7
④ 福祉用具の使用方法及び点検業	福祉用具の使用方法を理解し、福祉用具が安全に使えるか点検を行う	21.2	28.5	28.9	34.8	30.6	34.4	38.8	39.2	38.0	38.9	39.4	45.5	44.6	43.0	41.3	37.5	39.3	43.3	48.7	42.8
⑤ 歩行の介助	歩行(常に片方の足が地面にいた状態で、一歩一歩足を動かす)の介助を行う	36.4	43.5	46.6	48.4	48.7	51.7	51.7	54.8	52.6	55.2	55.9	59.1	59.5	55.5	59.7	52.4	50.7	57.3	62.7	56.4
⑥ 体位変換	利用者がベッド寝ている生活が続くときに、姿勢を変えて体を移動させる	32.7	39.5	39.0	45.0	40.8	45.6	49.9	50.4	49.9	51.7	49.8	53.9	60.1	49.8	57.9	47.5	47.5	59.9	63.7	58.8
⑦ 立位の介助	立位になったり、立位を保持するよう介助を行う	39.9	46.6	47.9	52.6	49.7	55.0	54.1	59.0	57.2	57.2	58.0	63.8	63.3	59.6	62.0	55.5	53.3	61.6	67.4	59.4

移乗・移動・体位変換について「車いす移動の介助」は、1年目からできるようになっており、2年目以降より平均点より高くなっていることから、「車いす移動の介助」については早い段階からOJTが実施され、できるようになっている、といえる。

また、「起居の介助」「車いすへの移動の介助」「歩行の介助」「立位の介助」については、1年目ではできていないと評価され、5～6年目で平均を上回る傾向にあることから、これらの介護技術については3～4年かけOJTが実施され、できるようになる傾向にあるといえる。

「体位変換については」3年目まで「できていない」と評価され、8年目以降で平均を上

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

回る傾向にあることから、他の移乗・移動等の介助と比較すると、介護技術の習得が難しい傾向にあるといえる。

一方、「福祉用具の使用方法的理解及び用具の安全点検」について、経験年数に関係なく「できていない」と評価されていることから、ベテラン層においても福祉用具の使用方法的理解をし、日々の安全チェックについて実施されていない傾向にあるといえる。福祉用具について、基本的には福祉用具業者にメンテナンスを依頼している、ということから「やっていない」ということが良く聞かれるが、昨今増加傾向にある福祉用具利用時の事故について、こうした福祉用具の適切な使用方法的理解であり、日々の安全チェックを実施していない限り、減らすことは困難であると考えられ、注意が必要である。すなわち、定期的な福祉用具に関する安全チェック実施の確認、OJTが必要であるといえる。

<自己評価・他者評価平均点差> (計算式：他者評価平均点－自己評価平均点)

自己評価・他者評価 平均点差<0

4. 移乗・移動・体位変換		平均点差 (他者評価－自己評価)																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
①	起居の介助 ベッドから起き上がった後、起き上がった後の座位を保持するよう介助を行う	-0.10	-0.06	0.05	-0.03	0.06	0.09	0.09	0.09	0.04	0.14	0.10	0.06	0.14	0.15	0.12	-0.04	-0.03	0.10	-0.07	0.20
②	車いすへの移乗の介助 ベッドから車椅子へ移乗の介助を行う	-0.16	-0.11	-0.10	-0.02	-0.02	-0.00	0.13	-0.00	-0.09	0.08	0.12	-0.04	0.10	0.17	0.13	-0.08	-0.15	0.08	-0.14	0.09
③	車いす移動の介助 車いすを用いた移動の介助を行う	-0.06	0.00	0.05	0.06	0.05	0.10	0.22	0.13	0.01	0.13	0.16	0.01	0.14	0.17	0.14	0.10	0.00	0.05	-0.07	0.16
④	福祉用具の使用方法的理解及び点検 福祉用具の使用方法的理解し、福祉用具が安全に使えるか点検を行う	-0.13	-0.10	-0.09	0.12	-0.06	-0.03	0.04	-0.03	-0.01	0.01	-0.09	0.02	0.01	0.11	-0.11	-0.01	-0.10	-0.16	-0.21	0.04
⑤	歩行の介助 歩行(常に片方の足が地面についた状態で、一歩一歩足を動かす)の介助を行う	-0.06	0.01	0.10	0.04	0.15	0.10	0.16	0.13	0.04	0.13	0.13	0.11	0.20	0.13	0.09	0.14	0.02	0.11	-0.10	0.18
⑥	体位変換 利用者がベッド上で生活が続くときに、姿勢を変えて体を移動させる	-0.17	-0.08	-0.08	0.03	-0.09	0.06	0.06	0.00	0.06	0.11	0.10	-0.09	0.21	0.04	0.10	-0.06	-0.20	0.16	0.07	0.22
⑦	立位の介助 立位になつたり、立位を保持するよう介助を行う	-0.03	0.08	0.04	0.12	0.06	0.15	0.17	0.13	0.10	0.16	0.11	0.11	0.23	0.19	0.19	0.06	0.03	0.11	0.03	0.30

移乗・移動・体位変換について「車いすへの移動の介助」は経験年数に関係なく、自分では「できている」と思っているが、他者からすると「できていない」と評価される傾向にある。「車いすへの移動の介助」についてはボディメカニクスを理解し、てこの原理を使うなど、知識や技術力を必要とすることであるが、おそらくそのあたりを踏まえずに、力に任せて実施している、と読み取れる。「車いすへの移動の介助」については、介護者の腰痛を引き起こすことが多いため、介護職員の身体的負担軽減であり、怪我を防止するためにも、定期的な学習、新しい移動方法や新しい用具を使った移動の仕方など学習の機会を多く作り、OJTを実施していく必要があるといえる。

5. 感染症対策・衛生管理

<自己評価 平均点数>

5. 感染症対策・衛生管理		自己評価 平均点																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
①	安全衛生教育 身体介護業務に伴う安全衛生に関し、感染対策(適切な手洗い、健康上のリスク)	3.27	3.39	3.40	3.56	3.52	3.56	3.56	3.71	3.68	3.69	3.83	3.87	3.78	3.69	3.86	3.55	3.84	3.85	4.10	3.81

<他者評価 平均点数>

5. 感染症対策・衛生管理		他者評価 平均点																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 安全衛生教育	身体介護業務に伴う安全衛生に関し、感染対策（適切な手洗い、健康上のリスク）	3.13	3.39	3.34	3.56	3.57	3.59	3.64	3.76	3.76	3.84	3.85	3.86	3.91	3.89	3.91	3.65	3.87	3.94	4.10	3.90

<他者評価 偏差値> (平均点：3.9 標準偏差：0.4)

偏差値<40



偏差値>60



5. 感染症対策・衛生管理		他者評価 偏差値																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 安全衛生教育	身体介護業務に伴う安全衛生に関し、感染対策（適切な手洗い、健康上のリスク）	28.8	35.9	34.6	40.6	40.8	41.2	42.6	45.9	46.0	48.2	48.5	48.7	49.9	49.4	49.9	42.9	48.9	50.7	55.2	49.7

身体介護業務に伴う感染対策の詳細な知識を有することについて、経験年数に関係なく平均点が低くなっている。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対策の影響もあると考えられるが、改めて介護職員全般を確認したところ日々の感染症対策・衛生管理、いわゆるスタンダードプリコーションの理解がされていない傾向にあったといえる。

おそらく、この評価を実施した介護事業所・施設については、改めて危機感を共有し対策を実施したと考えられるが、本評価を実施していない介護事業所については、早急の実施し、スタンダードプリコーションの理解を促進するなど、対策を実施することが必須であると考えられる。

<自己評価・他者評価平均点差> (計算式：他者評価平均点－自己評価平均点)

自己評価・他者評価 平均点差<0



5. 感染症対策・衛生管理		平均点差 (他者評価－自己評価)																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 安全衛生教育	身体介護業務に伴う安全衛生に関し、感染対策（適切な手洗い、健康上のリスク）	-0.14	0.00	-0.06	0.01	0.05	0.03	0.07	0.05	0.09	0.15	0.02	-0.01	0.13	0.19	0.04	0.10	0.03	0.08	0.00	0.09

身体介護業務に伴う感染対策の詳細な知識を有することについて、他の項目と比較すると自己評価と他者評価の差異があまりない。このことについては、先の他者評価の結果と合わせて考察すると、介護職員自身も感染対策の詳細な知識を有していないことは自覚しているが、そのことについて学ぶ機会が無い、あるいは新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対策を実施する上で、改めて感染対策の詳細な知識を有していないことを認識したといえる。したがって、介護事業所・施設内だけの学習の機会だけでは不足すると考えられるため、自治体から、あるいは関係団体・機関からの感染対策に関する詳細な知識の情報提供を推進する必要があると考えられる。

6. 事故発生防止

<自己評価 平均点数>

6. 事故発生防止		自己評価 平均点																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 緊急時・事故発見時の対応	事故が発生した時は、上司にすみやかに、事故発生時の状況を具体的に(い	3.18	3.53	3.55	3.66	3.63	3.76	3.74	3.94	3.87	3.89	3.99	4.15	3.99	3.97	4.07	3.87	3.92	4.11	4.34	4.04
② 介護職種における事故防止のための教育	身体介護業務に伴う安全衛生に関し、事故防止、安全対策(リスク管理、車いす	3.05	3.24	3.26	3.40	3.43	3.48	3.49	3.57	3.54	3.58	3.67	3.75	3.59	3.58	3.70	3.46	3.68	3.79	3.97	3.71
③ 介護職種における疾病・腰痛予防	身体的快適性や健康および身体的・精神的な安寧を確保する(例えば、バランス	3.26	3.46	3.32	3.56	3.49	3.53	3.59	3.81	3.68	3.71	3.78	3.85	3.77	3.65	3.82	3.75	3.90	3.84	4.03	3.87

<他者評価 平均点数>

6. 事故発生防止		他者評価 平均点																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 緊急時・事故発見時の対応	事故が発生した時は、上司にすみやかに、事故発生時の状況を具体的に(い	3.04	3.48	3.57	3.70	3.61	3.84	3.82	3.93	3.84	4.01	4.11	4.13	4.12	4.15	4.11	4.03	3.89	4.26	4.31	4.14
② 介護職種における事故防止のための教育	身体介護業務に伴う安全衛生に関し、事故防止、安全対策(リスク管理、車いす	2.87	3.13	3.16	3.35	3.38	3.55	3.51	3.58	3.53	3.67	3.69	3.78	3.65	3.72	3.81	3.51	3.68	3.87	3.93	3.84
③ 介護職種における疾病・腰痛予防	身体的快適性や健康および身体的・精神的な安寧を確保する(例えば、バランス	3.17	3.55	3.46	3.62	3.55	3.62	3.73	3.90	3.78	3.88	3.95	3.94	3.95	3.90	3.93	3.82	3.92	4.02	4.17	4.03

<他者評価 偏差値> (平均点 : 3.9 標準偏差 : 0.4)

偏差値 < 40



偏差値 > 60



6. 事故発生防止		他者評価 偏差値																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 緊急時・事故発見時の対応	事故が発生した時は、上司にすみやかに、事故発生時の状況を具体的に(い	26.5	38.4	40.7	44.4	42.0	48.2	47.6	50.7	48.0	52.6	55.4	55.9	55.7	56.6	55.4	53.2	49.4	59.4	60.9	56.4
② 介護職種における事故防止のための教育	身体介護業務に伴う安全衛生に関し、事故防止、安全対策(リスク管理、車いす	21.8	29.0	29.7	34.7	35.5	40.1	39.2	41.0	39.6	43.4	43.9	46.5	43.1	44.9	47.4	39.1	43.7	48.9	50.6	48.2
③ 介護職種における疾病・腰痛予防	身体的快適性や健康および身体的・精神的な安寧を確保する(例えば、バランス	29.8	40.3	37.9	42.0	40.3	42.0	45.0	49.7	46.3	49.2	51.1	50.7	51.2	49.8	50.5	47.5	50.3	52.9	57.1	53.3

事故発生防止の取り組みのうち、「緊急時・事故発見時の報告」について、1・2年目では「できていない」と評価され、10年目において平均点以上となっていることから、事故発生時の報告業務について、介護現場で定着させることの難しさ、また、報告する仕組みはあるものの、事故が発生しないかぎり実施しない、事故が発生して初めて実施し学ぶといったことがあると考えられる。「緊急時・事故発見時の報告」についてはいかに早い段階からシミュレーションを行い迅速かつ適切に対応できる準備をしておく必要があるため、そうした手法によるOJTの実施が求められる。

また、「身体介護業務に関する事故防止、安全対策の詳細な知識を有すること」について経験年数に関係なく平均点以下となっていることから、自身の介護における安全管理について、具体的な安全対策の学習機会が無いと考えられる。介護職員が実施する介護に基づく事故については、実際に事故となっはじめて気づくケースが多いと考えられるため、介護事故をテーマとしたケースワークを実施するなど、学習の機会を増やし、事故につながる介護となっていないか日頃から予防する仕組み、また、早期発見し適切な介護へと修正する仕組みを構築することが求められる。

<自己評価・他者評価平均点差> (計算式：他者評価平均点－自己評価平均点)

自己評価・他者評価 平均点差<0



6. 事故発生防止		平均点差 (他者評価－自己評価)																			
項目	評価項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
① 緊急時・事故発見時の対応	事故が発生した時は、上司にすみやかに、事故発生時の状況を具体的に(しい	-0.14	-0.04	0.02	0.05	-0.02	0.08	0.08	-0.00	-0.03	0.12	0.12	-0.03	0.13	0.18	0.04	0.15	-0.03	0.15	-0.03	0.10
② 介護職種における事故防止のための教育	身体介護業務に伴う安全衛生に関し、事故防止、安全対策(リスク管理、車いす	-0.18	-0.11	-0.09	-0.05	-0.05	0.06	0.02	0.01	-0.02	0.09	0.02	0.03	0.07	0.14	0.12	0.04	0.00	0.08	-0.03	0.13
③ 介護職種における疾病・腰痛予防	身体的快適性や健康および身体的・精神的な安寧を確保する(例えば、バランス	-0.10	0.09	0.15	0.06	0.07	0.09	0.14	0.09	0.09	0.17	0.17	0.09	0.19	0.25	0.11	0.07	0.02	0.18	0.14	0.17

「緊急時・事故発見時の報告」、「身体介護業務に関する事故防止、安全対策の詳細な知識を有すること」について、他の項目と比較すると自己評価と他者評価の差異があまりない。このことについては、先の他者評価の結果と合わせて考察すると、介護職員自身もそのことができていないと自覚はしているものの、そのことについて学ぶ機会が無い、あるいは事故の対応については発生した際に学習するもの、事故発生予防は、現在事故が起っていないから予防の取り組みはしなくても良い、と考えているともいえる。したがって、介護事業所・施設内だけの学習の機会だけでは事故発生予防の取り組みが推進されにくいと考えられるため、自治体から、あるいは関係団体・機関から積極的に事故発生ケースに関する情報提供をはかり、介護事業所・施設内での学習の機会を創出する必要があると考えられる。

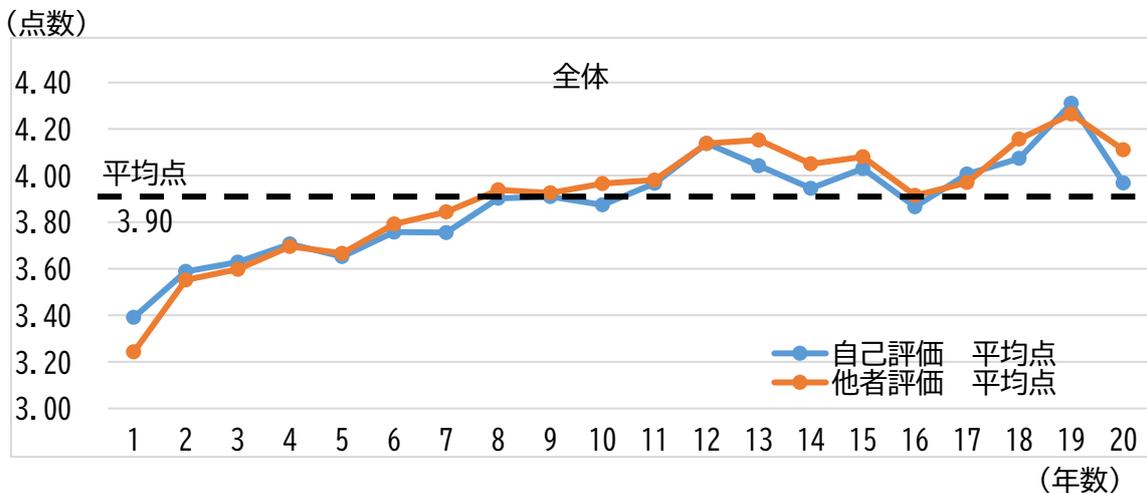
第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

次に、介護技術の評価項目について「全体」「入浴介助」「食事介助」「排泄介助」「移乗・移動・体位変換」「感染症対策・衛生管理」「事故発生防止」の区分において経験年数で集計しグラフ化をすると以下の通りとなった。

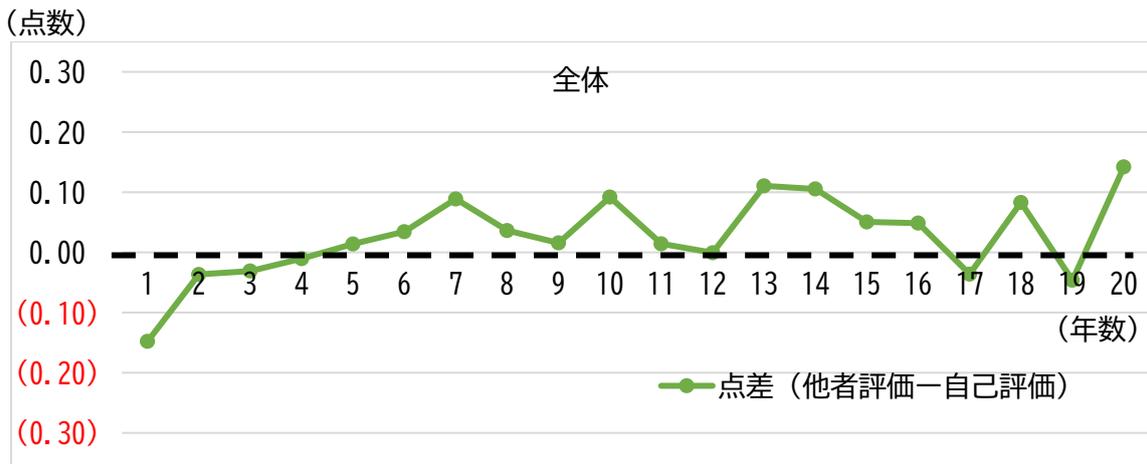
■ 全体

全体	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
自己評価 平均点	3.39	3.59	3.63	3.71	3.65	3.76	3.75	3.90	3.91	3.87	3.97	4.14	4.04	3.94	4.03	3.87	4.01	4.07	4.31	3.97
他者評価 平均点	3.24	3.55	3.60	3.70	3.67	3.79	3.84	3.94	3.93	3.97	3.98	4.14	4.15	4.05	4.08	3.91	3.97	4.16	4.26	4.11
点差 (他者評価-自己評価)	-0.15	-0.04	-0.03	-0.01	0.01	0.03	0.09	0.04	0.02	0.09	0.01	-0.00	0.11	0.11	0.05	0.05	-0.04	0.08	-0.05	0.14

<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>



<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>

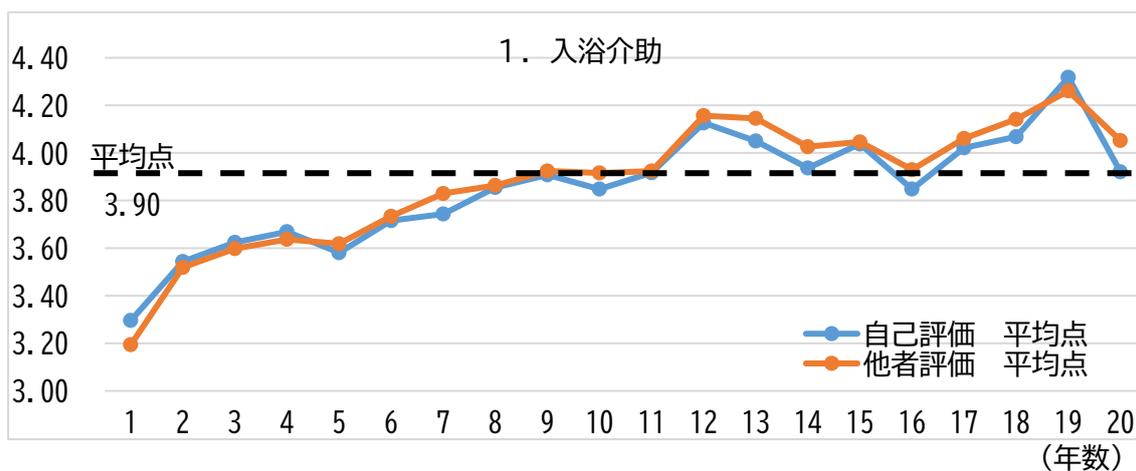


■ 1. 入浴介助

1. 入浴介助	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
自己評価 平均点	3.30	3.54	3.62	3.67	3.58	3.72	3.74	3.85	3.91	3.85	3.92	4.13	4.05	3.94	4.04	3.85	4.02	4.07	4.32	3.92
他者評価 平均点	3.19	3.52	3.60	3.64	3.62	3.73	3.83	3.86	3.92	3.92	3.92	4.16	4.15	4.03	4.05	3.93	4.06	4.14	4.26	4.05
点差 (他者評価-自己評価)	-0.10	-0.02	-0.03	-0.03	0.04	0.02	0.09	0.01	0.02	0.07	0.01	0.03	0.10	0.09	0.01	0.08	0.04	0.07	-0.06	0.13

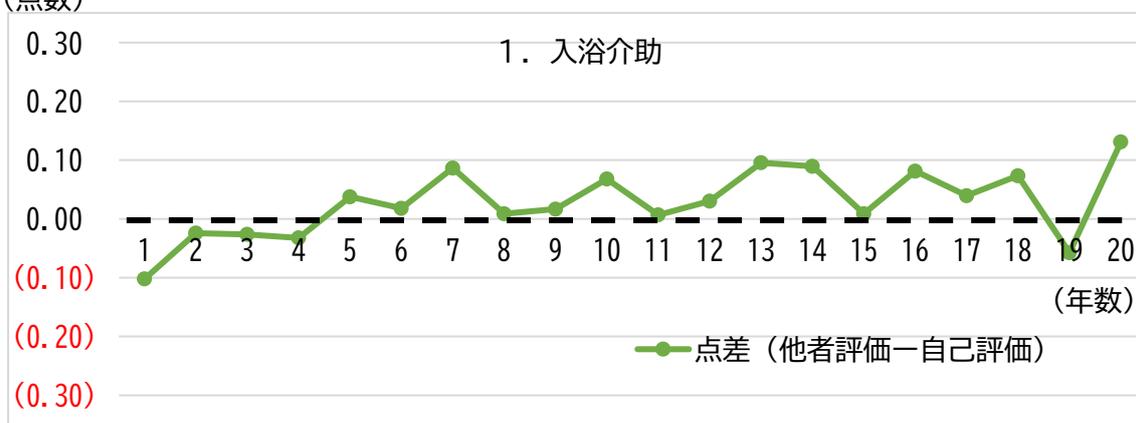
<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>

(点数)



<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>

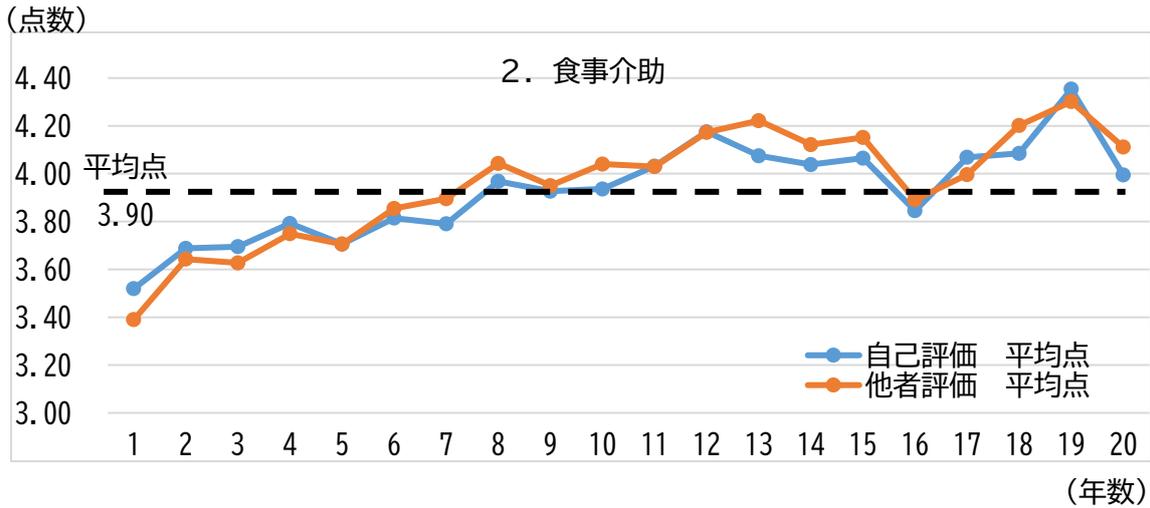
(点数)



■ 2. 食事介助

2. 食事介助	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
自己評価 平均点	3.52	3.69	3.69	3.79	3.71	3.81	3.79	3.97	3.93	3.94	4.03	4.18	4.07	4.04	4.06	3.85	4.07	4.08	4.35	3.99
他者評価 平均点	3.39	3.64	3.63	3.75	3.71	3.85	3.90	4.04	3.95	4.04	4.03	4.17	4.22	4.12	4.15	3.89	4.00	4.20	4.30	4.11
点差 (他者評価-自己評価)	-0.13	-0.05	-0.07	-0.04	-0.00	0.04	0.11	0.08	0.02	0.10	-0.00	-0.00	0.15	0.08	0.09	0.05	-0.07	0.12	-0.05	0.12

<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>



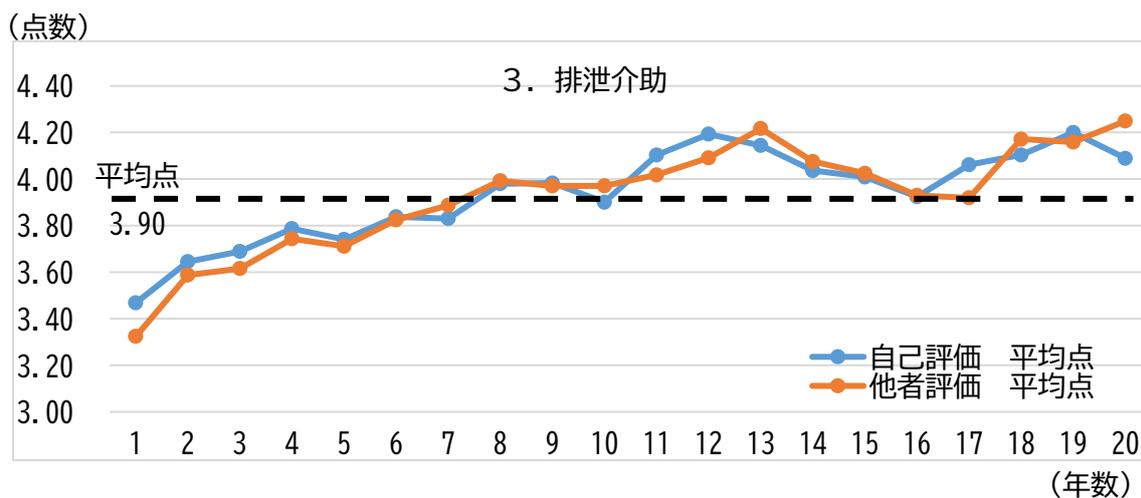
<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>



■ 3. 排泄介助

3. 排泄介助	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
自己評価 平均点	3.47	3.65	3.69	3.79	3.74	3.84	3.83	3.98	3.98	3.90	4.10	4.19	4.14	4.04	4.01	3.92	4.06	4.10	4.20	4.09
他者評価 平均点	3.32	3.59	3.62	3.74	3.71	3.82	3.89	3.99	3.97	3.97	4.02	4.09	4.22	4.08	4.02	3.93	3.92	4.17	4.16	4.25
点差 (他者評価-自己評価)	-0.14	-0.06	-0.07	-0.04	-0.03	-0.01	0.06	0.01	-0.01	0.07	-0.09	-0.10	0.07	0.04	0.02	0.01	-0.14	0.07	-0.04	0.16

<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>



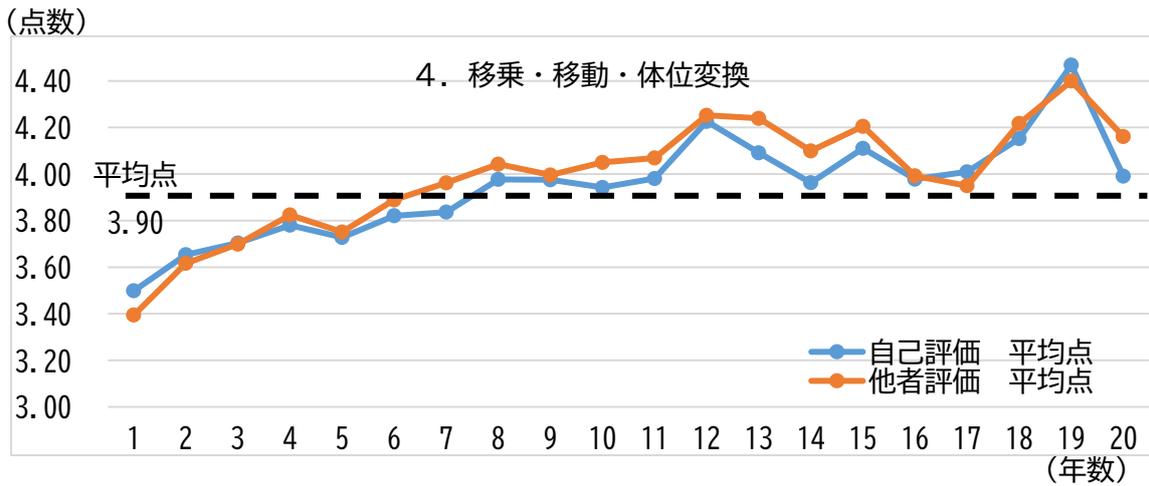
<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>



■ 4. 移乗・移動・体位変換

4. 移乗・移動・体位変換	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
自己評価 平均点	3.50	3.65	3.70	3.78	3.73	3.82	3.84	3.98	3.98	3.94	3.98	4.23	4.09	3.96	4.11	3.98	4.01	4.15	4.47	3.99
他者評価 平均点	3.39	3.62	3.70	3.82	3.75	3.89	3.96	4.04	4.00	4.05	4.07	4.25	4.24	4.10	4.20	3.99	3.95	4.22	4.40	4.16
点差 (他者評価-自己評価)	-0.10	-0.04	-0.00	0.04	0.02	0.07	0.13	0.07	0.02	0.11	0.09	0.03	0.15	0.14	0.09	0.01	-0.06	0.06	-0.07	0.17

<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>



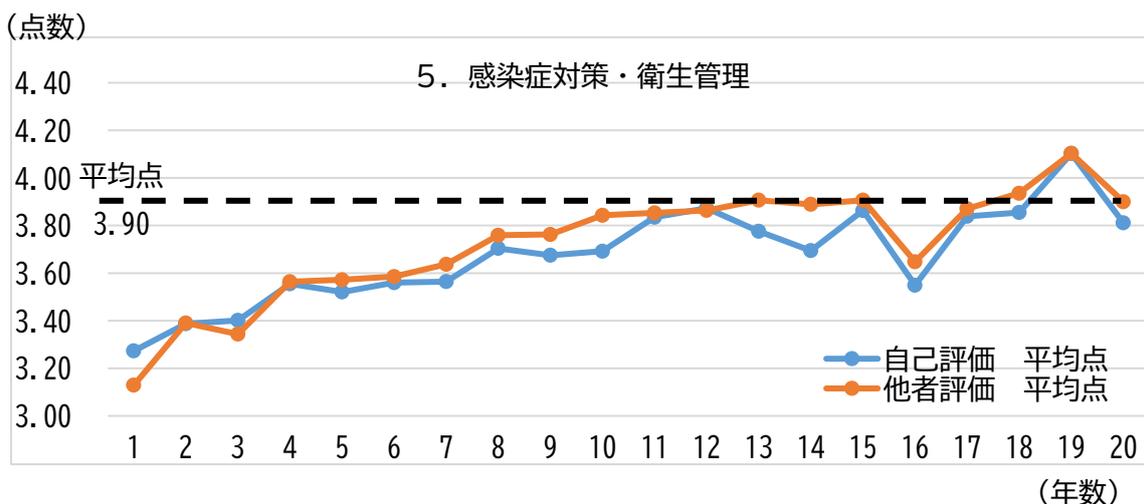
<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>



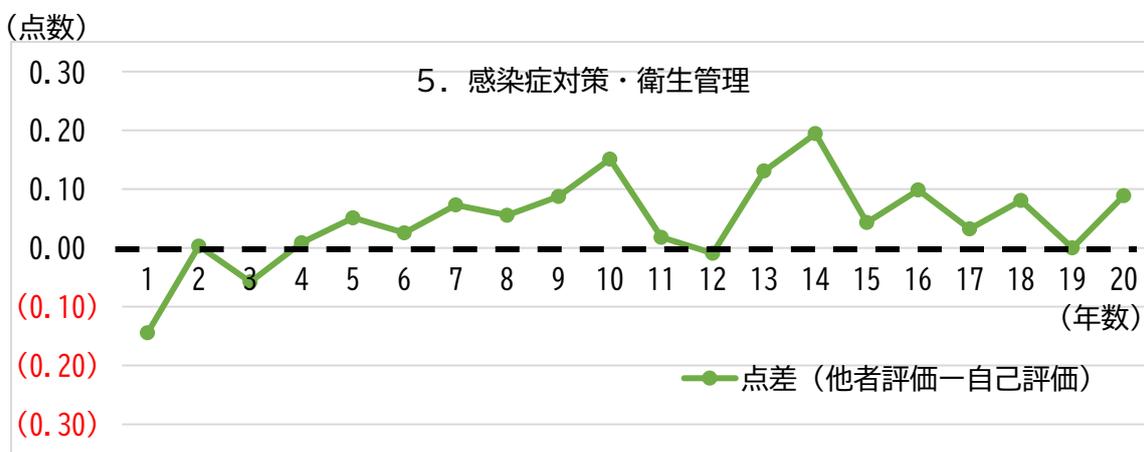
■ 5. 感染症対策・衛生管理

5. 感染症対策・衛生管理	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
自己評価 平均点	3.27	3.39	3.40	3.56	3.52	3.56	3.56	3.70	3.68	3.69	3.83	3.87	3.78	3.69	3.86	3.55	3.84	3.85	4.10	3.81
他者評価 平均点	3.13	3.39	3.34	3.56	3.57	3.59	3.64	3.76	3.76	3.84	3.85	3.86	3.91	3.89	3.91	3.65	3.87	3.94	4.10	3.90
点差 (他者評価-自己評価)	-0.14	0.00	-0.06	0.01	0.05	0.03	0.07	0.06	0.09	0.15	0.02	-0.01	0.13	0.19	0.04	0.10	0.03	0.08	0.00	0.09

<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>



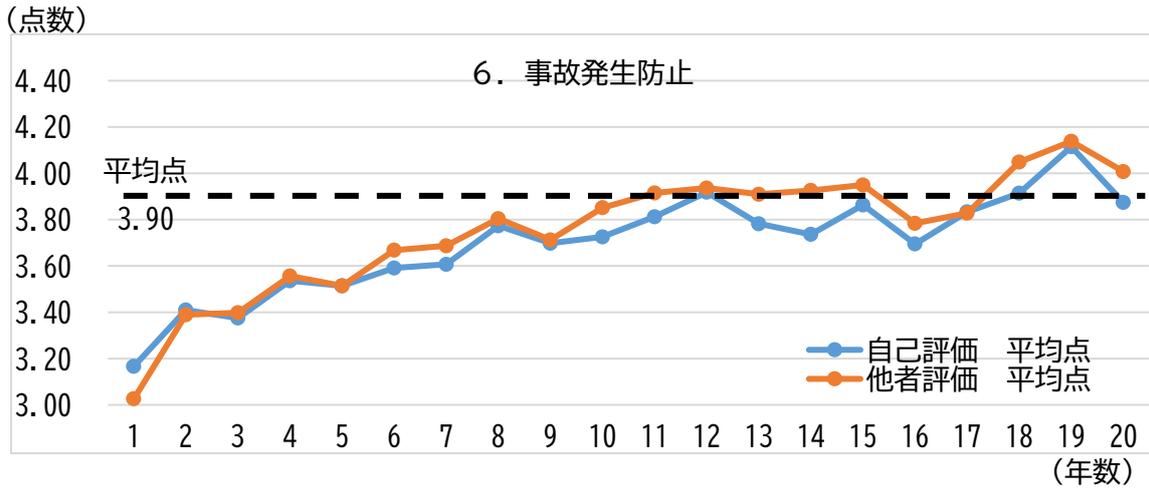
<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>



■ 6. 事故発生防止

6. 事故発生防止	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
自己評価 平均点	3.17	3.41	3.38	3.54	3.51	3.59	3.61	3.77	3.70	3.73	3.81	3.92	3.78	3.74	3.86	3.69	3.83	3.91	4.11	3.87
他者評価 平均点	3.03	3.39	3.40	3.56	3.51	3.67	3.69	3.80	3.71	3.85	3.92	3.94	3.91	3.93	3.95	3.78	3.83	4.05	4.14	4.01
点差 (他者評価-自己評価)	-0.14	-0.02	0.02	0.02	-0.00	0.08	0.08	0.03	0.01	0.13	0.10	0.02	0.13	0.19	0.09	0.09	-0.01	0.13	0.02	0.13

<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>



<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>



(5) 自己評価・他者評価に対する統計的検定の実施

自己評価・他者評価の評価結果について、統計学的に違いがあるかどうか検証するため、「統計的検定」を行うこととした。

なお、今回の統計的検定にあたり、母集団やサンプルサイズの以下の条件から、検定方法について「z検定」を採用した。

<条件>

- ・ 2群の母集団は正規分布である（サンプルサイズ（2群計）はいくつでもよい）
- ・ 2群の母集団が正規分布でない場合、サンプルサイズ（2群計）は500以上

「z検定」の判定方法

標本調査の対応のないデータから統計量「T値」と「p値」を算出し、「T値」が1.96より大きければ2群の母平均は異なる、つまり「2群には差があるといえる」と判定する。

<標本調査の結果>

2群	サンプルサイズ	標本平均	標本標準偏差
A	n_1	X_1	s_1
B	n_2	X_2	s_2

【有意差判定方法】

検定統計量T

$$T \text{ 値} = \frac{X_1 - X_2}{\sqrt{\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2}}}$$

棄却限界値 z検定より 1.96

T値 \geq 1.96 「2群の母平均は異なる」はいえる

T値 $<$ 1.96 「2群の母平均は異なる」はいえない

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

自己評価・他者評価 z 検定結果一覧表

T 値 ≥ 1.96



1. 入浴介助		経験年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
項目																						
①	体調の確認等	T 値	1.06	0.23	0.14	0.19	1.04	0.94	1.90	0.95	0.21	1.32	0.71	0.20	1.23	1.87	0.34	0.00	0.21	1.00	0.39	1.17
②	衣服着脱の介助		1.55	0.42	0.34	0.88	1.37	0.11	1.14	0.49	0.07	1.63	0.12	1.02	1.46	1.71	0.23	1.21	0.98	1.22	0.38	1.50
③	手浴の介助		1.11	0.44	0.87	0.54	0.25	0.38	0.33	0.74	0.25	0.88	0.39	0.50	0.23	0.31	0.43	0.06	1.20	0.20	0.46	0.12
④	足浴の介助		1.03	0.49	0.60	0.18	0.61	0.11	0.06	0.76	0.50	0.01	0.25	0.22	0.66	0.07	0.09	0.61	0.61	0.07	0.28	0.92
⑤	入浴の介助		1.48	0.32	0.60	0.10	1.57	1.00	1.30	0.62	0.93	2.90	1.05	1.28	1.88	0.71	0.89	0.53	1.35	0.13	0.38	0.85
⑥	整容(洗面)		0.58	0.80	0.74	0.19	0.82	0.76	1.28	1.46	0.87	1.71	0.70	0.42	0.54	0.24	0.56	1.03	1.13	0.89	0.57	1.49
⑦	整容(洗髪等)		1.40	0.30	0.22	0.38	0.73	0.00	1.35	0.27	0.77	0.58	0.32	1.24	0.28	0.89	0.87	0.28	0.59	0.00	0.00	1.23
⑧	全身清拭		1.38	1.00	0.72	0.70	1.75	0.55	1.04	0.47	0.17	0.13	0.78	0.73	0.94	0.22	0.54	0.07	0.30	0.27	0.58	0.45
⑨	顔の清拭		0.88	0.06	0.08	0.53	0.26	0.57	1.22	0.14	0.00	1.46	0.92	0.25	1.56	0.84	0.06	0.73	1.06	0.77	0.20	0.81
2. 食事介助		経験年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
項目																						
①	体調の確認等	T 値	1.63	0.09	0.64	0.15	0.05	0.48	0.97	1.48	0.13	0.65	0.10	0.67	1.16	0.79	0.27	0.09	0.69	1.08	0.38	0.61
②	食事の介助		2.55	1.05	1.93	0.48	0.50	0.25	1.14	0.49	0.13	1.16	0.27	0.16	1.79	0.56	0.60	0.49	0.80	1.09	0.40	1.39
③	口腔ケア		2.87	0.93	0.80	0.81	0.33	0.29	0.99	0.39	0.45	1.81	0.54	0.49	1.45	0.52	1.96	0.25	0.52	0.63	0.55	0.45
④	食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告		0.46	0.34	0.26	0.04	0.81	0.89	1.79	1.35	1.14	2.48	0.06	0.08	1.27	0.66	0.83	0.93	0.24	0.55	0.47	1.44
3. 排泄介助		経験年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
項目																						
①	体調の確認等	T 値	1.25	0.55	0.28	0.17	0.66	0.53	0.89	0.56	0.29	1.93	0.43	0.70	1.08	1.26	0.07	0.11	0.87	0.63	0.20	2.29
②	トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助		1.39	0.09	0.05	0.15	1.50	0.48	1.47	0.90	0.56	1.73	0.38	0.51	1.45	0.59	1.60	0.34	0.54	0.93	0.00	1.58
③	尿器・便器を用いた介助		2.65	1.33	1.50	0.35	1.63	1.01	1.16	0.88	0.64	0.80	1.56	1.40	0.26	0.66	0.70	0.06	1.79	0.25	0.58	0.30
④	おむつ交換		2.33	0.81	1.71	1.15	0.89	0.49	0.71	0.25	0.83	1.03	0.23	1.17	0.92	0.08	0.25	0.44	0.67	1.53	0.39	1.37
⑤	食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告		1.24	0.33	0.27	0.75	0.10	0.78	2.30	1.66	0.79	2.19	0.60	0.67	0.85	1.20	0.91	0.90	0.54	0.11	0.33	1.50
4. 移乗・移動・体位変換		経験年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
項目																						
①	起居の介助	T 値	1.43	0.86	0.66	0.33	0.83	1.16	1.07	1.28	0.44	2.18	1.01	0.72	1.47	1.03	1.27	0.31	0.18	0.71	0.41	1.85
②	車いすへの移乗の介助		2.44	1.61	1.38	0.27	0.21	0.05	1.57	0.06	1.08	1.19	1.04	0.39	1.11	1.08	1.40	0.64	0.84	0.58	0.85	0.68
③	車いす移動の介助		0.97	0.04	0.69	0.81	0.64	1.45	2.86	1.71	0.07	2.19	1.43	0.11	1.57	1.15	1.55	0.77	0.00	0.43	0.43	1.34
④	福祉用具の使用方法及び点検業務		1.67	1.19	1.11	1.29	0.65	0.29	0.48	0.30	0.06	0.13	0.81	0.14	0.07	0.72	0.93	0.10	0.54	1.10	0.98	0.31
⑤	歩行の介助		0.81	0.18	1.37	0.40	1.87	1.31	1.84	1.51	0.43	1.84	1.18	0.99	1.73	0.93	0.96	0.93	0.09	0.64	0.59	1.43
⑥	体位変換		2.21	0.97	0.93	0.27	0.89	0.65	0.67	0.09	0.49	1.36	0.61	0.65	1.93	0.23	0.85	0.31	0.97	1.05	0.38	1.91
⑦	立位の介助		0.49	1.06	0.56	1.46	0.83	2.01	2.08	1.75	1.04	2.51	1.08	1.19	2.49	1.44	2.04	0.41	0.20	0.88	0.21	2.32
5. 感染症対策・衛生管理		経験年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
項目																						
①	安全衛生教育	T 値	2.19	0.04	0.81	0.11	0.68	0.32	0.89	0.69	0.91	2.23	0.16	0.08	1.26	1.37	0.45	0.71	0.22	0.55	0.00	0.67
6. 事故発生防止		経験年数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
項目																						
①	緊急時・事故発見時の対応	T 値	1.85	0.56	0.22	0.53	0.20	0.95	0.88	0.05	0.28	1.61	1.01	0.24	1.26	1.41	0.33	1.01	0.17	1.06	0.19	0.77
②	介護職種における事故防止のための教育		1.88	0.98	0.86	0.37	0.41	0.49	0.15	0.07	0.12	0.72	0.08	0.14	0.33	0.57	0.62	0.17	0.00	0.31	0.09	0.59
③	介護職種における疾病・腰痛予防		1.41	1.18	1.96	0.79	0.83	1.09	1.70	1.09	0.97	2.46	1.43	0.84	1.70	1.79	1.01	0.51	0.11	1.25	0.72	1.30

z 検定の結果、経験年数1年目の介護職員では全29項目中、7項目、約1/4の項目について、自己評価と他者評価の母平均は異なる、つまり、評価結果に「差がある」となった。先の自己評価・他者評価 差異 経験年数推移にて示したグラフの通り、自己評価が高く、他者評価が低い、つまり、1年目においては、「できているつもり」である傾向が強いといえる。

特に以下の項目について、1年目の介護職員に対するOJT実施の際は、しっかりできているか最終チェックをする必要がある項目といえる。

- ・ 食事の介助
- ・ 口腔ケア
- ・ 尿器・便器を用いた介助
- ・ おむつ交換
- ・ 車いすへの移乗の介助
- ・ 体位変換
- ・ 感染症・衛生管理

一方、経験年数7年目の介護職員では3項目、10年目の職員では8項目について、自己評価と他者評価の母平均は異なる、つまり、評価結果に「差がある」となった。これは先の自己評価・他者評価 差異 経験年数推移にて示したグラフの通り、自己評価が低く、他者評価が高い、つまり、自分では「できていないかもしれない」と評価したものの、他者評価では「できている」とされる項目、言い換えると介護職員自身、できているかどうか自信が無い項目であるといえる。

したがって、これらの項目については経験年数7年程度を目途に介護内容のチェックを行い、「できている」ということをしっかり確認、互いに共有し、介護職員の「できていないかもしれない」といった不安を払しょくすることがOJT実施の際には重要であるといえる。

- ・ 入浴の介助
- ・ 食事の記録、報告
- ・ 排泄チェックリスト等による記録、報告
- ・ 起居の介助
- ・ 車いす移動の介助
- ・ 立位の介助
- ・ 感染症・衛生管理
- ・ 介護職種における疾病・腰痛予防

(6) 経験年数に対する統計的検定の実施

介護職員としての経験年数、1年目から20年目について、その経験年数に応じた効果的なOJTの実施方法の検討にあたり、介護技術習得状況に基づき経験年数を群として構成できるか「統計的検定」を用い検討することとした。

なお、検定について、評価項目ごとに他者評価の点数を1年目と2年目で統計的検定を実施し、2群の母平均は異なる、つまり「2群には差があるといえる」かどうかを検証、それを2年目と3年目、3年目と4年目ということで順次、統計的検定を実施した。

なお、今回の統計的検定にあたり、母集団やサンプルサイズの以下の条件から、検定方法について「t検定」を採用した。

<条件>

- ・2群の母集団は正規分布であるかわからない
- ・サンプルサイズ（2群計）は30～500である

棄却限界値

自由度 f を次式によって求める。

$$f = \left(\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2} \right) \div \left(\frac{s_1^4}{n_1^2 (n_1 - 1)} + \frac{s_2^4}{n_2^2 (n_2 - 1)} \right)$$

求められた自由度から棄却限界値を算定する

f	棄却限界値
10	2.23
20	2.09
30	2.04
40	2.02
50	2.01
60	2.00
70	1.99
80	1.99

f	棄却限界値
90	1.99
100	1.98
200	1.97
300	1.97
400	1.97
500	1.96
1,000	1.96

T値 ≥ 棄却限界値 「2群の母平均は異なる」はいえる

T値 < 棄却限界値 「2群の母平均は異なる」はいえない

他者評価 経験年数 t 定結果一覧表

T 値 ≥ 棄却限界値

項目	経験年数	1⇔2	2⇔3	3⇔4	4⇔5	5⇔6	6⇔7	7⇔8	8⇔9	9⇔10	10⇔11	11⇔12	12⇔13	13⇔14	14⇔15	15⇔16	16⇔17	17⇔18	18⇔19	19⇔20
1. 入浴介助																				
項目	経験年数	1⇔2	2⇔3	3⇔4	4⇔5	5⇔6	6⇔7	7⇔8	8⇔9	9⇔10	10⇔11	11⇔12	12⇔13	13⇔14	14⇔15	15⇔16	16⇔17	17⇔18	18⇔19	19⇔20
① 体調の確認等	T値	3.48	0.22	0.84	0.94	0.59	0.09	0.92	0.01	0.32	0.52	2.58	0.66	0.32	1.23	1.3	1.06	1.68	0.49	1.46
② 衣服着脱の介助	T値	4.54	0.53	0.30	1.04	0.42	0.71	1.02	0.13	0.22	0.63	1.51	0.65	0.92	0.38	0.2	0.85	0.00	0.25	0.61
③ 手浴の介助	T値	3.66	0.78	0.57	0.42	1.28	1.48	0.45	0.40	0.26	0.80	0.30	0.49	0.69	0.53	0.7	0.41	1.15	0.71	0.49
④ 足浴の介助	T値	4.98	0.88	0.54	0.47	0.57	0.42	0.04	0.27	0.90	0.21	0.90	0.47	0.81	0.32	0.3	0.17	0.47	1.26	0.90
⑤ 入浴の介助	T値	4.26	1.87	0.51	0.24	1.20	0.46	0.96	0.92	0.53	0.31	2.70	1.51	0.66	0.44	1.3	1.97	0.23	0.05	1.37
⑥ 整容(洗面)	T値	3.29	0.20	0.77	0.64	1.89	0.24	1.66	0.76	0.30	0.14	1.46	0.07	2.08	1.57	0.4	0.89	0.34	0.13	0.80
⑦ 整容(洗髪等)	T値	4.05	0.46	0.96	0.10	0.28	1.88	0.20	1.31	1.37	0.82	2.44	1.71	0.08	0.19	1.9	1.73	0.10	1.23	1.70
⑧ 全身清拭	T値	3.57	1.90	0.11	1.12	2.63	1.42	0.45	1.15	0.85	1.05	2.42	0.54	0.69	0.72	0.0	0.40	0.71	0.90	1.97
⑨ 顔の清拭	T値	3.37	0.21	0.24	0.49	1.60	0.98	0.18	0.19	0.62	0.48	2.51	0.08	1.23	0.02	0.5	1.55	0.61	0.66	1.26
2. 食事介助																				
項目	経験年数	1⇔2	2⇔3	3⇔4	4⇔5	5⇔6	6⇔7	7⇔8	8⇔9	9⇔10	10⇔11	11⇔12	12⇔13	13⇔14	14⇔15	15⇔16	16⇔17	17⇔18	18⇔19	19⇔20
① 体調の確認等	T値	4.09	0.78	1.83	0.52	1.86	0.71	2.02	1.39	0.75	0.43	0.82	0.49	0.44	0.30	2.1	0.50	2.53	0.36	1.65
② 食事の介助	T値	3.20	0.14	2.12	0.82	2.20	0.73	0.95	0.39	0.94	0.85	2.09	0.96	1.47	0.44	1.2	0.99	2.56	1.02	1.57
③ 口腔ケア	T値	3.58	0.50	0.97	0.35	1.37	0.62	1.30	0.75	1.43	0.63	1.69	0.14	1.06	1.84	3.3	1.72	0.00	1.08	1.32
④ 食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告	T値	3.29	0.71	1.81	0.60	1.56	0.43	2.60	1.52	1.06	0.90	0.06	0.45	0.25	0.81	0.9	1.31	0.11	0.15	0.10
3. 排泄介助																				
項目	経験年数	1⇔2	2⇔3	3⇔4	4⇔5	5⇔6	6⇔7	7⇔8	8⇔9	9⇔10	10⇔11	11⇔12	12⇔13	13⇔14	14⇔15	15⇔16	16⇔17	17⇔18	18⇔19	19⇔20
① 体調の確認等	T値	2.73	0.36	2.46	0.33	0.77	0.19	1.51	0.31	0.61	0.10	0.86	0.09	0.06	1.02	1.5	0.25	2.68	0.52	0.93
② トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助	T値	3.82	0.50	0.87	1.60	0.86	0.40	1.72	0.29	0.01	0.27	1.87	0.58	1.35	0.53	2.3	0.35	1.17	0.47	0.09
③ 尿器・便器を用いた介助	T値	2.93	1.21	1.32	1.20	0.98	0.80	0.68	0.10	0.56	1.11	0.27	2.07	2.20	0.44	1.4	1.10	1.38	1.14	2.25
④ おむつ交換	T値	3.86	0.96	1.46	0.72	1.45	1.34	0.86	0.05	0.02	0.20	1.19	0.02	0.80	0.32	0.8	0.05	2.03	0.70	1.12
⑤ 食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告	T値	3.62	0.09	1.60	1.00	2.39	0.62	1.72	1.15	0.57	0.39	0.39	1.09	0.48	1.20	1.2	0.77	0.20	0.33	0.12
4. 移乗・移動・体位変換																				
項目	経験年数	1⇔2	2⇔3	3⇔4	4⇔5	5⇔6	6⇔7	7⇔8	8⇔9	9⇔10	10⇔11	11⇔12	12⇔13	13⇔14	14⇔15	15⇔16	16⇔17	17⇔18	18⇔19	19⇔20
① 起居の介助	T値	2.90	1.87	1.21	0.45	1.89	0.06	1.67	0.01	0.09	0.33	2.36	1.07	1.00	0.74	1.5	0.03	1.09	1.66	1.60
② 車いすへの移乗の介助	T値	2.27	1.59	1.93	0.66	1.20	0.95	0.71	0.56	1.07	0.84	1.53	1.06	0.53	0.46	1.3	0.82	1.94	1.10	2.17
③ 車いす移動の介助	T値	3.22	1.11	1.09	0.44	1.84	0.08	1.02	0.92	0.98	0.04	1.78	0.94	0.55	0.89	1.1	0.23	1.28	0.57	1.17
④ 福祉用具の使用方法及び点検業務	T値	3.45	0.16	2.52	1.77	1.60	1.75	0.17	0.46	0.36	0.18	1.88	0.27	0.40	0.45	1.0	0.38	0.84	1.11	1.22
⑤ 歩行の介助	T値	3.53	1.55	0.83	0.10	1.40	0.03	1.31	0.83	1.03	0.28	1.04	0.14	1.19	1.31	2.1	0.40	1.34	1.10	1.47
⑥ 体位変換	T値	3.06	0.21	2.39	1.55	1.73	1.57	0.18	0.18	0.65	0.55	0.98	1.75	2.40	1.84	2.4	0.01	2.47	0.80	1.09
⑦ 立位の介助	T値	3.53	0.70	2.29	1.40	2.57	0.42	2.25	0.75	0.00	0.36	2.15	0.18	1.20	0.78	2.1	0.54	2.08	1.38	1.93
5. 感染症対策・衛生管理																				
項目	経験年数	1⇔2	2⇔3	3⇔4	4⇔5	5⇔6	6⇔7	7⇔8	8⇔9	9⇔10	10⇔11	11⇔12	12⇔13	13⇔14	14⇔15	15⇔16	16⇔17	17⇔18	18⇔19	19⇔20
① 安全衛生教育	T値	3.68	0.63	2.93	0.10	0.17	0.63	1.45	0.04	0.96	0.11	0.10	0.41	0.14	0.14	2.1	1.56	0.43	0.95	1.20
6. 事故発生防止																				
項目	経験年数	1⇔2	2⇔3	3⇔4	4⇔5	5⇔6	6⇔7	7⇔8	8⇔9	9⇔10	10⇔11	11⇔12	12⇔13	13⇔14	14⇔15	15⇔16	16⇔17	17⇔18	18⇔19	19⇔20
① 緊急時・事故発見時の対応	T値	5.56	1.04	1.61	1.02	2.69	0.21	1.16	0.91	1.71	0.99	0.16	0.05	0.26	0.37	0.6	0.80	2.15	0.30	1.01
② 介護職種における事故防止のための教育	T値	3.98	0.42	2.54	0.34	2.19	0.44	0.81	0.60	1.70	0.22	0.88	1.25	0.57	0.74	2.4	1.11	1.23	0.34	0.50
③ 介護職種における疾病・腰痛予防	T値	5.30	1.14	2.00	0.80	0.76	1.38	2.17	1.38	1.27	0.68	0.13	0.16	0.42	0.21	0.9	0.68	0.62	0.86	0.81
T値 ≥ 棄却限界値		29	0	8	0	6	0	4	0	0	0	8	1	3	0	8	1	7	0	2

t 検定の結果、1年目と2年目、3年目と4年目、5年目と6年目、7年目と8年目、11年目と12年目、13年目と14年目、15年目と16年目、17年目と18年目に「差がある」と表された。

この結果を踏まえ、経験年数の群を1年目、2～3年目、4～5年目、6～7年目、8～11年目、12～13年目、14～15年目、16～17年目、18～20年目の9個の群として設定し、以降の分析を進めることとした。

(7) 経験年数の群に基づく自己評価・他者評価分析

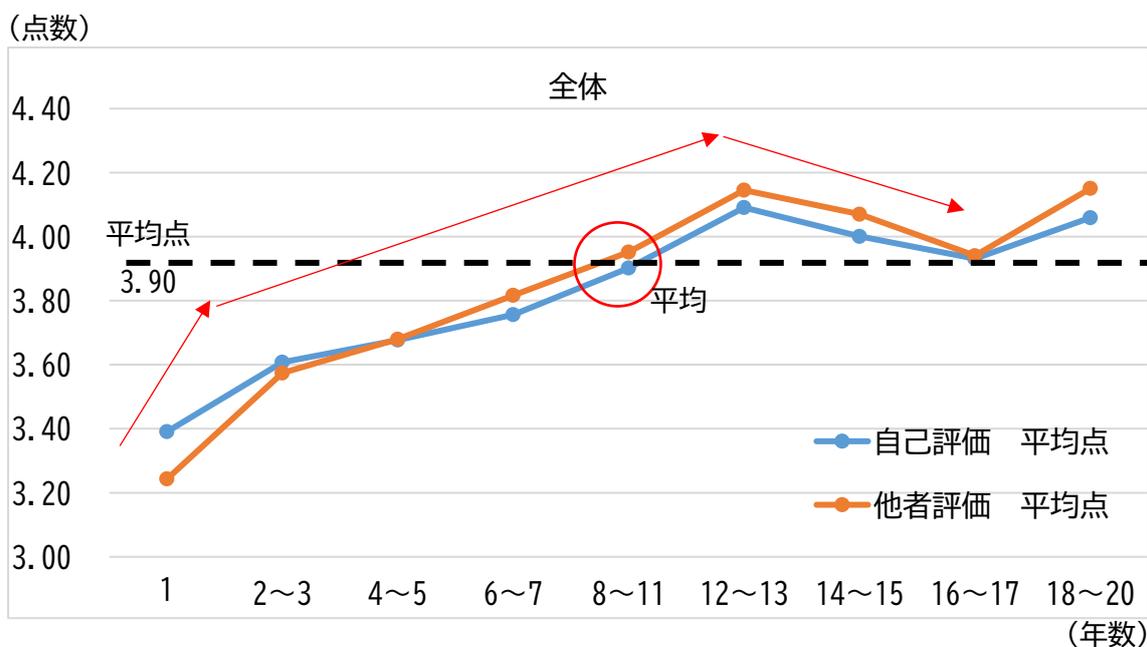
検定の結果得られた経験年数の群に基づき、介護技術の評価項目について「全体」「入浴介助」「食事介助」「排泄介助」「移乗・移動・体位変換」「感染症対策・衛生管理」「事故発生防止」の区分において集計しグラフ化をすると以下の通りとなった。

■ 全体

	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
人数	375	607	494	455	768	218	212	133	181

全体	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
自己評価 平均点	3.39	3.61	3.68	3.76	3.90	4.09	4.00	3.93	4.06
他者評価 平均点	3.24	3.57	3.68	3.82	3.95	4.15	4.07	3.94	4.15
点差(他者評価-自己評価)	-0.15	-0.03	0.00	0.06	0.05	0.05	0.07	0.01	0.09

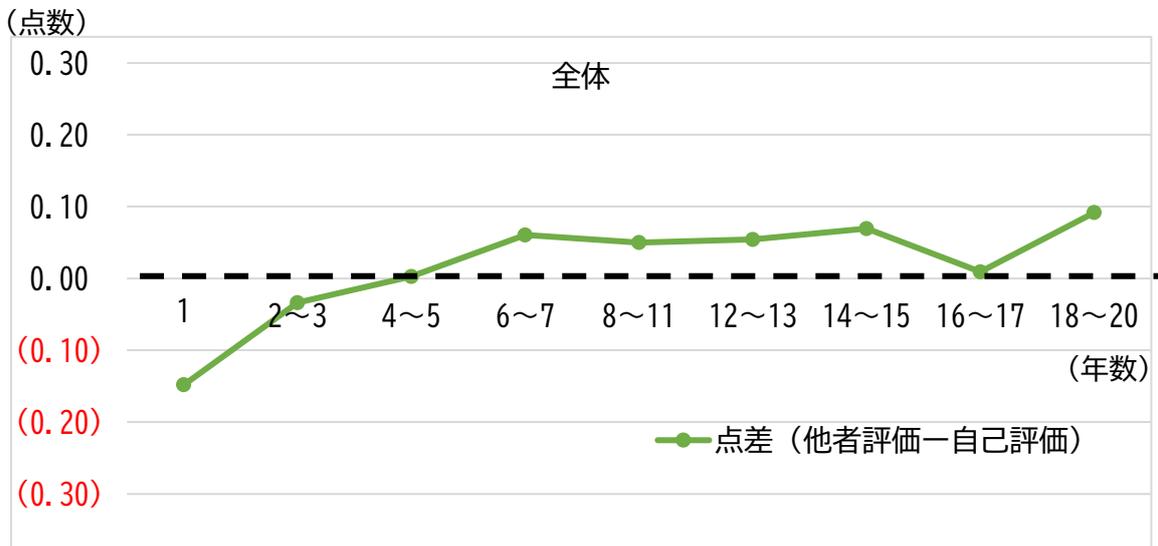
<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>



介護の経験年数と介護技術習得状況を全体的なところで見ると、1年目において多くの介護技術がOJTにより習得され、大きく伸びており、その後2年目以降からは一定の伸びにて介護技術が習得され8~11年目に平均点に到達している。その後12~13年目をピークとして14年目以降から下降に転じている、と表されている。

このことはいわゆる「ベテラン」といわれる介護職員の介護技術が衰える、ということではなく、日頃の業務の多忙において、利用者への声掛けなど、基本的なことを省略し、それがあたり前の介護行為になってしまう、言い換えると我流の介護になってしまっている、とも考えられる。

<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>



介護の経験年数と介護技術の自己評価・他者評価の差異を全体的なところで見ると、1年目において自らできているつもり、とのことから自己評価が高い傾向がみられるが、4～5年目ではほぼ自己評価・他者評価の差異が無くなっており、適切に自己評価ができていると考えられる。

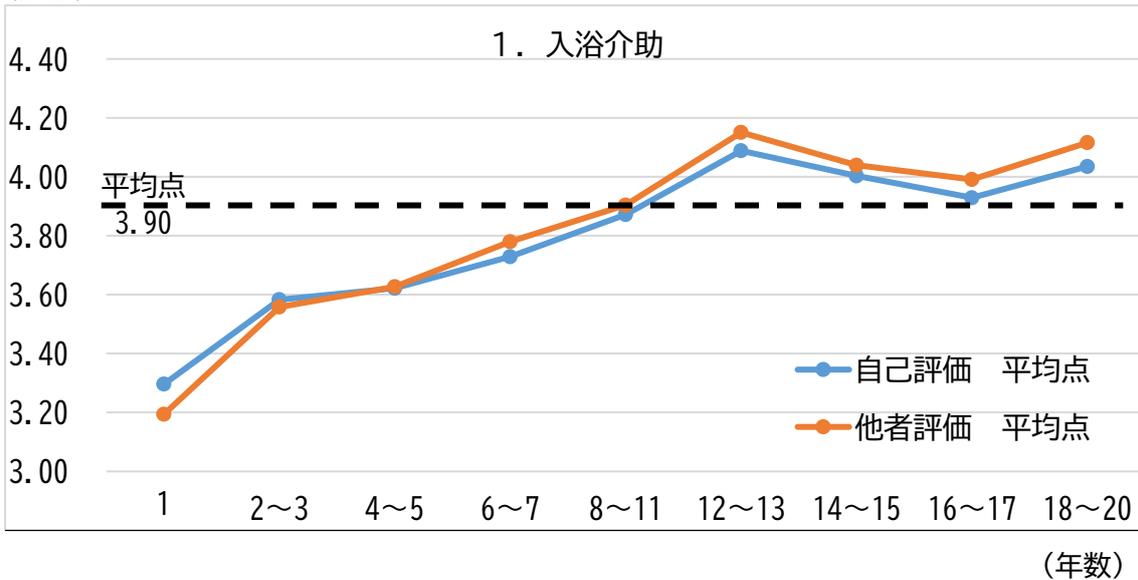
一方、6年目以降になると自己評価が低くなる傾向に転じている。これは、自分ではまだできていない部分がある、として評価を低くするともいえるが、言い換えると、自分の介護に自信が無くなっていく、ともいえる。従って、6年を過ぎたあたりから介護技術の評価では、「できている」ことの確認としてのOJTを実施し、介護職員に自信を持ってもらうことも、効果的なOJTの実施方法として提案できる。

■ 1. 入浴介助

1. 入浴介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
自己評価 平均点	3.30	3.58	3.62	3.73	3.87	4.09	4.00	3.93	4.03
他者評価 平均点	3.19	3.56	3.63	3.78	3.90	4.15	4.04	3.99	4.12
点差 (他者評価-自己評価)	-0.10	-0.02	0.01	0.05	0.03	0.06	0.04	0.06	0.08

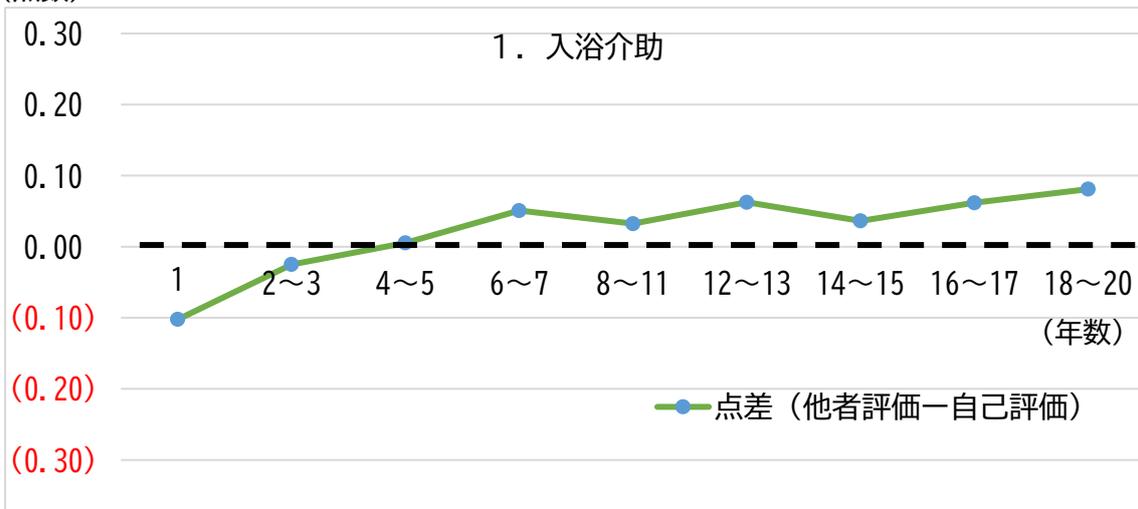
<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>

(点数)



<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>

(点数)

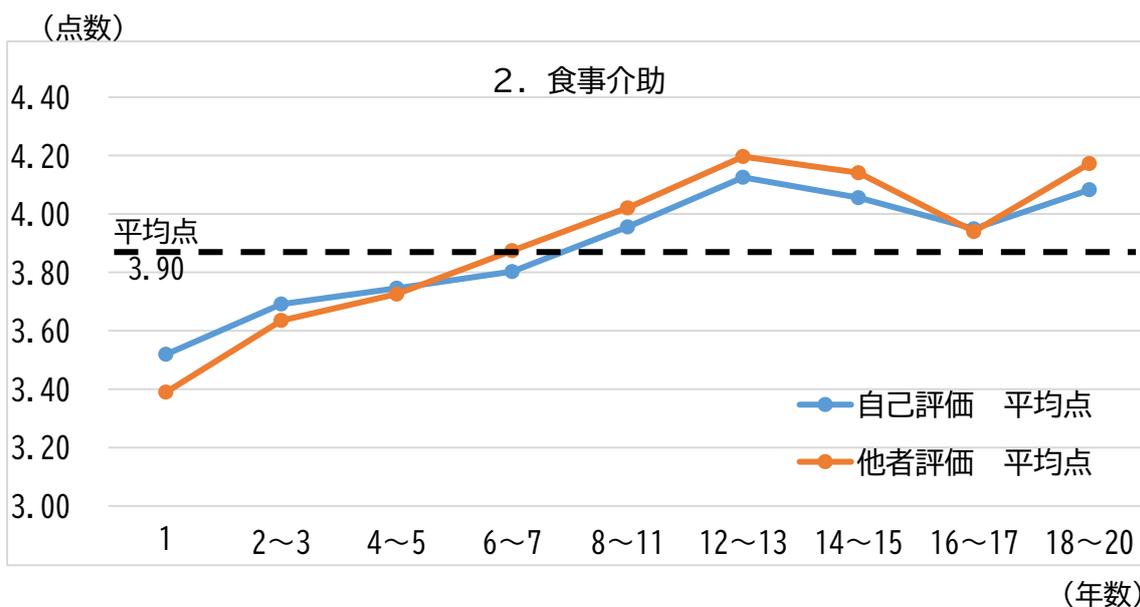


入浴介助については、全体と同傾向にあるといえる。

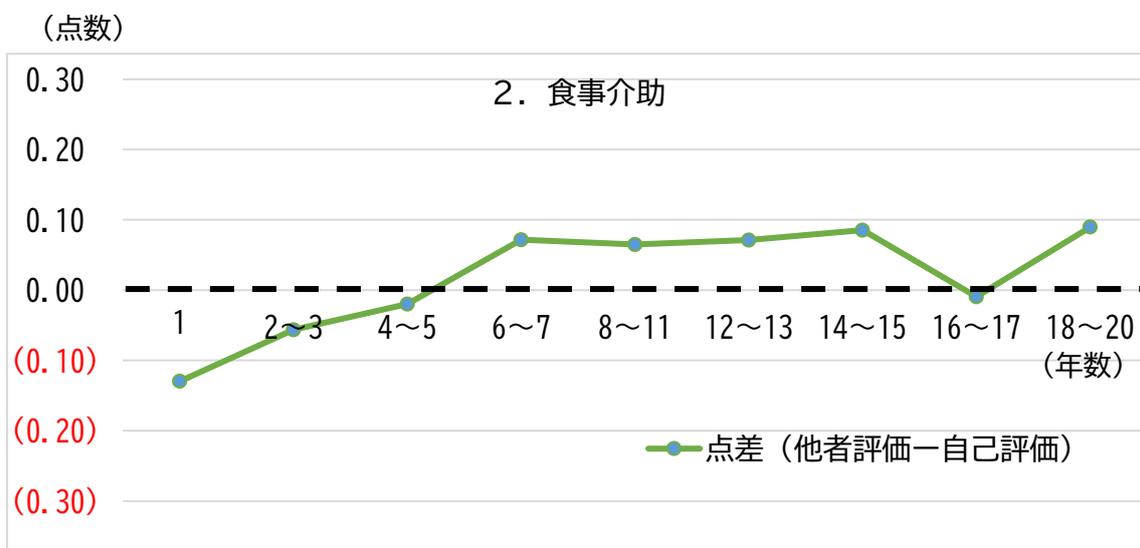
■ 2. 食事介助

2. 食事介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~20	16~20
自己評価 平均点	3.52	3.69	3.75	3.80	3.96	4.13	4.06	3.95	4.08
他者評価 平均点	3.39	3.64	3.73	3.87	4.02	4.20	4.14	3.94	4.17
点差 (他者評価-自己評価)	-0.13	-0.06	-0.02	0.07	0.06	0.07	0.09	-0.01	0.09

<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>



<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>

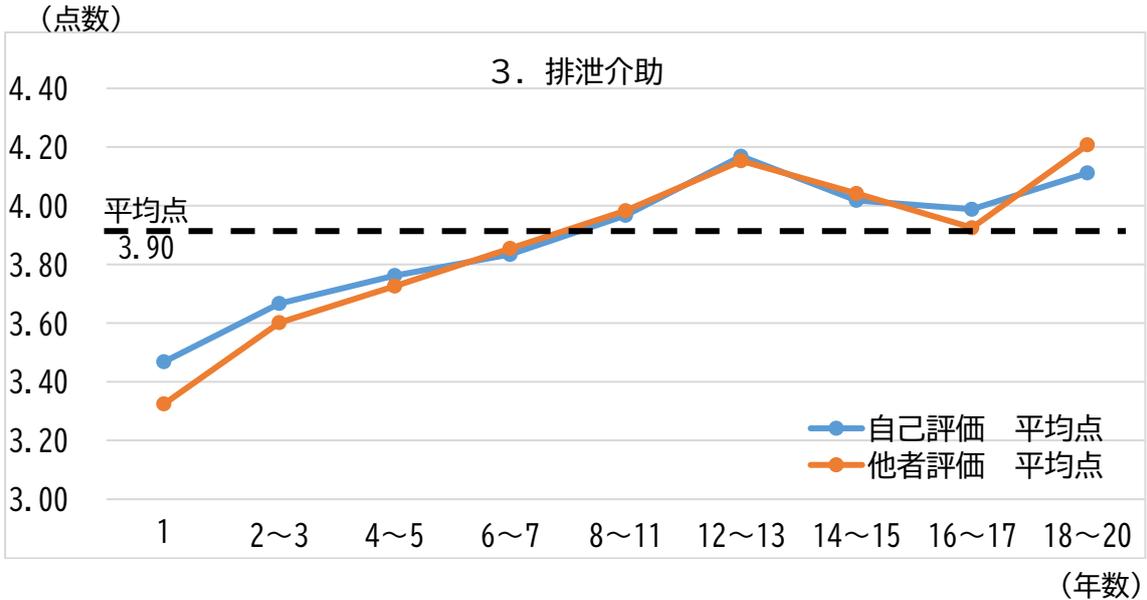


食事介助については、6～7年目で平均点に到達している。また、自己評価と他者評価の差異が大きく出ており、特に6年目以降の自己評価が低く出ている。

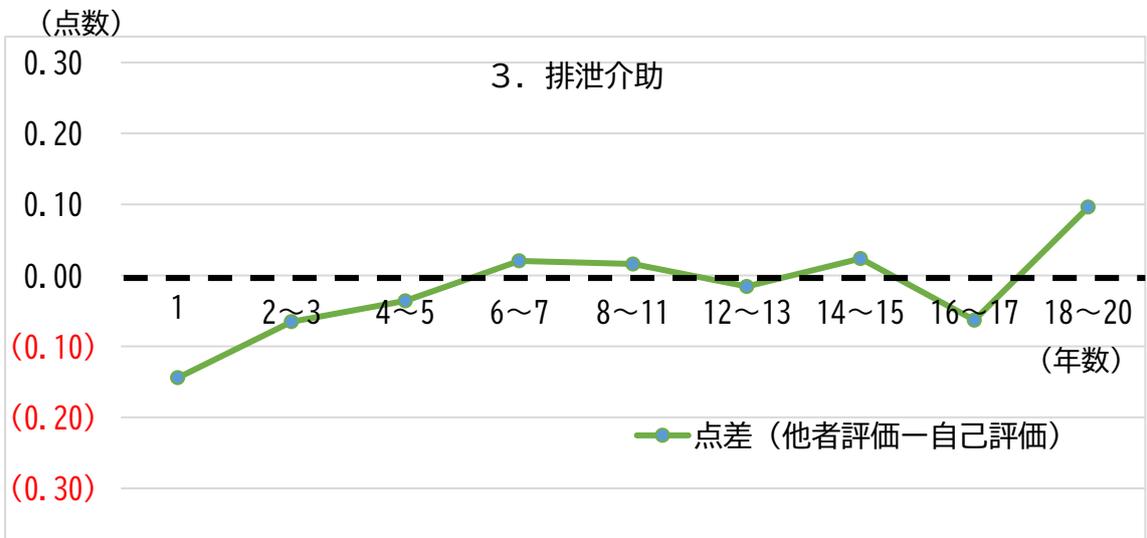
■ 3. 排泄介助

3. 排泄介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
自己評価 平均点	3.47	3.67	3.76	3.83	3.97	4.17	4.02	3.99	4.11
他者評価 平均点	3.32	3.60	3.73	3.85	3.98	4.15	4.04	3.92	4.21
点差 (他者評価-自己評価)	-0.14	-0.07	-0.04	0.02	0.02	-0.02	0.02	-0.06	0.10

<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>



<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>



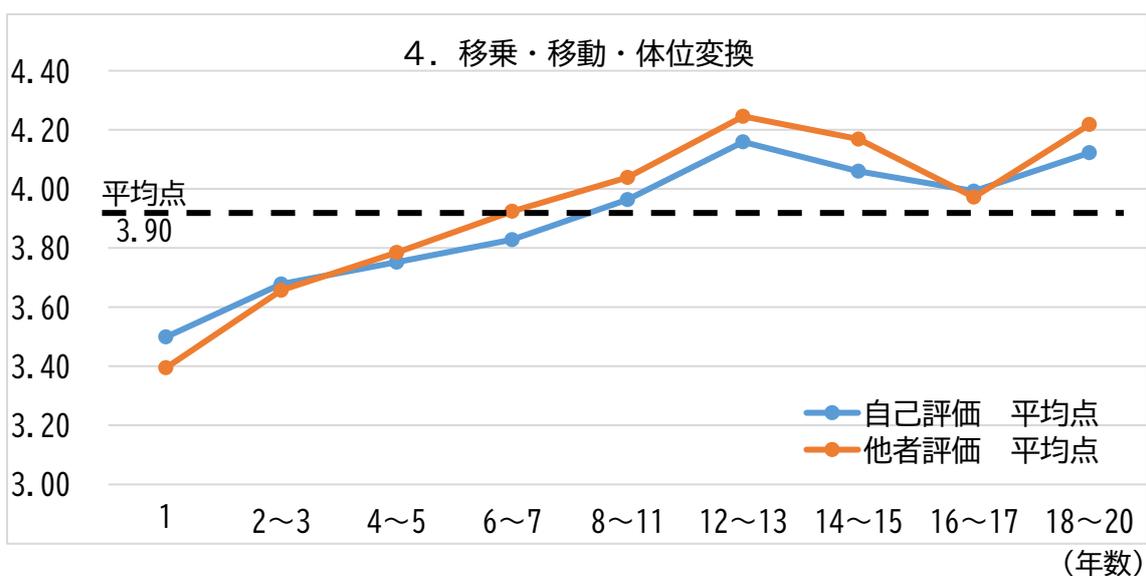
排泄介助については、自己評価と他者評価の差異があまり出ていない。

■ 4. 移乗・移動・体位変換

4. 移乗・移動・体位変換	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
自己評価 平均点	3.50	3.68	3.75	3.83	3.96	4.16	4.06	3.99	4.12
他者評価 平均点	3.39	3.66	3.78	3.92	4.04	4.25	4.17	3.97	4.22
点差(他者評価-自己評価)	-0.10	-0.02	0.03	0.10	0.07	0.09	0.11	-0.02	0.10

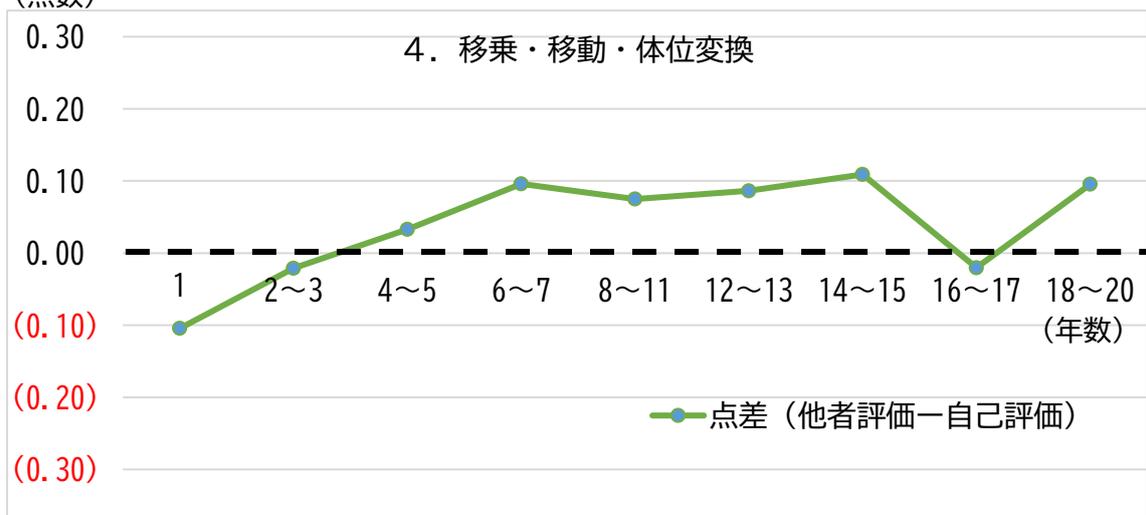
<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>

(点数)



<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>

(点数)



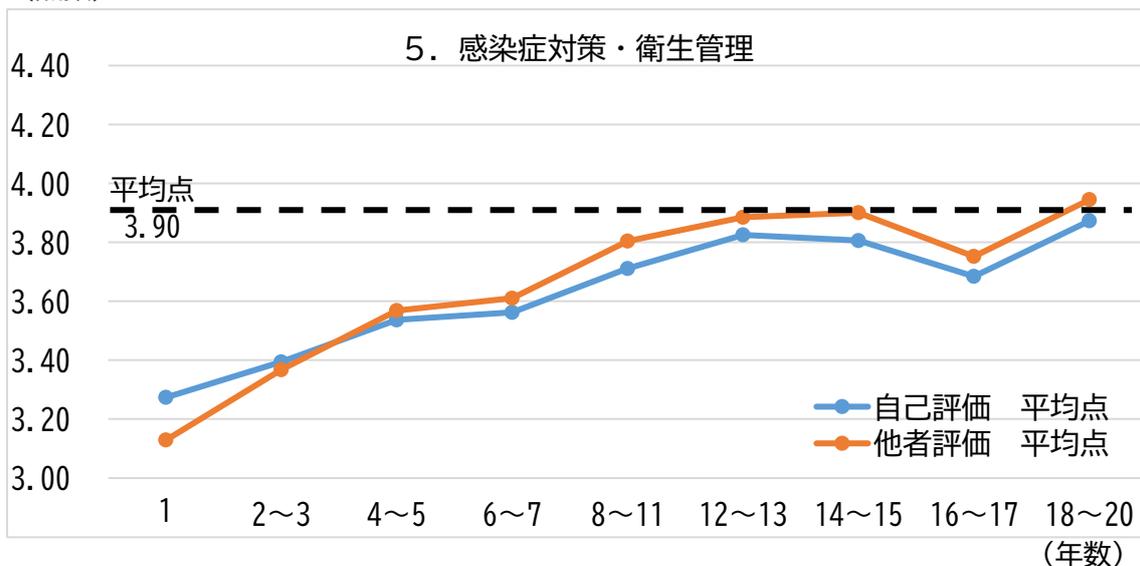
移乗・移動・体位変換については、6～7年目で平均点に到達している。また、自己評価と他者評価の差異が大きく出ており、特に6年目以降の自己評価が低く出ている。

■ 5. 感染症対策・衛生管理

5. 感染症対策・衛生管理	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~20	16~20
自己評価 平均点	3.27	3.39	3.54	3.56	3.71	3.82	3.81	3.68	3.87
他者評価 平均点	3.13	3.37	3.57	3.61	3.80	3.88	3.90	3.75	3.94
点差 (他者評価-自己評価)	-0.14	-0.03	0.03	0.05	0.09	0.06	0.09	0.07	0.07

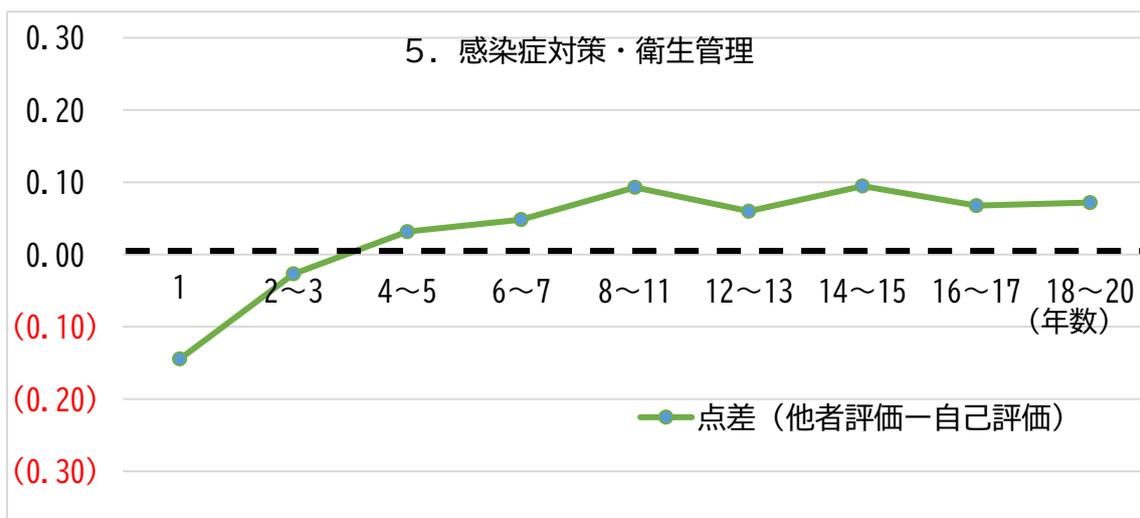
<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>

(点数)



<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>

(点数)



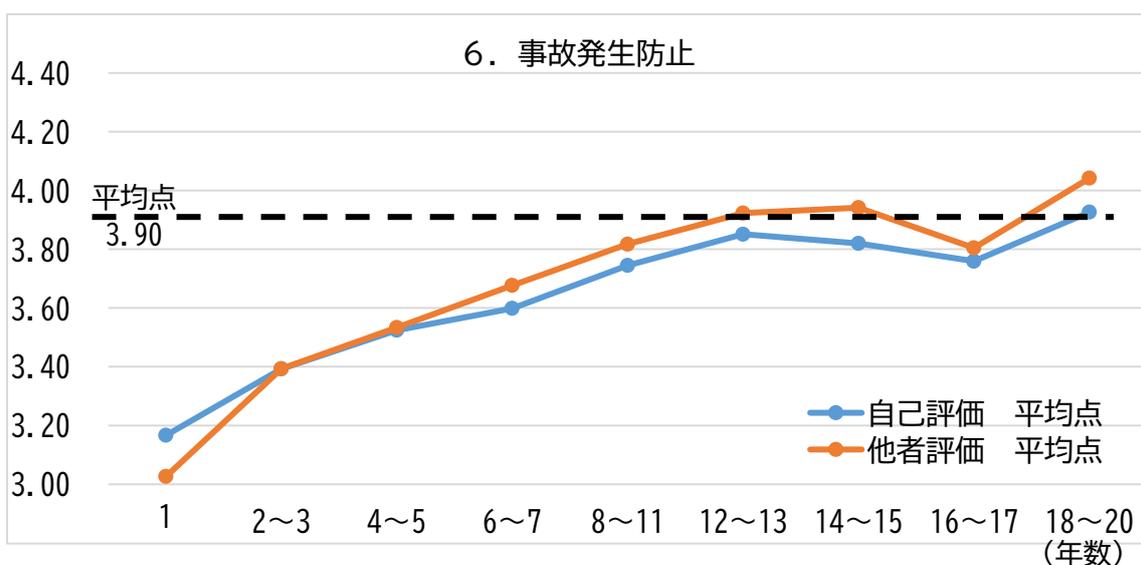
感染症・衛生管理については、12~13年目で平均点に到達している。また、自己評価と他者評価の差異が大きく出ており、特に6年目以降の自己評価が低く出ている。

■ 6. 事故発生防止

6. 事故発生防止	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
自己評価 平均点	3.17	3.39	3.52	3.60	3.74	3.85	3.82	3.76	3.93
他者評価 平均点	3.03	3.39	3.53	3.68	3.82	3.92	3.94	3.80	4.04
点差 (他者評価-自己評価)	-0.14	0.00	0.01	0.08	0.07	0.07	0.12	0.05	0.12

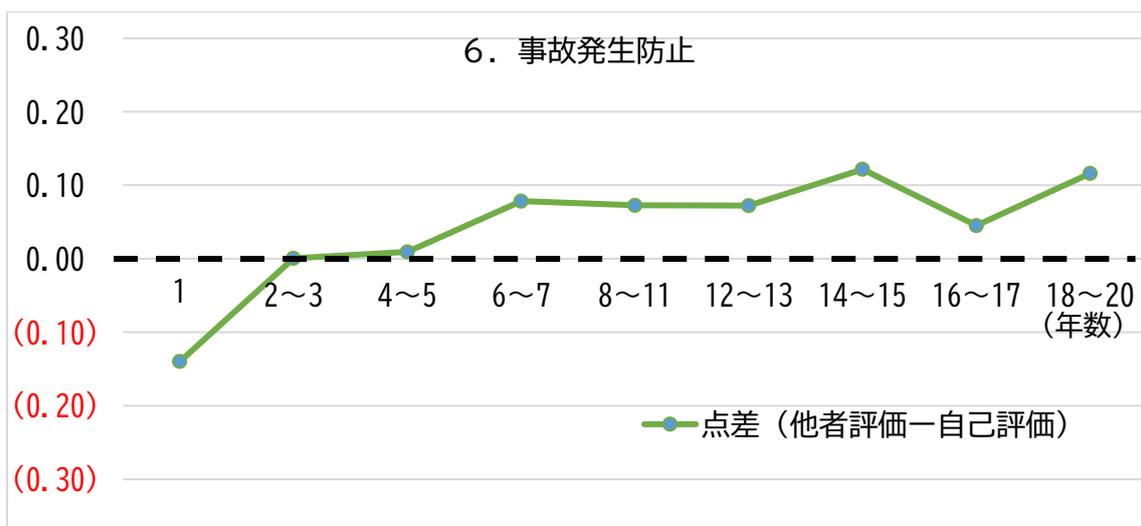
<自己評価・他者評価平均点 経験年数推移>

(点数)



<自己評価・他者評価 差異 経験年数推移>

(点数)



事故発生防止については、12~13年目で平均点に到達している。また、自己評価と他者評価の差異が大きく出ており、特に6年目以降の自己評価が低く出ている。

(8) 介護サービス種別 自己評価・他者評価分析

介護職員全体としての傾向は前述のとおりであるが、介護サービス種別によってもその違いがあるか、分析を行った。

なお、介護サービス種別として

- ・介護老人福祉施設（特養） 1,102
- ・介護老人保健施設（老健） 583
- ・認知症対応型共同生活介護（GH） 311
- ・特定施設入居者生活介護（特定） 248
- ・通所介護（通所） 402
- ・訪問介護（訪問） 404

の6種にて分析を行うこととした。

	数	割合
介護老人福祉施設	1,102	28.3%
介護老人保健施設	583	15.0%
介護療養型医療施設	31	0.8%
地域密着型介護老人福祉施設入所者	110	2.8%
短期入所生活介護	59	1.5%
認知症対応型共同生活介護	311	8.0%
特定施設入居者生活介護	248	6.4%
地域密着型特定施設入居者生活介護	5	0.1%
有料老人ホーム	66	1.7%
通所介護	402	10.3%
通所リハビリテーション	20	0.5%
認知症対応型通所介護	32	0.8%
訪問介護	404	10.4%
訪問入浴介護	5	0.1%
小規模多機能型居宅介護	109	2.8%
看護小規模多機能型居宅介護	33	0.8%
定期巡回・随時対応訪問介護看護	31	0.8%
法人本部	163	4.2%
居宅介護支援事業所	35	0.9%
回復期リハビリテーション病棟	13	0.3%
その他	136	3.5%
	3,898	100.0%

<介護サービス種別 偏差値 及び 自己評価・他者評価 差異一覧表>

偏差値<40 偏差値>60

自己評価・他者評価 平均点差<0

■ 1. 入浴介助

1. 入浴介助 項目	他者評価 偏差値							平均点差 (他者評価-自己評価)						
	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問
① 体調の確認等	56.9	56.6	53.6	52.1	60.1	54.2	64.3	0.04	0.02	0.01	0.06	0.04	0.07	0.08
② 衣服着脱の介助	58.2	57.5	59.6	56.0	59.8	54.4	59.7	0.03	-0.01	0.08	0.07	-0.01	0.01	0.06
③ 手浴の介助	30.0	31.2	29.9	23.7	23.0	22.9	40.5	-0.07	-0.06	-0.08	-0.16	-0.21	-0.02	0.05
④ 足浴の介助	37.5	36.4	32.5	42.6	29.0	33.7	46.9	-0.03	-0.04	-0.06	0.05	-0.24	-0.05	0.06
⑤ 入浴の介助	56.7	60.1	57.4	51.9	53.1	51.6	55.4	0.06	0.04	0.10	0.01	-0.02	0.07	0.06
⑥ 整容 (洗面)	54.6	58.0	53.5	54.2	53.4	46.2	53.0	0.06	0.04	0.06	0.09	0.02	0.06	0.03
⑦ 整容 (洗髪等)	50.4	51.5	52.3	45.1	49.8	46.4	50.5	0.03	-0.03	0.03	-0.01	0.01	0.10	0.06
⑧ 全身清拭	42.2	46.7	44.8	35.7	36.2	26.0	46.3	-0.05	-0.04	-0.04	-0.04	-0.19	-0.18	0.01
⑨ 顔の清拭	52.3	55.0	54.4	50.8	52.8	36.9	54.2	0.03	-0.01	0.04	0.07	-0.06	0.04	0.05

■ 2. 食事介助

2. 食事介助 項目	他者評価 偏差値							平均点差 (他者評価-自己評価)						
	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問
① 体調の確認等	55.8	55.8	55.0	53.5	58.1	48.6	61.1	0.01	0.00	-0.00	0.06	-0.05	-0.03	0.02
② 食事の介助	46.6	49.4	48.4	42.1	51.5	35.5	45.9	-0.02	-0.04	0.03	-0.08	-0.06	-0.05	0.03
③ 口腔ケア	47.8	49.9	47.3	48.4	52.2	35.2	45.8	-0.01	-0.01	0.01	-0.04	-0.04	-0.11	0.01
④ 食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告	58.1	60.4	56.3	57.5	64.2	47.3	58.5	0.05	0.06	0.06	0.06	0.08	0.00	0.05

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

■ 3. 排泄介助

3. 排泄介助 項目	他者評価 標準偏差							平均点差（他者評価－自己評価）						
	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問
① 体調の確認等	59.3	57.9	57.8	55.6	61.3	61.3	64.9	0.02	-0.00	0.02	0.05	-0.02	0.04	0.08
② トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助	59.5	61.5	62.5	55.8	64.0	57.9	54.1	0.03	0.02	0.05	-0.02	-0.02	0.06	0.01
③ 尿器・便器を用いた介助	21.2	24.5	29.0	5.5	26.3	9.5	25.5	-0.17	-0.19	-0.07	-0.23	-0.35	-0.21	0.03
④ おむつ交換	53.9	58.9	58.5	48.4	59.4	39.3	54.2	-0.06	-0.07	-0.02	-0.11	-0.09	-0.07	0.00
⑤ 食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告	60.8	63.5	60.2	61.4	63.1	54.9	59.7	0.03	0.04	0.07	0.07	-0.04	-0.01	0.03

■ 4. 移乗・移動・体位変換

4. 移乗・移動・体位変換 項目	他者評価 偏差値							平均点差（他者評価－自己評価）						
	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問
① 起居の介助	57.7	59.6	60.9	55.5	60.8	50.6	56.0	0.03	0.01	0.07	-0.00	0.02	0.05	0.03
② 車いすへの移乗の介助	54.7	57.8	57.9	50.3	58.7	48.7	52.7	-0.03	-0.04	0.01	-0.07	-0.01	-0.01	-0.00
③ 車いす移動の介助	63.7	65.0	66.6	58.8	66.2	64.5	61.3	0.06	0.05	0.12	0.05	0.05	0.03	0.05
④ 福祉用具の使用方法及び点検業務	33.9	32.1	34.8	29.1	37.8	33.6	39.9	-0.04	-0.04	0.01	-0.04	-0.08	-0.05	-0.02
⑤ 歩行の介助	54.6	55.7	54.2	49.9	58.4	58.2	53.5	0.08	0.07	0.10	0.08	0.04	0.08	0.04
⑥ 体位変換	49.3	55.7	54.5	45.3	54.5	27.9	46.9	-0.01	-0.01	0.03	-0.01	-0.04	-0.02	-0.06
⑦ 立位の介助	58.5	60.0	61.2	52.5	61.0	59.2	54.5	0.10	0.11	0.14	0.10	0.02	0.09	0.07

■ 5. 感染症対策・衛生管理

5. 感染症対策・衛生管理 項目	他者評価 偏差値							平均点差（他者評価－自己評価）						
	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問
① 安全衛生教育	43.8	42.2	40.1	38.4	40.3	50.4	53.1	0.03	0.03	0.03	-0.15	0.01	0.09	0.09

■ 6. 事故発生防止

6. 事故発生防止 項目	他者評価 偏差値							平均点差（他者評価－自己評価）						
	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問	全体	特養	老健	GH	特定	通所	訪問
① 緊急時・事故発見時の対応	48.7	46.8	46.5	47.9	48.0	52.7	52.6	0.01	-0.02	-0.01	-0.03	0.05	0.03	0.05
② 介護職種における事故防止のための教育	37.3	35.6	35.9	34.4	37.5	38.7	44.9	-0.02	-0.03	-0.02	-0.10	-0.01	-0.04	0.06
③ 介護職種における疾病・腰痛予防	45.7	44.8	48.0	42.8	41.6	44.4	51.3	0.08	0.10	0.14	0.02	-0.02	0.06	0.12

介護老人福祉施設（特養）の特徴として、「入浴の介助」、「トイレでの排泄介助」の技術評価点数が高くなっており、また、「食事の記録」、「排泄の記録」についても高くなっている。

介護老人保健施設（老健）では、「トイレでの排泄介助」、「起居の介助」、「立位の介助」について評価点数が高くなっている。

認知症対応型共同生活介護（GH）では、「全身清拭」並びに「感染症対策・衛生管理」の評価点数が低くなっている。特に「感染症対策・衛生管理」については自己評価が高くなっており、「できているつもり」が高くなっているとも読み取ることができ、注意が必要である。

特定施設入居者生活介護（特定）では、「食事介助時の体調の確認」「排泄介助時の体調確認」「食事の記録」「排泄の記録」「起居の介助」、「立位の介助」について評価点数が高くなっている。

通所介護（通所）では「清拭介助」「食事介助」「口腔ケア」「おむつ交換」「体位変換」等、全体的に評価点数が低くなっている。通所介護のサービスとして清拭や体位変換など実施していないという特性もあると思われるが、同じ経験年数の介護職員として介護技術習得状況を見た場合、他のサービス種別との差が大きいことが懸念される。

訪問介護（訪問）では他のサービス種別において偏差値が低く出ている「手浴の介助」「足浴の介助」「清拭」などが平均点に近い形となっている。訪問介護においては、一人でサービスの提供を行うこととなることから、様々な対応の経験を蓄積し、それが技能となって蓄積されていることが、このことから読み取ることができる。また、「食事介助時の体調の確認」「排泄介助時の体調確認」についても評価点数が高く出ており、訪問時に利用者の状態を必ず確認したうえで介助をしている、言い換えると介護過程の展開力が一番備わっている、ともいえる。

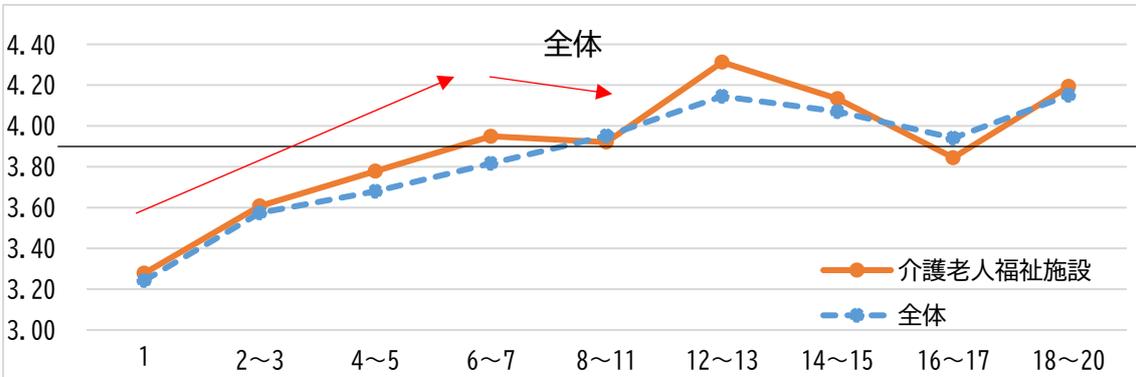
(9) 介護サービス種別 自己評価・他者評価 経験年数分析

前述の通り、介護サービス種別により、介護技術の習得状況に差異があることが明らかとなったため、さらなる分析として、経験年数の類型にて集計分析を行い、グラフ化を行い、その特徴を明らかにするとともに効果的なOJTの実施方法について検討を行った。

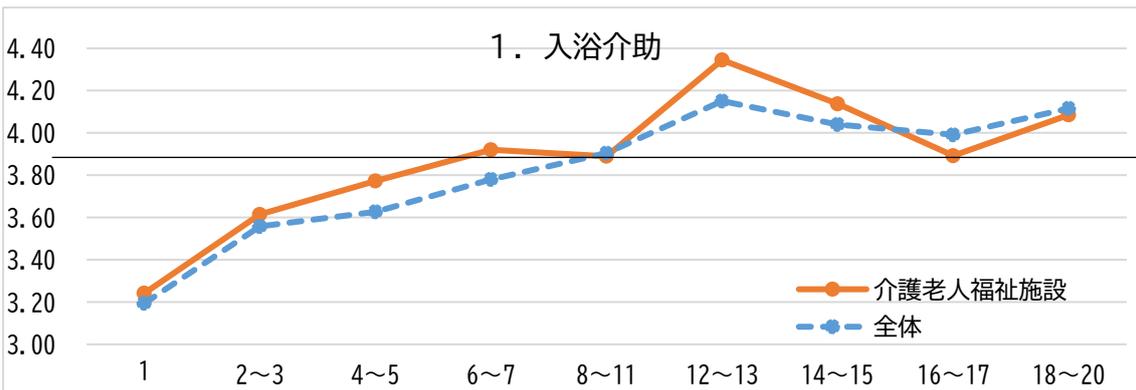
■ 介護老人福祉施設（特養）

	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
人数	122	185	124	121	201	58	89	35	51

全体	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人福祉施設	3.28	3.61	3.78	3.95	3.92	4.31	4.13	3.84	4.19
全体	3.24	3.57	3.68	3.82	3.95	4.15	4.07	3.94	4.15

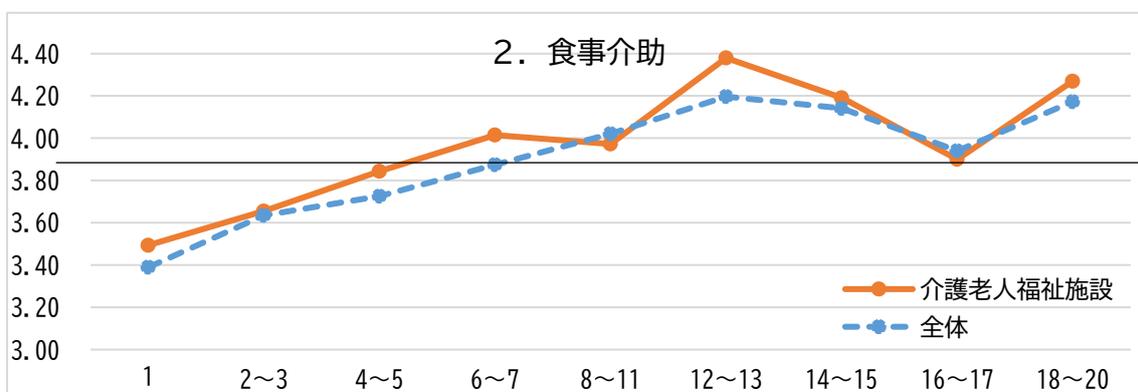


1. 入浴介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人福祉施設	3.24	3.61	3.77	3.92	3.89	4.34	4.14	3.89	4.08
全体	3.19	3.56	3.63	3.78	3.90	4.15	4.04	3.99	4.12

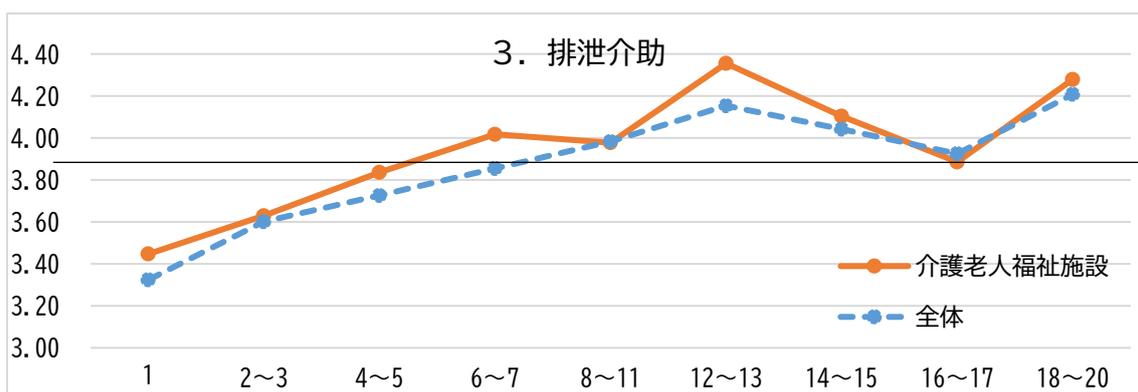


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

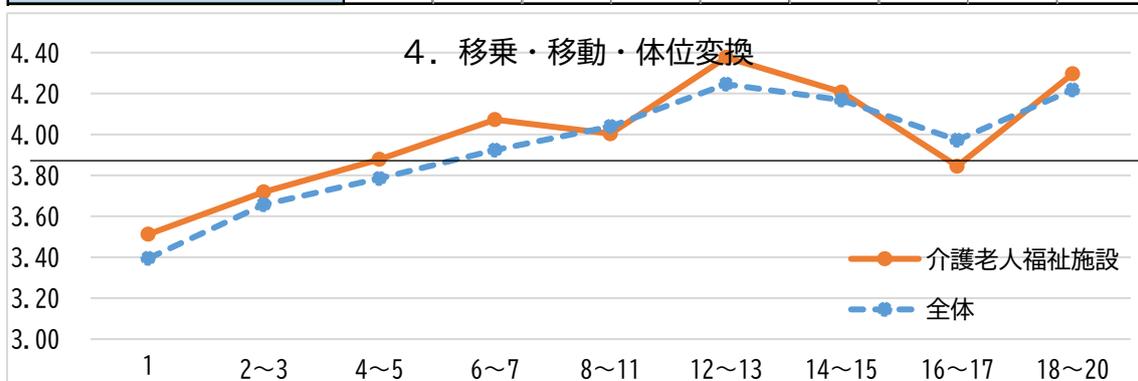
2. 食事介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人福祉施設	3.49	3.65	3.84	4.01	3.97	4.38	4.19	3.90	4.27
全体	3.39	3.64	3.73	3.87	4.02	4.20	4.14	3.94	4.17



3. 排泄介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人福祉施設	3.45	3.63	3.84	4.02	3.98	4.36	4.10	3.89	4.28
全体	3.32	3.60	3.73	3.85	3.98	4.15	4.04	3.92	4.21

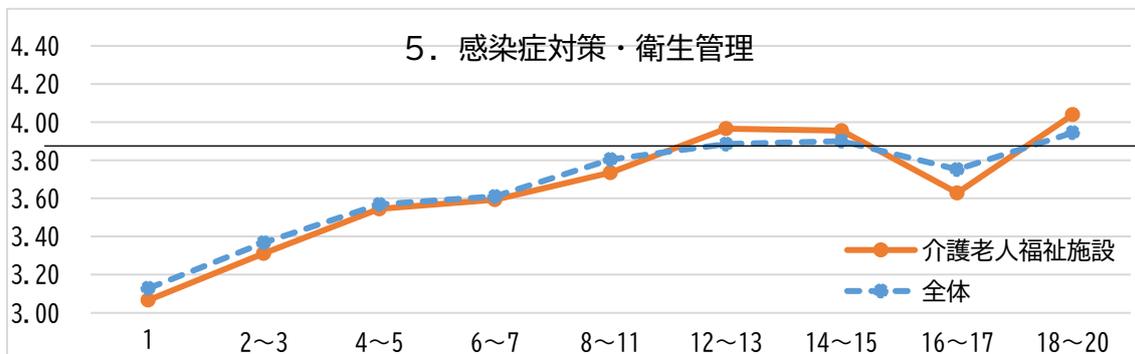


4. 移乗・移動・体位変換	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人福祉施設	3.51	3.72	3.88	4.07	4.00	4.38	4.21	3.84	4.30
全体	3.39	3.66	3.78	3.92	4.04	4.25	4.17	3.97	4.22

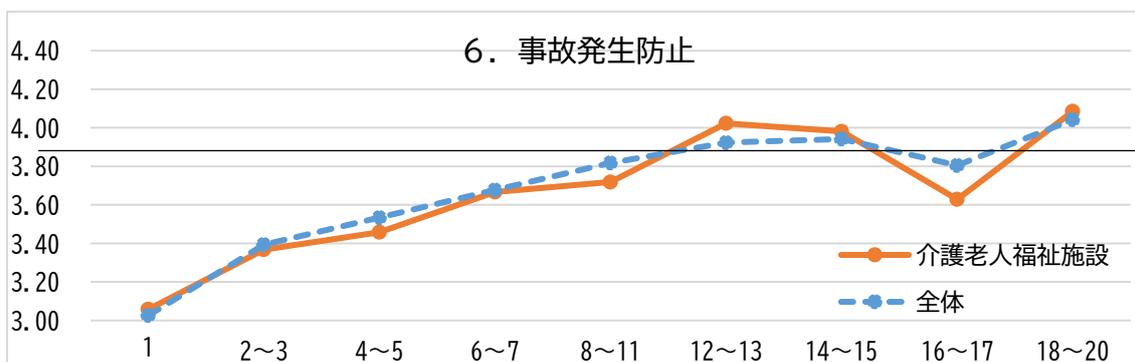


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

5. 感染症対策・衛生管理	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人福祉施設	3.07	3.31	3.54	3.59	3.74	3.97	3.96	3.63	4.04
全体	3.13	3.37	3.57	3.61	3.80	3.88	3.90	3.75	3.94



6. 事故発生防止	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人福祉施設	3.06	3.37	3.46	3.67	3.72	4.02	3.98	3.63	4.08
全体	3.03	3.39	3.53	3.68	3.82	3.92	3.94	3.80	4.04



介護老人福祉施設（特養）の特徴として、全体的には6~7年目にかけて、一定程度の介護技術習得の伸びがみられるが、8~11年目にかけてその伸びがいったん鈍化するところにある。8~11年目となると介護現場において中核的立場となり、介護現場での統括的立場、また後進の育成を任されることから、自身の介護技術の延伸については後回しとなっているのではないかと考えられる。言い換えるといわゆる「ほったらかし」世代とも言える。

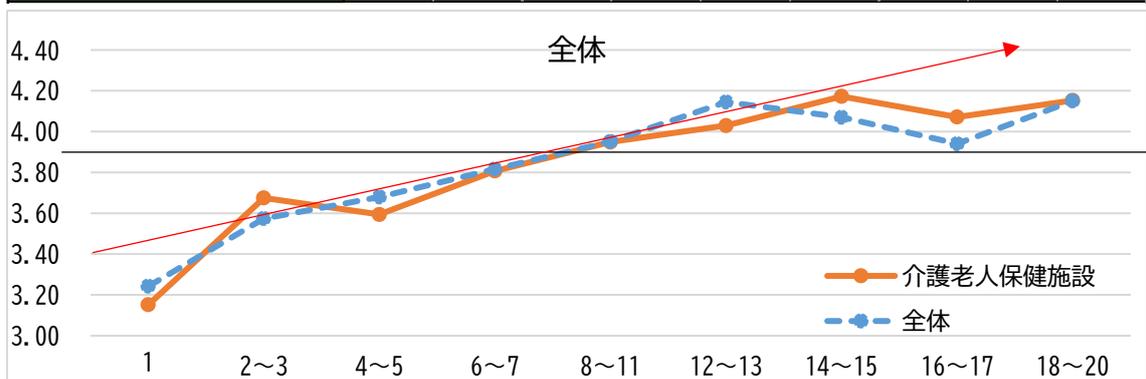
効果的なOJTとして、8~11年目の介護職員に対して改めて介護技術習得状況を確認し、基本介護技術の定着確認とともに、更なる介護技術の高みを目指すための教育プログラムの提供を行っていくことが必要であると考えられる。

また、14~17年目にかけて著しく介護技術の低下がみられている。このことは非常に懸念されることであり、いわゆるベテラン層について、早急に介護技術のチェック、特に利用者への声掛けなど、ベテラン世代でよく省略してしまうようなことについて、改めてその意義を確認し、介護技術の低下を招かない取り組みが必要であると考えられる。

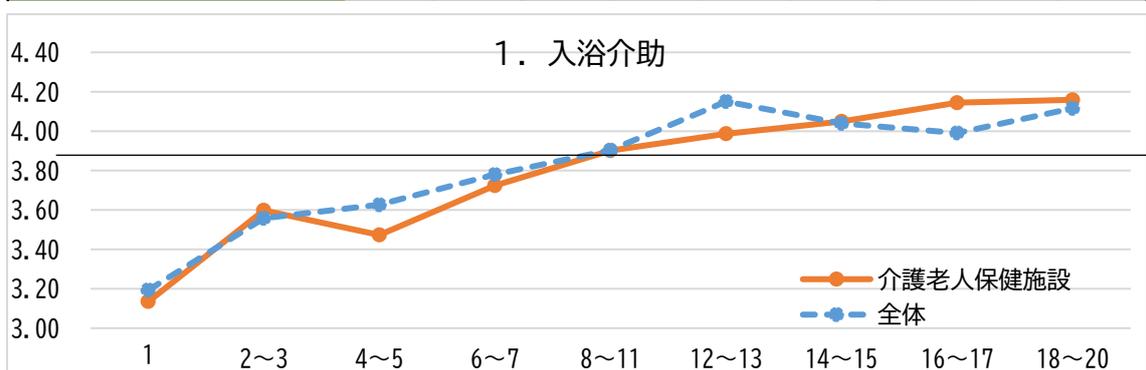
■ 介護老人保健施設（老健）

	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
人数	50	94	70	66	116	34	36	30	30

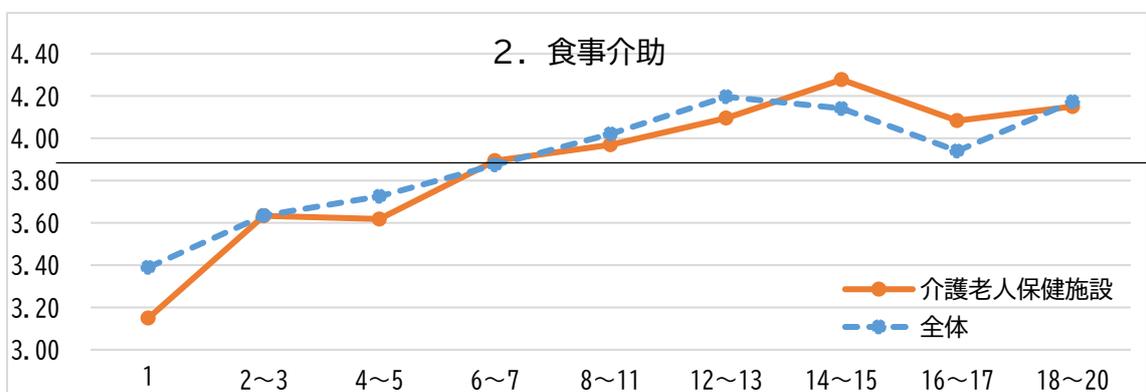
全体	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人保健施設	3.15	3.67	3.59	3.81	3.95	4.03	4.17	4.07	4.15
全体	3.24	3.57	3.68	3.82	3.95	4.15	4.07	3.94	4.15



1. 入浴介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人保健施設	3.14	3.60	3.47	3.72	3.90	3.99	4.05	4.14	4.16
全体	3.19	3.56	3.63	3.78	3.90	4.15	4.04	3.99	4.12

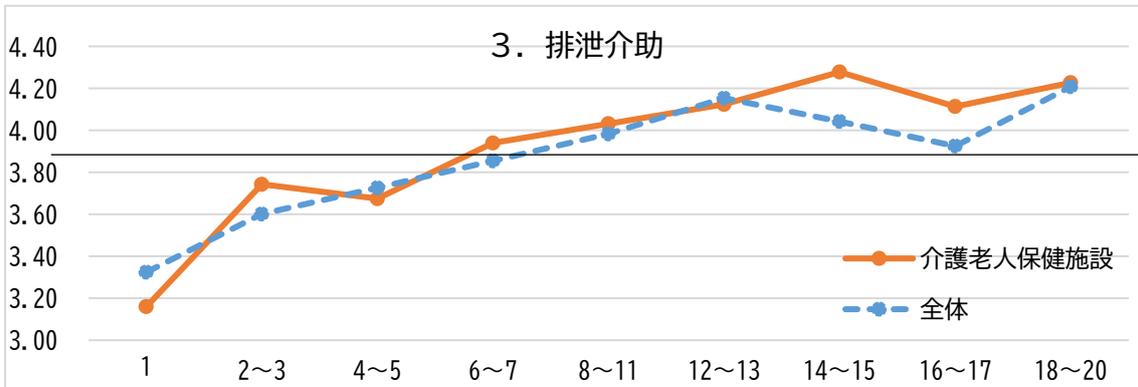


2. 食事介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人保健施設	3.15	3.63	3.62	3.89	3.97	4.10	4.28	4.08	4.15
全体	3.39	3.64	3.73	3.87	4.02	4.20	4.14	3.94	4.17

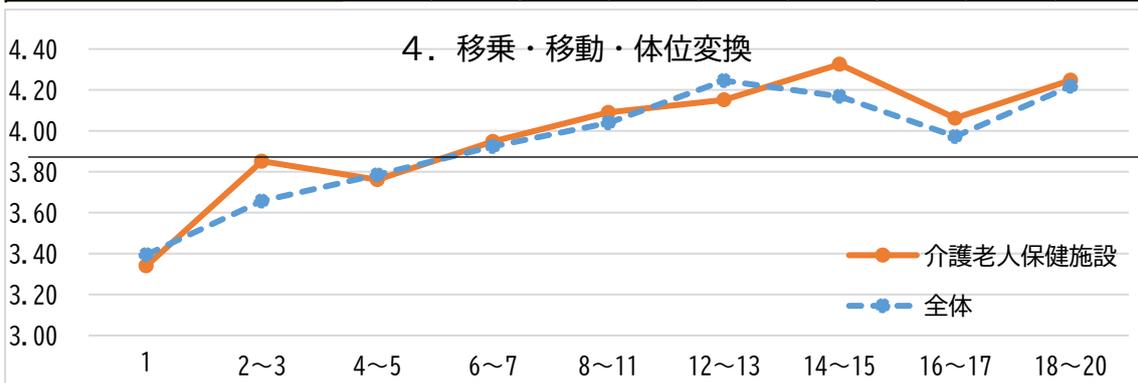


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

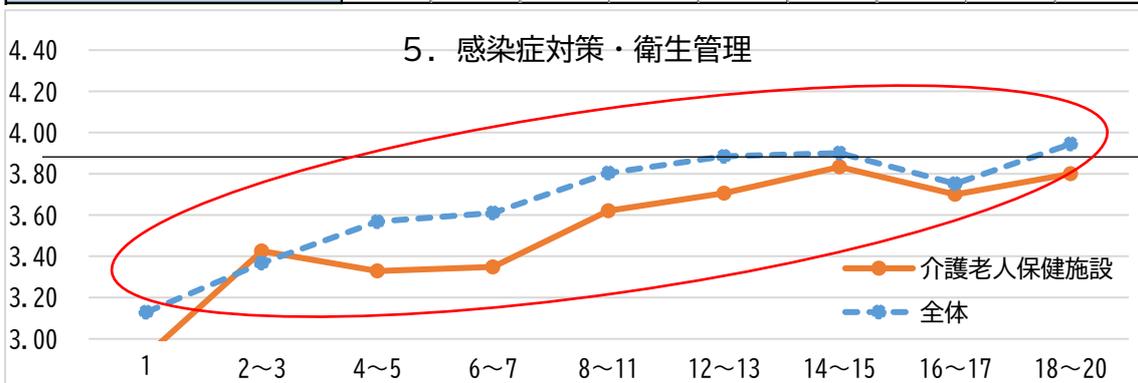
3. 排泄介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人保健施設	3.16	3.74	3.67	3.94	4.03	4.12	4.28	4.11	4.23
全体	3.32	3.60	3.73	3.85	3.98	4.15	4.04	3.92	4.21



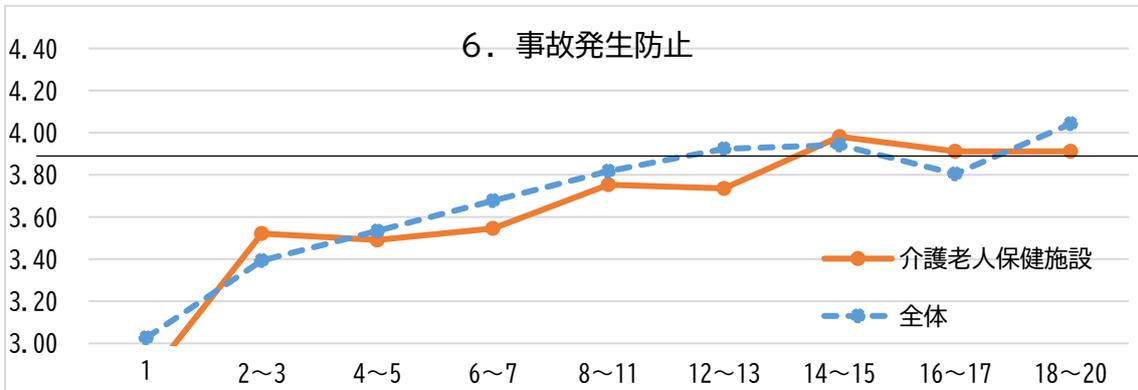
4. 移乗・移動・体位変換	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人保健施設	3.34	3.85	3.76	3.95	4.09	4.15	4.33	4.06	4.25
全体	3.39	3.66	3.78	3.92	4.04	4.25	4.17	3.97	4.22



5. 感染症対策・衛生管理	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人保健施設	2.92	3.43	3.33	3.35	3.62	3.71	3.83	3.70	3.80
全体	3.13	3.37	3.57	3.61	3.80	3.88	3.90	3.75	3.94



6. 事故発生防止	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
介護老人保健施設	2.83	3.52	3.49	3.55	3.75	3.74	3.98	3.91	3.91
全体	3.03	3.39	3.53	3.68	3.82	3.92	3.94	3.80	4.04



介護老人保健施設（老健）の特徴として、全体的にはほぼ経験年数と比例して介護技術の習得度合いがされていることにある。

一方で、感染症対策衛生管理については平均より低く出ていることが見られ、懸念される場所である。評価の基準として、厳しい目であるからこそ、そうした結果となっている、あるいは、新型コロナ感染症拡大対策において非常に危機感を感じているとも読み取れるため、その点、留意が必要と考えられる。

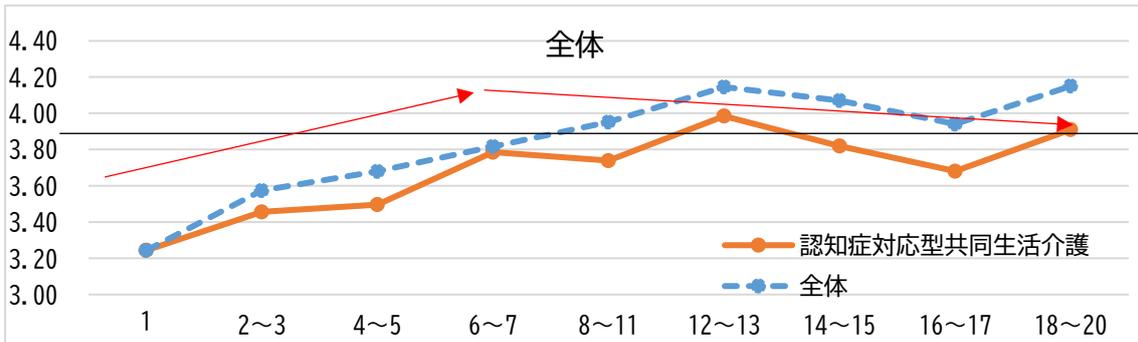
総じて、いわゆる施設系としては模範的教育プログラムが確立されている可能性が読み取れ、他の介護サービスにおいても参考となるものがあると考えられる。そうした内容について幅広く共有していくことが重要であると考えられる。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

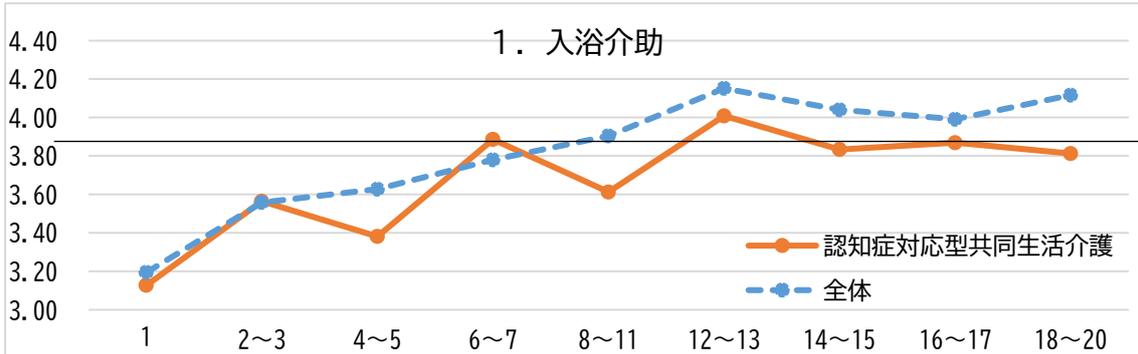
■ 認知症対応型共同生活介護（GH）

	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
人数	14	40	42	35	63	28	16	11	13

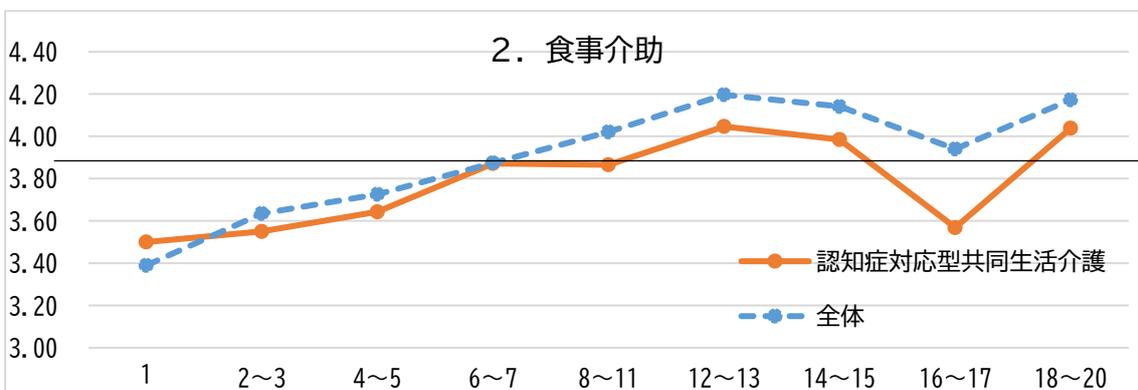
全体	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
認知症対応型共同生活介護	3.24	3.46	3.50	3.79	3.74	3.98	3.82	3.68	3.91
全体	3.24	3.57	3.68	3.82	3.95	4.15	4.07	3.94	4.15



1. 入浴介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
認知症対応型共同生活介護	3.13	3.56	3.38	3.89	3.61	4.01	3.83	3.87	3.81
全体	3.19	3.56	3.63	3.78	3.90	4.15	4.04	3.99	4.12

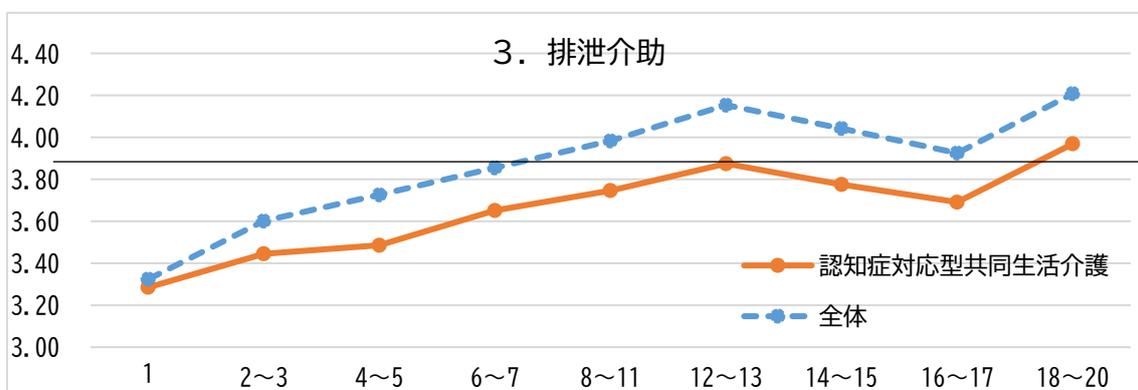


2. 食事介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
認知症対応型共同生活介護	3.50	3.55	3.64	3.87	3.87	4.05	3.98	3.57	4.04
全体	3.39	3.64	3.73	3.87	4.02	4.20	4.14	3.94	4.17

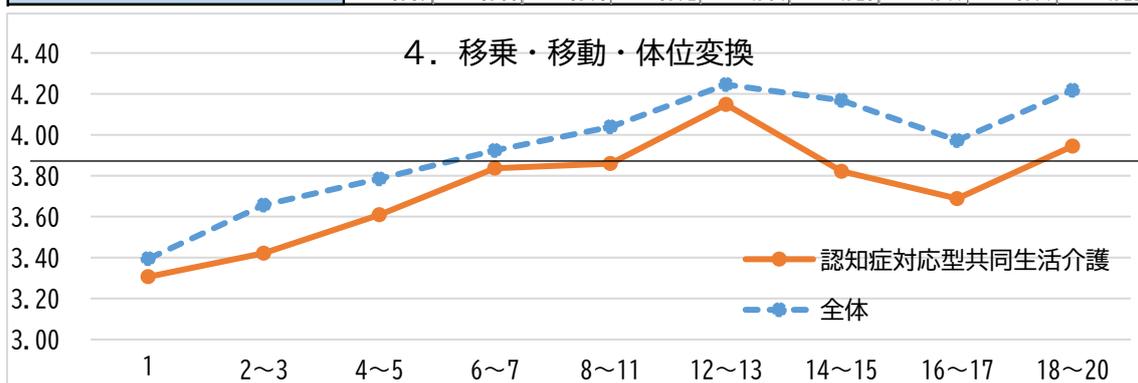


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

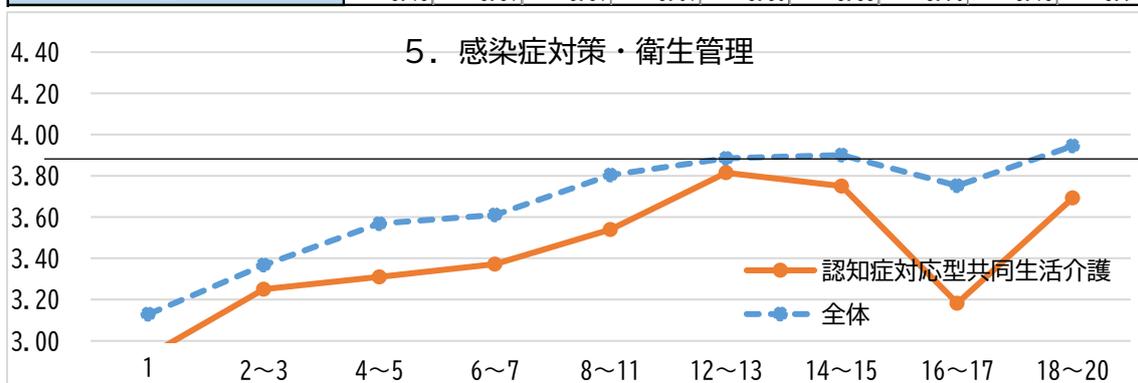
3. 排泄介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
認知症対応型共同生活介護	3.29	3.45	3.49	3.65	3.75	3.87	3.78	3.69	3.97
全体	3.32	3.60	3.73	3.85	3.98	4.15	4.04	3.92	4.21



4. 移乗・移動・体位変換	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
認知症対応型共同生活介護	3.31	3.42	3.61	3.84	3.86	4.15	3.82	3.69	3.95
全体	3.39	3.66	3.78	3.92	4.04	4.25	4.17	3.97	4.22

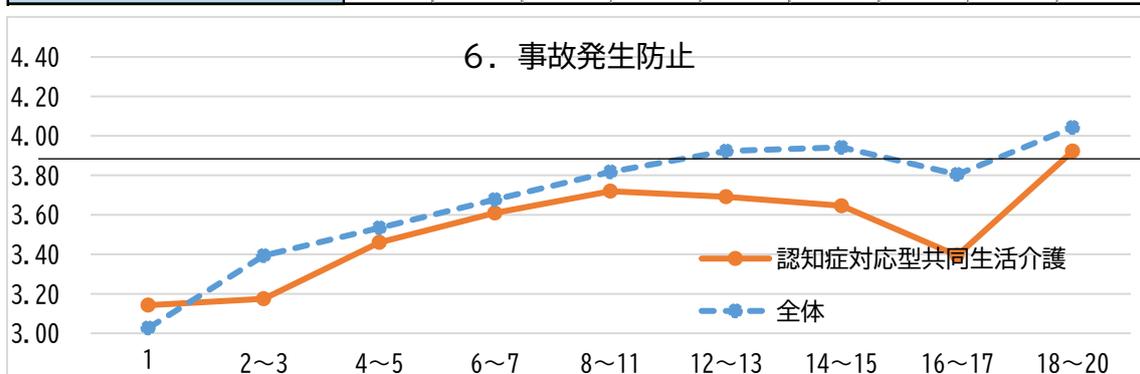


5. 感染症対策・衛生管理	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
認知症対応型共同生活介護	2.93	3.25	3.31	3.37	3.54	3.81	3.75	3.18	3.69
全体	3.13	3.37	3.57	3.61	3.80	3.88	3.90	3.75	3.94



第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

6. 事故発生防止	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
認知症対応型共同生活介護	3.14	3.18	3.46	3.61	3.72	3.69	3.65	3.39	3.92
全体	3.03	3.39	3.53	3.68	3.82	3.92	3.94	3.80	4.04



認知症対応型共同生活介護（GH）の特徴として、全体的に平均を大きく下回っていること、並びに介護技術の習得の伸長があまり見られないことにある。

特に6~7年目以降の介護技術習得状況について伸びがみられていないこと、また、感染症対策、衛生管理や事故発生防止については全体平均を大きく下回り続けていることが非常に懸念される。

「排泄介助」については声掛けによる体調確認や利用者に状態に応じた介助が必要となるが、認知症症状のある方に対して、そうしたコミュニケーションによる情報収集が困難であり、介護技術としての習得の伸びが図られないとも考えられる。言い換えると、介護現場での介護職員がそうしたことを行うことに対して疲弊しているとも考えられる。

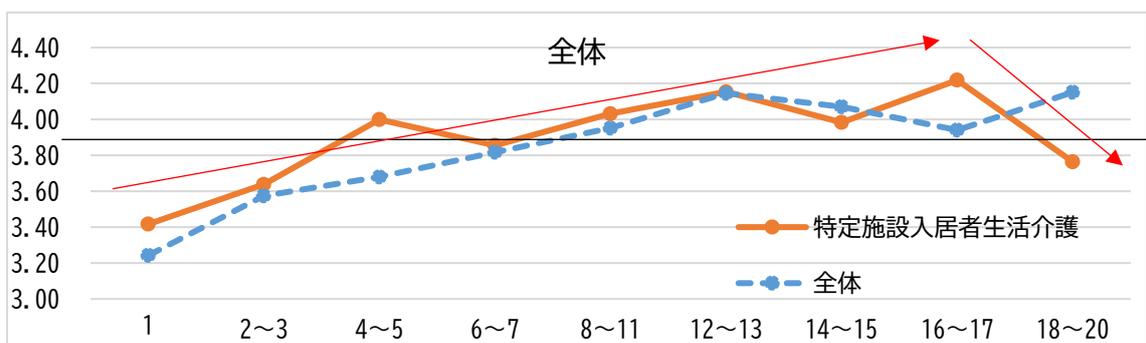
また、感染症対策・衛生管理についても、介護職員として最大限実施はしているものの、感染症対策における専門的知識の習得まで、なかなか及ばない実態があると考えられる。

こうしたことから、認知症対応型共同生活介護（GH）については、運営法人に人材育成を委ねるだけでなく、自治体や関係機関など公的支援により、排泄介助や、感染症対策などの介護技術向上支援を実施していくことが必要であると考えられる。地域他事業所と連携してOJTを行う工夫や、第三者評価の機会を有効に使うことも有用と思われる。

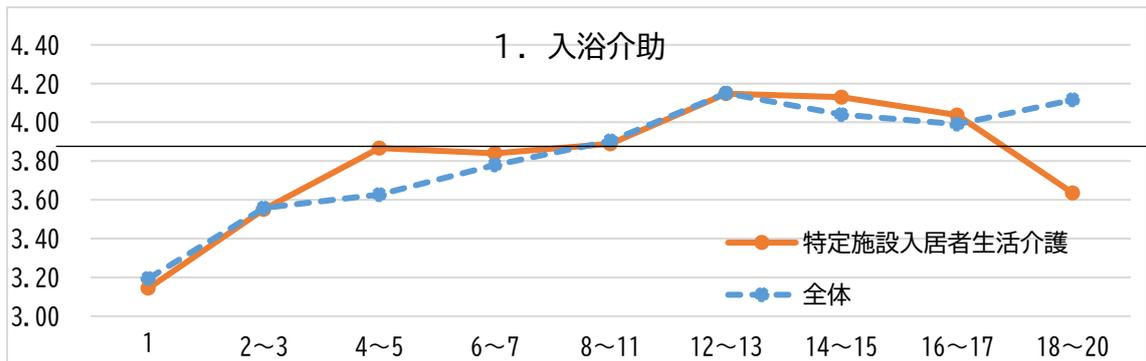
■ 特定施設入居者生活介護（特定）

	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
人数	37	43	35	25	53	9	6	3	7

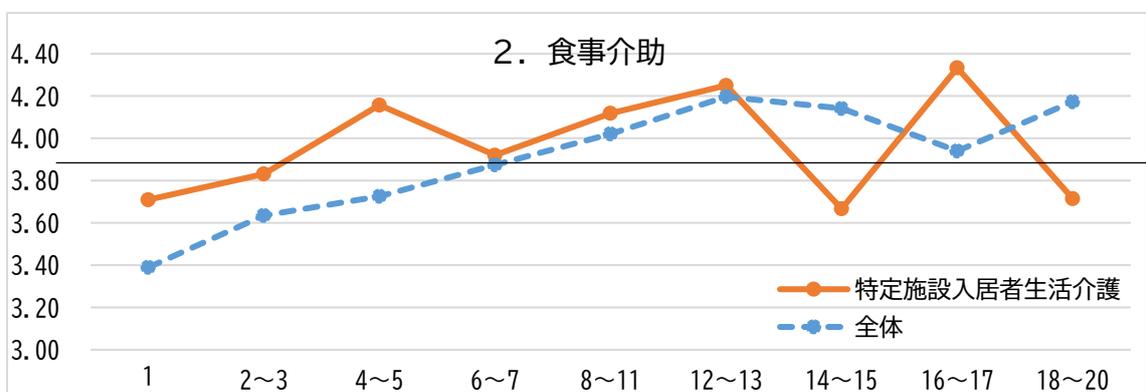
全体	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
特定施設入居者生活介護	3.42	3.64	4.00	3.86	4.03	4.15	3.98	4.22	3.76
全体	3.24	3.57	3.68	3.82	3.95	4.15	4.07	3.94	4.15



1. 入浴介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
特定施設入居者生活介護	3.14	3.55	3.87	3.84	3.89	4.15	4.13	4.04	3.63
全体	3.19	3.56	3.63	3.78	3.90	4.15	4.04	3.99	4.12

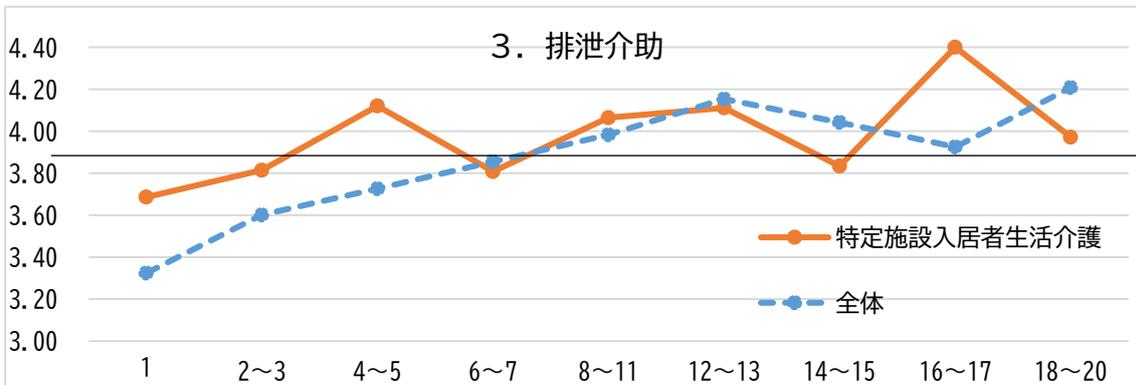


2. 食事介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
特定施設入居者生活介護	3.71	3.83	4.16	3.92	4.12	4.25	3.67	4.33	3.71
全体	3.39	3.64	3.73	3.87	4.02	4.20	4.14	3.94	4.17

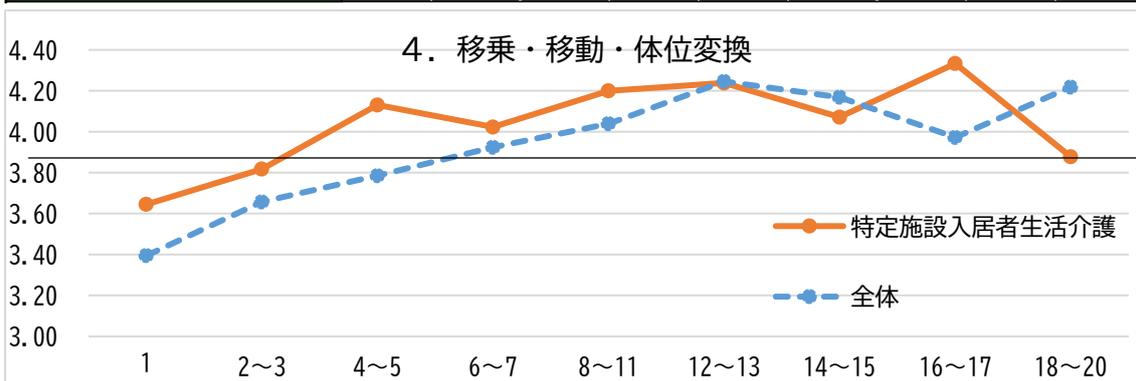


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

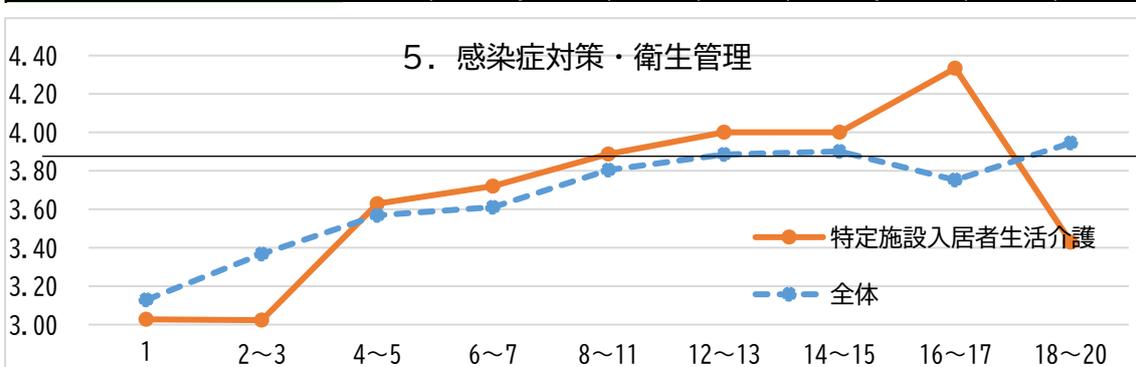
3. 排泄介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
特定施設入居者生活介護	3.69	3.81	4.12	3.81	4.06	4.11	3.83	4.40	3.97
全体	3.32	3.60	3.73	3.85	3.98	4.15	4.04	3.92	4.21



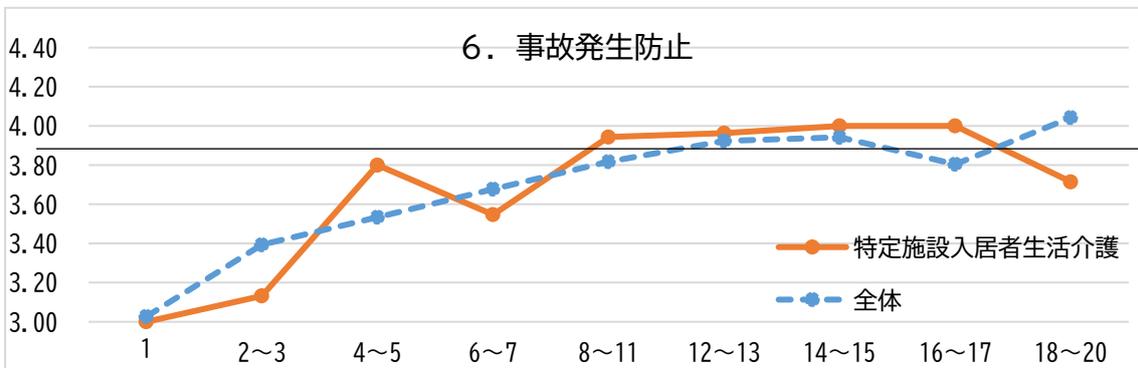
4. 移乗・移動・体位変換	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
特定施設入居者生活介護	3.64	3.82	4.13	4.02	4.20	4.24	4.07	4.33	3.88
全体	3.39	3.66	3.78	3.92	4.04	4.25	4.17	3.97	4.22



5. 感染症対策・衛生管理	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
特定施設入居者生活介護	3.03	3.02	3.63	3.72	3.89	4.00	4.00	4.33	3.43
全体	3.13	3.37	3.57	3.61	3.80	3.88	3.90	3.75	3.94



6. 事故発生防止	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
特定施設入居者生活介護	3.00	3.13	3.80	3.55	3.94	3.96	4.00	4.00	3.71
全体	3.03	3.39	3.53	3.68	3.82	3.92	3.94	3.80	4.04



特定施設入居者生活介護（特定）の特徴として、16～17年目に向けて緩やかながらも確実に介護技術の習得が図られていることにある。また、「食事介助」「排泄介助」「移乗・移動・体位変換」について1年目から高い水準にあることが挙げられる。いわゆる基本介護技術に対し、入職してすぐの研修プログラムがあり、充実している可能性が読み取れる。

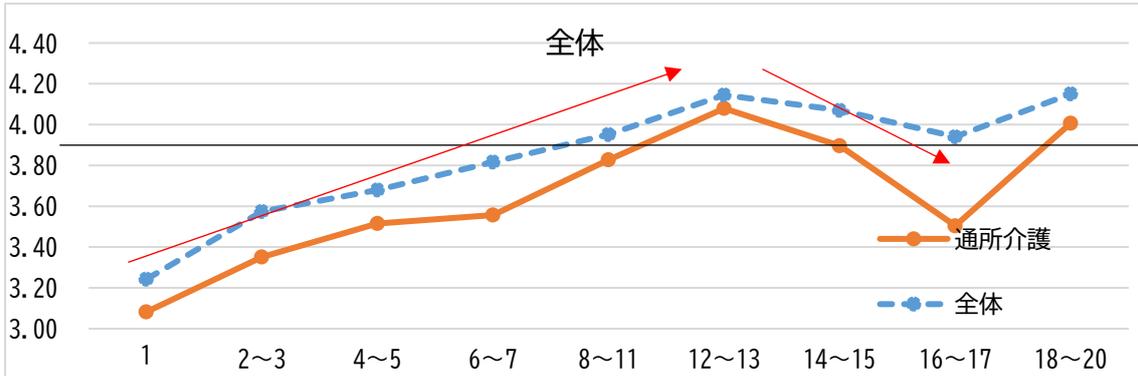
一方で、「感染症対策・衛生管理」「事故発生防止」については、1年目では低い水準にあり、2～3年目にかけても介護技術の伸長があまりみられていない。その点、要因は不明確ではあるが、先の基本介護技術に対する研修プログラムとの違いについて確認が必要である。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

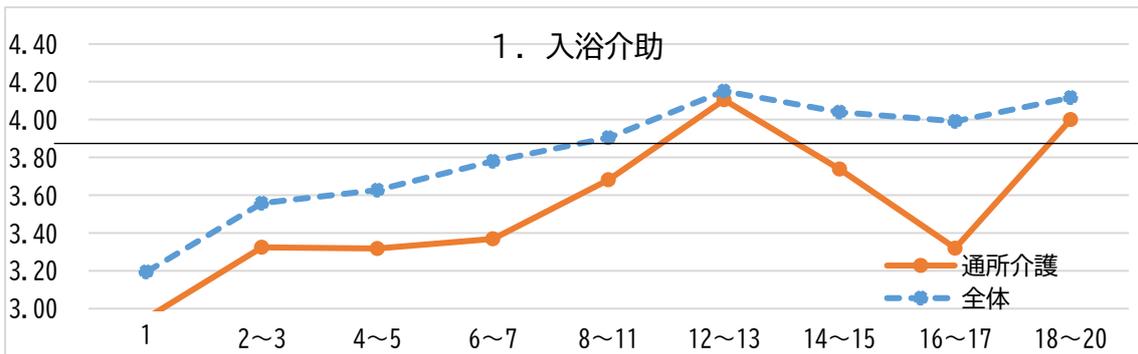
■ 通所介護（通所）

	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
人数	35	60	58	48	93	16	14	8	20

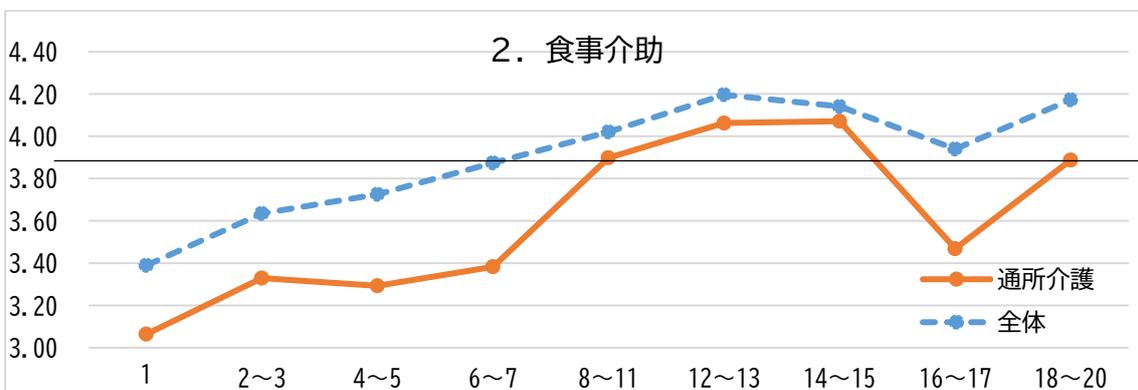
全体	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
通所介護	3.08	3.35	3.52	3.56	3.83	4.08	3.90	3.50	4.01
全体	3.24	3.57	3.68	3.82	3.95	4.15	4.07	3.94	4.15



1. 入浴介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
通所介護	2.95	3.32	3.32	3.37	3.68	4.10	3.74	3.32	4.00
全体	3.19	3.56	3.63	3.78	3.90	4.15	4.04	3.99	4.12

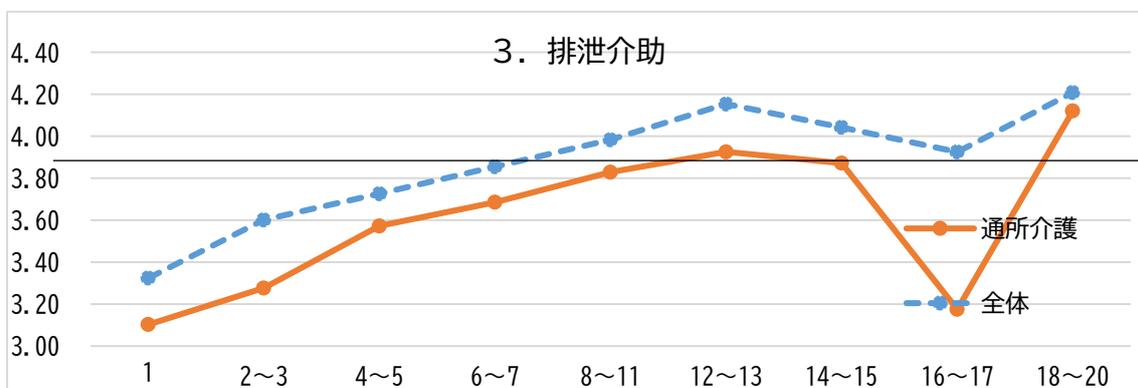


2. 食事介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
通所介護	3.06	3.33	3.29	3.38	3.90	4.06	4.07	3.47	3.89
全体	3.39	3.64	3.73	3.87	4.02	4.20	4.14	3.94	4.17

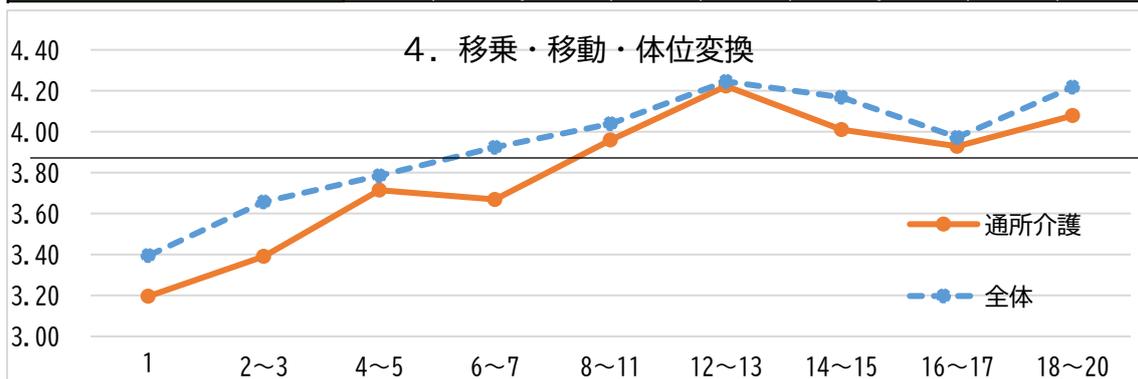


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

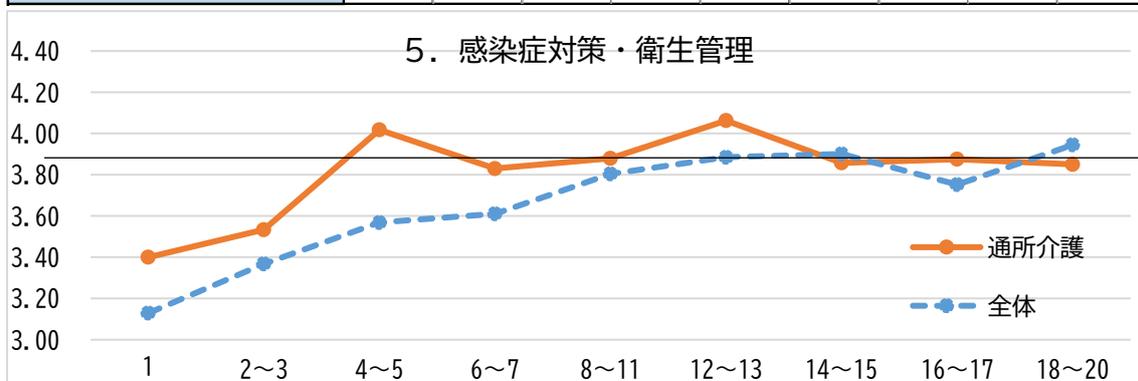
3. 排泄介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
通所介護	3.10	3.28	3.57	3.69	3.83	3.93	3.87	3.18	4.12
全体	3.32	3.60	3.73	3.85	3.98	4.15	4.04	3.92	4.21



4. 移乗・移動・体位変換	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
通所介護	3.20	3.39	3.71	3.67	3.96	4.22	4.01	3.93	4.08
全体	3.39	3.66	3.78	3.92	4.04	4.25	4.17	3.97	4.22

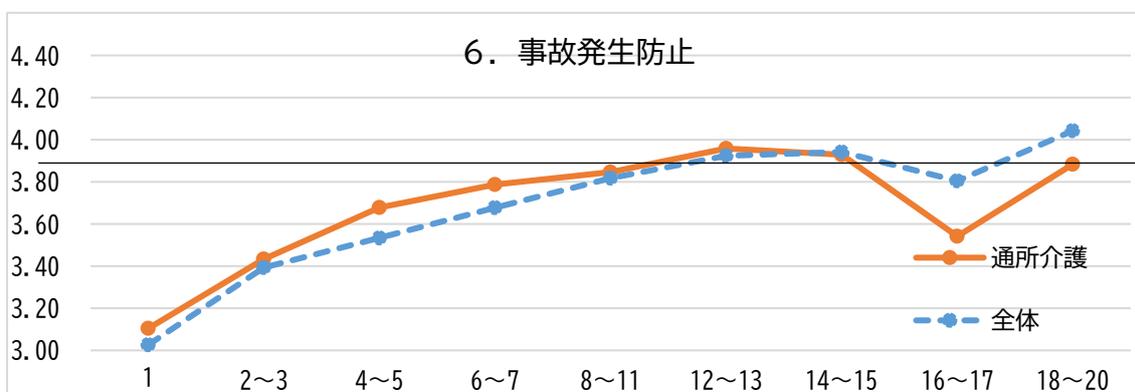


5. 感染症対策・衛生管理	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
通所介護	3.40	3.53	4.02	3.83	3.88	4.06	3.86	3.88	3.85
全体	3.13	3.37	3.57	3.61	3.80	3.88	3.90	3.75	3.94



第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

6. 事故発生防止	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
通所介護	3.10	3.43	3.68	3.79	3.85	3.96	3.93	3.54	3.88
全体	3.03	3.39	3.53	3.68	3.82	3.92	3.94	3.80	4.04



通所介護（通所）の特徴として、経験年数全体を通して平均を大きく下回っていることにある。また、「入浴介助」「食事介助」「排泄介助」「移乗・移動・体位変換」といった基本介護技術については、1年目において平均を大きく下回っており、特に「入浴介助」「食事介助」については6～7年目まで伸長が見られないことにある。

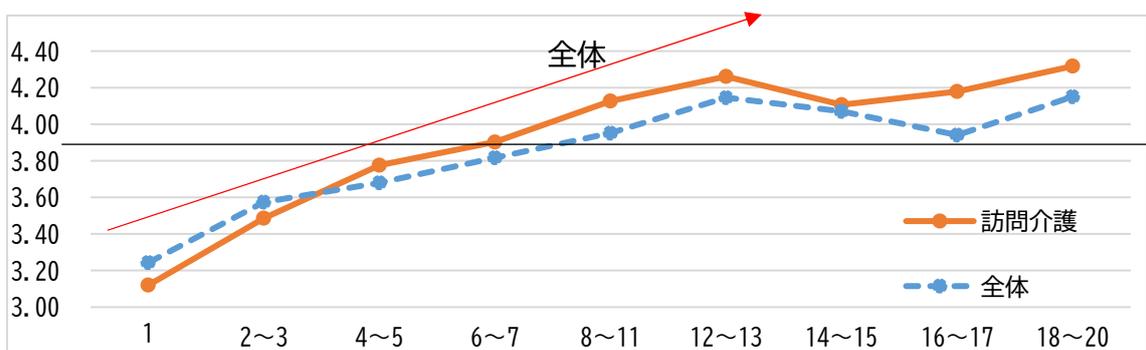
基本介護技術について1年目において平均を大きく下回っているということから、通所介護においては、介護未経験者の採用が多いのではないかと推察される。また、通所介護は決められた時間内に、入浴・食事・送迎といった決められたサービスを提供するという特性があるため、介護未経験者の採用者に対して、例えば入浴介助だけを覚えてもらう、食事介助だけ覚えてもらうといった、いわゆる業務分業化にならざるをえない環境にあるということが考えられる。

業務分業化の良し悪しは別として、介護職員の資質向上の観点からすると、介護は幅広い知識と経験が必要になることから、通所介護においては可能な限り意図的なジョブローテーションを行うことが求められる。

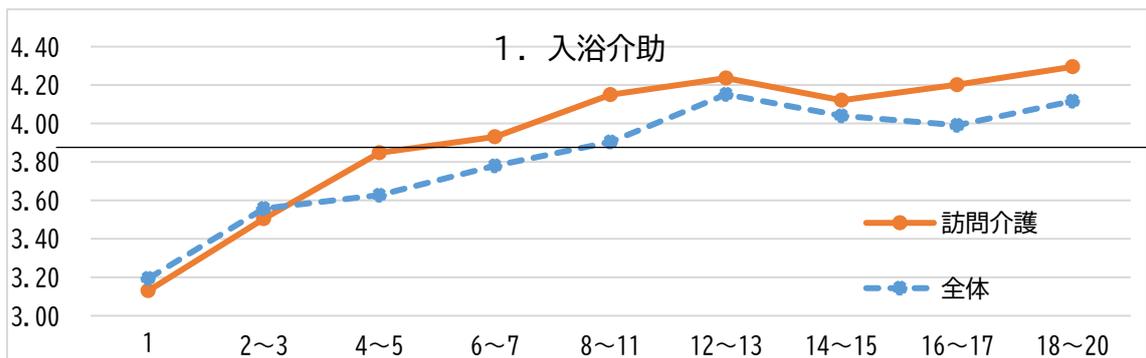
一方で、介護未経験者の採用が多いとすると、通所介護は介護職を目指す方にとって、ハードルが低く、介護分野に入りやすいサービス種別であると考えられる。介護の担い手不足、介護人材確保が困難な状況においては、非常に重要な役割を担うともいえるため、採用後の人材育成について、先の意図的ジョブローテーションなど含めて介護業界全体での議論・検討が必要である。

■ 訪問介護（訪問）

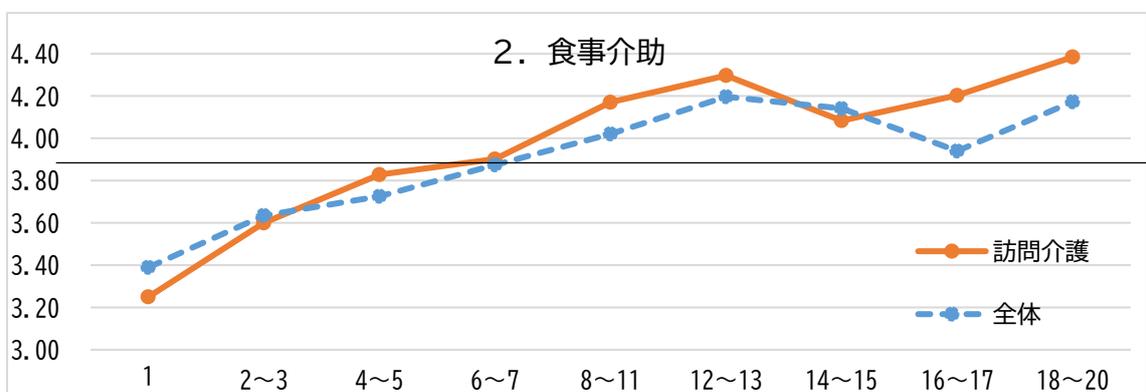
	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
人数	46	50	49	56	82	32	12	16	26
全体									
訪問介護	3.12	3.49	3.78	3.90	4.13	4.26	4.11	4.18	4.32
全体	3.24	3.57	3.68	3.82	3.95	4.15	4.07	3.94	4.15



1. 入浴介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
訪問介護	3.13	3.50	3.85	3.93	4.15	4.24	4.12	4.20	4.29
全体	3.19	3.56	3.63	3.78	3.90	4.15	4.04	3.99	4.12

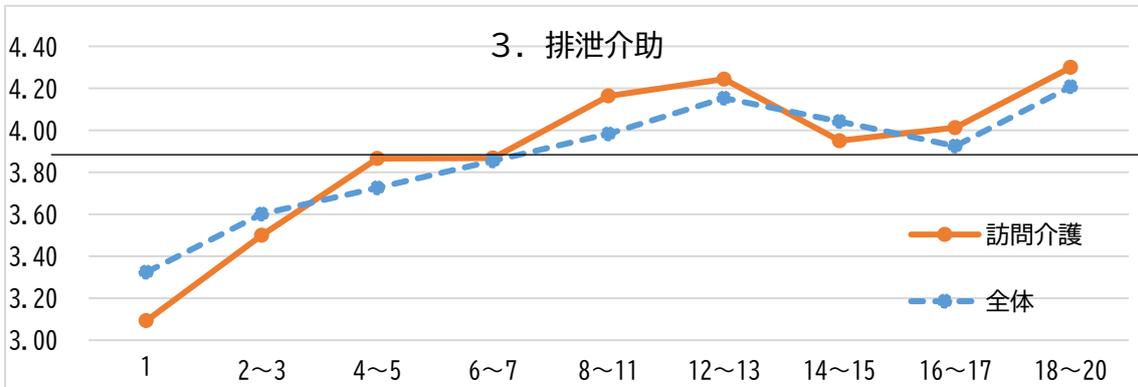


2. 食事介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
訪問介護	3.25	3.60	3.83	3.90	4.17	4.30	4.08	4.20	4.38
全体	3.39	3.64	3.73	3.87	4.02	4.20	4.14	3.94	4.17

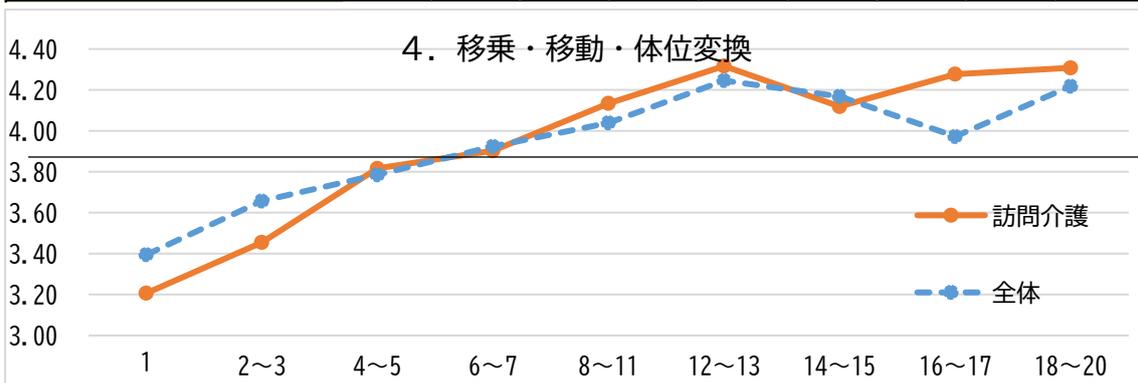


第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

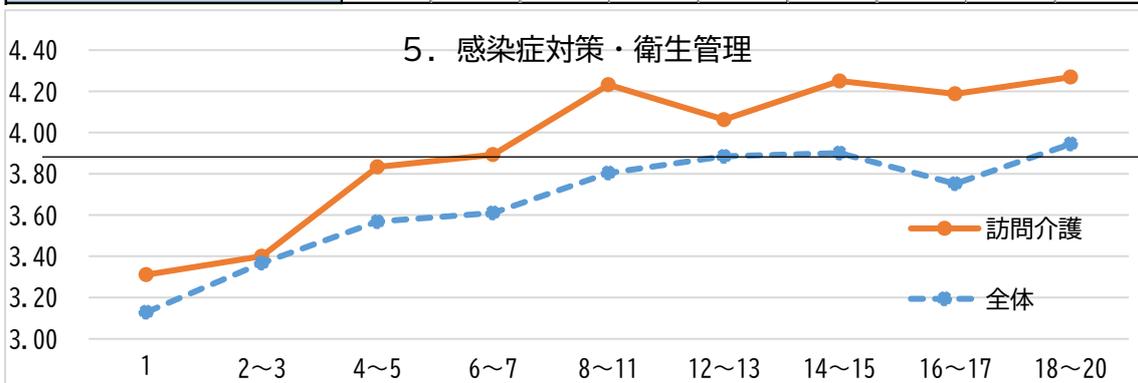
3. 排泄介助	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
訪問介護	3.09	3.50	3.87	3.87	4.16	4.24	3.95	4.01	4.30
全体	3.32	3.60	3.73	3.85	3.98	4.15	4.04	3.92	4.21



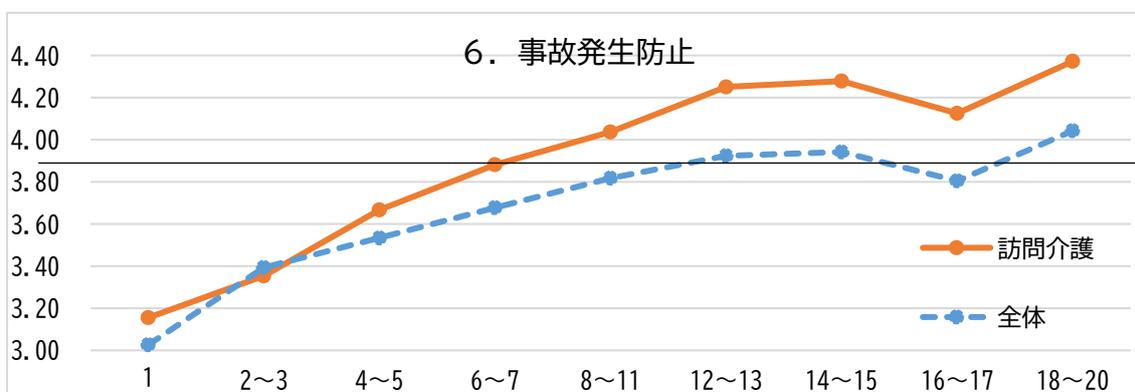
4. 移乗・移動・体位変換	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
訪問介護	3.21	3.45	3.82	3.90	4.13	4.32	4.12	4.28	4.31
全体	3.39	3.66	3.78	3.92	4.04	4.25	4.17	3.97	4.22



5. 感染症対策・衛生管理	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
訪問介護	3.31	3.40	3.83	3.89	4.23	4.06	4.25	4.19	4.27
全体	3.13	3.37	3.57	3.61	3.80	3.88	3.90	3.75	3.94



6. 事故発生防止	1	2~3	4~5	6~7	8~11	12~13	14~15	16~17	18~20
訪問介護	3.16	3.35	3.67	3.88	4.04	4.25	4.28	4.13	4.37
全体	3.03	3.39	3.53	3.68	3.82	3.92	3.94	3.80	4.04

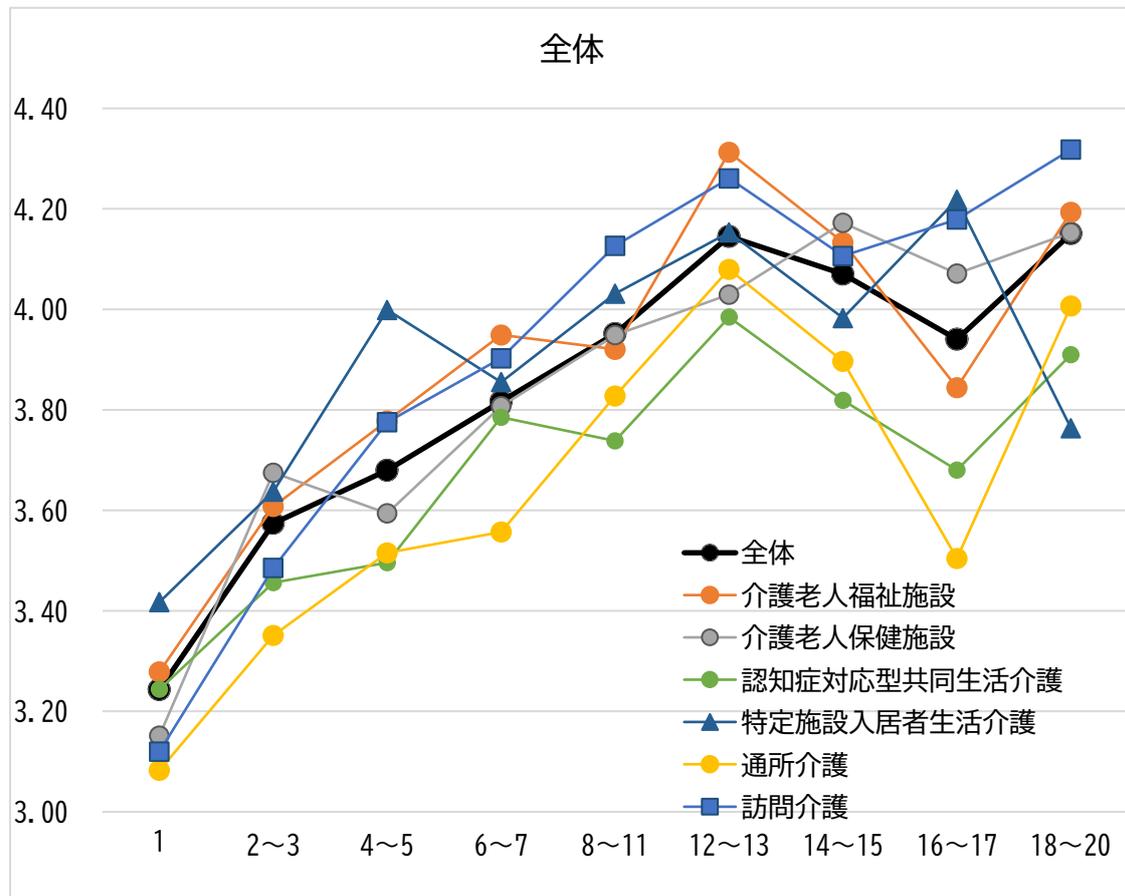


訪問介護（訪問）の特徴として、経験年数全体を通して平均を大きく上回っていることにある。また、「入浴介助」「食事介助」「排泄介助」「移乗・移動・体位変換」といった基本介護技術については、1年目において平均を下回っているが、2～3年目、あるいは4～5年目において平均を上回っており、介護技術向上について経験年数で滞ることなく確実に上達していることがあげられる。

基本介護技術について1年目において平均を大きく下回っているということから、訪問介護においては、通所介護同様介護未経験者の採用が多いのではないかと推察される。そうした中において、2～3年目、あるいは4～5年目において平均を上回っているということは訪問介護においては研修プログラムが確立され実施されているといえる。あるいは、訪問の場合はほとんどのケースにおいて一人で行くことが多く、利用者への介護の際、他のメンバーに頼ることができないという特性から、必然的に利用者の状態に応じた介護を行う必要があり、また、提供した介護に対する利用者の反応については、介護を提供した介護職員本人に直接返ってくるため、利用者の状態把握やアセスメントといった介護を提供する前に根拠を確認しておく必要がある。そうしたことから系統だったケア提供、根拠に基づく介護について現場でのOJTが図られる環境にある、といえる。

また、感染症対策・衛生管理、事故発生防止の取り組みについて4～5年目以降、平均を大きく上回っている。このことは最初の1年目だけの教育プログラムだけでなく、長期に渡ってリスクマネジメントに関する教育プログラムが実施されていると考えられ、モデル的な取り組みもあると考えられる。

サービス種別 まとめ



3. 介護技術指摘事項・要指導 記載データ分析

(1) 記載データ分析概要

今回の介護技術評価票（N=3,898票）において、他者評価において要指導（評価点1～3）と評価された技術項目について、その評価根拠（評価の理由）内容について、被評価者（介護職員）の経験年数群別で整理を行い、内容分析を行った。

他者評価により「要指導」と評価された観点とは、すなわち現場で提供されたケアの実態であり、現場でのOJTが求められる事項と整理できる。

以下、評価項目別（計29項目）、経験年数を6群に分け、（1年目群、2～3年目群、4～6年目群、7～9年目群、10～15年目群、16～20年目群）の評価理由（評価根拠）につき抽出して示すこととする。

1. 入浴介助	
① 体調の確認等	
介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始めることに同意を得るとともに、声をかけて、利用者の状態を確認する	
経験年数 1年目	1～3点と評価した理由
	利用者の顔を見ていない、殆ど声掛けしておらず同意を得ず対応
	同意を完全に得られない状況で介助する場面あり。
	医療職等に事前確認は行ったが、本人への体調確認が出来ていなかった。今から入浴をすること、体調の確認をすることが必要
	声掛けしているが、しっかり反応しているか確認が足りなかった。
	利用者への状態確認を怠っている
	どのような介護をするか、説明はするが体調確認ができていない。
	利用者が理解できるような説明が行えていない。求めている説明を理解出来ていない。
経験年数 2・3年目	1～3点と評価した理由
	利用者の体調管理の確認をしていない
	これから何をすることが時々説明せず介助を行っていた
	発語ができない利用者などに対し声掛け、状態確認ができていない場面がある。利用者のADLの把握が不十分なことがある。
	声掛けをせず介助していた。
	介助前の声掛けは行い何をするのかの説明も行っていたが、説明内容がやや不足していた為、利用者が戸惑ってしまった場面があった。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

声かけはしているようだが、声が小さく職員でも、ほとんど聞き取れない。バイタル測定の実施はできていた
同意を得るところが強引な時がある

4～6年目 1～3点と評価した理由
バイタルを確認せず入浴をする事がある。利用者への説明不足、状態確認ができていない。
お声掛けを行うが利用者に理解を得ずに対応をしてしまう。
動作前に声掛けは行っていたが、同意を得てから動作をはじめるまでの時間が短すぎる。バイタル測定など体調を確認することはできていたがそれ以外にも状態の確認が必要。
声かけし拒否されたが、そのまま実施しようとした。
声かけが一方的であり利用者さんの確認がとれないまま決めている。
入浴が始まる旨の説明は十分であったが、利用者のバイタル確認がされていなかった。
バイタルの数値のみに頼っており利用者の気分やその背景に何があるか観察が浅い。

7～9年目 1～3点と評価した理由
声かけの際に、相手が理解できるように声掛けができていなかった
介助時説明はするものの、同意を得ていない時があり、不十分であった。
入浴前「これからお風呂ですよ」との説明はあったが、体調確認は行われず。利用者に体調不良の兆候は見られなかったが、声掛けにて確認するべきだった。
説明が十分でない部分があった。同意も曖昧な所があった。
バイタル医療職の指示確認は出来ているが、本人への説明同意をきちんと確認していない。
声掛けの様子が見受けられない。
バイタル測定せず誘導しようとした

10～15年目 1～3点と評価した理由
同意を得るような声かけではなく一方的な声かけの仕方だった。体調を把握する声かけがなかった。
声かけを行わず介助に入る場面もみられた。
目線を合わせ説明をし同意を得ていたが、状態観察が欠けていた
必ず声掛けをしているが、毎回車いすの後ろ側から行っている。利用者目線で声掛けしていない。状態の確認も自ら見てではなく、声だけでの確認になっている。
やる事が当たり前になってしまっている為、状態確認は行っているが、これから何をするという説明がもう少し行えると良い。
利用者の状態確認があまい。バイタルの確認不足
介助前には動作の声掛けを行っていたが、一方的な指示の声掛けとなっており利用者の声・反応の確認ができていない場面がある 特に口頭での意思表示が困難な方に対して無言で介助を行う場面が見られた 利用者の反応がどのような形で得られるか個人の特性の理解が必要である。

16～20年目 1～3点と評価した理由
何をするかの声かけは行えている。詳細の説明、同意の声かけが不足している。
「お風呂に行きますよ。」など大まかな声掛けで終わっている。こちらの都合で誘導するので、体調確認、同意が不十分のことがある。
同意を得る前に援助が始まり、状態が確認できていない
声掛けはするが一方的 同意を得ていることが少ない
声掛けはしているものの利用者様のペースに合わせておられない
流れ作業的
利用者への説明が不十分で、状態確認が足りない

「入浴前の体調確認」について、体調確認自体を行っていない、また利用者へ声かけを行っていない、声かけを行っても同意を取っていない、介助内容の説明を行っていない、といった介護技術が提供されていないことが、「要指導」の理由として挙げられている。利用者の意思尊重、体調確認を行っていないとのこれらの指摘は、1年目職員群のみならず、各経験年数群で指摘されており、経験年数に関わらず、実施していない職員が存在する実態が示されている。

② 衣服着脱の介助
気候条件に合わせて、順序だった衣服と履き物の着脱の介助を行う

1年目 1～3点と評価した理由
衣類は気候に合わせて選んでいたが、着脱時、着脱健ができていなかった。
着脱介助時の声掛けが不十分。着せ方に迷いがあり遅い。
気候条件に合わせて介助を行なえていない
利用者の意向確認がなされていない
脱衣の際、健側から患側の順にやっていないことがある。
気象にあった衣服が選択できていない
バスタオルで覆う等の配慮ができておらず、プライバシーの配慮に欠けていた。

2・3年目 1～3点と評価した理由
気候に合わせて衣服を選別し用意する事はできる。着脱については、一部介助の利用者に対し全介助で行ってしまう事がある為ADL把握が課題。
声かけが少ない、できることは自分で行うよう促しが必要
温度に合わせて衣類を選ぶことができていない
利用者好みでなく、1セットを準備し対応。着脱は残存機能を活かさず介助が多かった。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

脱健着患は知ってはいるが、実施できていない。
利用者の意思を聞いていない、自分のやり易いようにしていた
着脱の手順間違い有り

4～6年目 1～3点と評価した理由
勝手に衣服を選び介助を行った。
靴を脱ぐときに足首をもっていた
準備された病衣を着せることはできるが、不足しているものに気づかないことがある。
基本的な介護技術は取得できていない。プライバシーへの配慮も出来ていない。
衣類を脱ぐ際、着患脱健が行えていなかった
入居者様に伺わず介助者の体感温度に合わせがちで、後から「寒い」や「暑い」と言われている
必要以上の介護を行い、利用者のできる行為を見逃している。

7～9年目 1～3点と評価した理由
利用者が出来る着脱まで介助者がやっけてしまっている。
ご本人への確認が不十分。
日中暖かくなっても、暖かい上着を着たままの時があり、ご利用者の体温調節面においても適切ではなかった。
着脱行為に危険在り（脱健着患のミス在り）
利用者に聞きながらの衣類の準備が出来ず、季節に合った洋服選びができていなかった。
脱衣した状態からの待ち時間が長い時があり、そのような時にバスタオルをかけるなどの配慮ができていない。
迎え袖ができておらず、強引に服を引っ張っている。

10～15年目 1～3点と評価した理由
本人の体調に合った衣服の選択をすることができていない。
利用者様が寒そうにしているにも、気遣う配慮にかけている。
洋服を選ぶ声かけが足りない。バスタオル等でのプライバシーの配慮が足りない。自立支援で足りない部分がある
職員目線で決めてしまっているところがあります。少しでも相手の意思で選んでもらえるよう声かけなど工夫しましょう。
利用者の身体状況を把握せず、脱健着患を理解していないことがある。
残存能力を活かしていない。嗜好の確認をしていない
サイズが合っていない物や傷んでいる物を選ぶ時がある。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

16～20年目 1～3点と評価した理由
着脱時、無理な体勢で行うこともある為、身体状況に応じた対応が出来るよう、また季節に応じた衣類の選定が出来るような指導が必要。
履物を履かせていないことが見受けられる。
やや乱雑さが目立つ。靴下が左右逆になっていることがあった。
説明と同意がなく自身で完結している。健側患側の概念を忘れることがある
評価に相違なく、しばしば利用者の希望をくみ取れていない。
洋服の選択が気候に適していなかった。
上半身を脱衣した際にタオルをかける等のプライバシーの配慮がかけていた。

「衣服着脱の介助」に関しては、経験年数を積んだ職員であっても、気候への配慮をしていないこと、本人の体調の考慮、本人の意思尊重の対応がされておらず、職員主導で介助が実施されていること、衣服着脱の順序は根拠に基づくケアではなく、我流の対応となっているとの指摘があげられている。

③ 手浴の介助
清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、手浴の介助を行う

1年目 1～3点と評価した理由
手が拘縮している方の手浴に時間がかかり、お湯の温度が冷めていた。
事前の声掛けが不十分で、驚かせていることがあった。
介助実施後も手がべたついているときがある。また指示しないと保湿剤の塗布を行わない時が多い。
自立支援の促しせず、職員が手を洗っておられた。
必要品の準備忘れがある。利用者皮膚状況に応じたマッサージ対応が不十分。
概ねできるが、なぜ実施するのか理解していない為、拭き残しがあった。
指の間など細部の洗浄が行えておらず。

2・3年目 1～3点と評価した理由
適度な温度になっていない。
皮膚状態の観察が不十分。
声かけが少ない、手指間を洗っていない
基本的な手浴の手順が守られていない
手浴後の声掛けとケア内容が不十分。一部の必要物品も用意できなかった。
嫌がる人に無理に行うことがある
拘縮している手のひら・指間の洗浄が出来ていなかった。汚れが残っていた。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

4～6年目 1～3点と評価した理由
指間や付け根を洗わず、拘縮の人の手の内側を洗わない
湯の温度確認が不十分。十分な手浴の説明が不足
実施経験が少なかったため、適切な薬の種類について把握できていない所があった。
肌が乾燥されていても保湿剤を使用されない。
手の硬さをとれないまま、方向などの工夫ができていない
自己流のやり方。肌の状態をあまり気にしている様子がない。適切な用具・手段について言語化できていない。
指間までしっかり観察できていないことがあり、変化に気づけない事あり。

7～9年目 1～3点と評価した理由
手浴の際に手をこする等していないため汚れや垢を取り除けていない
爪切りなどの、ケアまで気を遣えていない。拘縮した指先まで清潔を保てていない。
掌にハンドソープ ok/手のひらと手指間洗浄 ok/手首と甲を1回なでたのみ/ふき取り雑(指間と甲)
あまり介助の機会がなく、手順等あやふやなところがある。
洗面器等を使用して適温のお湯で十分に温め血行促進に至ってない。
道具が不十分であり、何度も行ったり来たりであった。
手指をきれいにしようということが優先になりがちで皮膚の観察に注意が向いていない。

10～15年目 1～3点と評価した理由
拘縮ある利用者に対しての工夫がなく洗浄不十分
手浴後の爪が不潔で洗浄が不十分だった為
事前の説明なく手浴の介助をしている
物品準備ができていなかった。
方法や手順の知識がない
麻痺側の手の中の洗いをきちんとできていない。
手浴後の声掛けとケア内容が不十分。一部の必要物品も用意できなかった。

16～20年目 1～3点と評価した理由
爪ブラシの使用などを活用し、丁寧に汚れを落としてあげた方が良い。爪の間に汚れが残っていた。
まだ手順が明確でなく、うるおぼえなどところがある。
こすりが足りない
手を洗い拭くことまでは出来るが保湿剤を塗ることを忘れる時がある
手浴時の必要物品・意義等は理解していない
準備不足によりお待たせしていた
ご自身で洗って頂く様声掛けをしていない

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

「手浴介助」については、実施の場面が限られるといった記載が確認されたが、評価結果からは、経験年数を経ている群の職員であっても、湯温に配慮できていない、手順通りにできていない、汚れを除去できていない、皮膚観察ができていない、といった指摘がされている。

④ 足浴の介助

清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、足浴の介助を行う

1年目 1～3点と評価した理由

声かけが足りない。同意を得る前に行為に至る。

足浴中のお湯の温度が介助中に下がることに更に気を配ることが必要

足浴方法は心得ていましたが、上半身が寒そうだった。

くるぶしや足の指の間、鼠蹊部などの汚れが溜まりやすい部位の洗浄が早足だったため、指導しています

事前に乾いたタオルを用意できておらず、お客様を待たせてしまった

実践できておらず。今後指導、実践が必要

足浴をする場所の環境の整備、準備が不十分

2・3年目 1～3点と評価した理由

足が濡れたまま靴下を履いてもらっていることがあった。

指先、間や足裏の清浄が丁寧に行えてない。

足浴時に足の状態確認ができていなかった。

声かけが少ない、足指間を洗っていない

お湯に付けただけであった。

何を目的として実施しているかは理解していない。お湯の温度確認もされなかった

利用者に温度の確認が出来ていなかった。

4～6年目 1～3点と評価した理由

足趾を1本ずつ洗わず趾間や付け根、足底部をしっかりと洗わない

経験がなく手順の理解・確認ができていない。

肌が乾燥されていても保湿剤を使用されない。

水虫のある利用者なので乾燥が不十分のまま靴下を履かせていた

お湯の温度確認不足。足浴バケツのお湯が少ない。何の為の足浴かの理解が乏しい

タオルの準備不足で足元が水浸しになりがち

丁寧ではあるが、時間をかけてしまい、せっかくの足浴を行うも足が冷えていってしまっている。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
足浴をする機会が少ない為、手順に戸惑いあり
足浴の際に足をこする等していないため汚れや垢を取り除けていない
指間の洗い残しあり。湯温低く、湯量が足りない。
温度の確認をしたが、本人には少し熱かった/足指は少し雑 拭いた後に垢残り洗い直し
道具が不十分であり、何度も行ったり来たりであった。
実施する機会が少ない事もあり、今後OJTが必要である。
介助がゆっくりで、利用者の体を冷やしてしまう心配あり。

10～15年目 1～3点と評価した理由
足浴後、下位が濡れてしまっていた為
足の指など拭ききれていない。きちっと乾いていないのに靴下をはいている。
事前の説明なく足浴の準備をしている。体調確認不足。
方法や手順の知識がない
事前の排泄確認、室温、湯温の確認～後片付けが不十分。
観察している様子がない
本人に同意説明もなしに実施したため驚かれていた。

16～20年目 1～3点と評価した理由
足浴の必要性や効果に関する知識が浅い為、今後も指導が必要。手浴同様、下肢の諸関節の拘縮が強い方に対する対応が不十分。
足の指まで丁寧に出来ていなかった
介助をする間に目を離してはいけない。
まだ手順が明確でなく、うるおぼえのところがある。
もう少し声かけをしてあげるといい
用具や湯温は確認できているが、趾間などの洗いが不十分である。
適切な物を用いて使用していない事があるので、担当時指導している

「足浴介助」に関しても、ケアの提供場面に限られるといった記載が確認されたが、要指導の理由としては、経験年数を積んでいる群においても、必要な準備ができていない、湯温の設定、保温への配慮ができていない、洗いが不十分、体調確認や観察を実施していない、との基本介護技術が提供されていない実態につき、指摘がなされている。

⑤ 入浴の介助
清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、入浴の介助を行う

1年目 1～3点と評価した理由
用具の種類や水場の危険の理解が浅い
シャワーの温度の確認。まず自分の手などで確認する。
洗身で、必要時に応じて介助する利用者に対して、抹消から中枢に向けて洗う行為が不確かである為。
自力で出来るところの声掛けをしてない。
上半身裸の時にタオルをかけるなど羞恥心への配慮が出来ていない。お湯を体にかける時、足からではなく、膝からかけていた。シャワーチェアの左の手すりが開いたままであった。
移動介助もできているが、他作業があるとき、健側に移動し介助する事があり転倒のリスクについて心配があり
声掛けは行えているが言葉より先、または言葉と同時に行動に移ってしまっていた。

2・3年目 1～3点と評価した理由
適切な用具の使用方法の知識不足
入浴中にその場を離れることがあった。
用具の準備不足があった。
利用者が行えるところも職員が介助を行っていた。
入浴前後のプライバシーの配慮に欠けている。身体にバスタオルをかけるパーティションをする等、配慮が必要。
抹消から洗うことができていなかった。陰部の汚れも残っていた。
拘縮のある方の介助に不安を感じている様子であった。

4～6年目 1～3点と評価した理由
本人のできるどころも行ってしまう事がある。
声かけが一方的である
お湯をかける際、湯温の確認の失念していた。末端から中枢に向かってお湯が掛けられていなかった。
基本的な介護技術は取得できておらず自己流である。
介助はできているが時折、入浴中の利用者から目を離し、リスクに対する考えが疎かになる事がある。
利用者の身体状態に応じ実施できているが、プライバシーの配慮にやや欠けている。
利用者が一人で洗い場へ行くのを見守りできず。いきなり湯の温度を自分の手で確かめ利用者の手でも確かめ背中から湯をかける。シャンプー時痒いところがないか聞かず利用者が首、前胸部しか洗わないが洗えていないところを介助しない。抹消から中枢へ洗わず湯がぬるくなったり熱くなる事があり利用者の背中で温度の調整をする

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
浴槽へ入る際に、支えられるような立ち位置が取れていなかった
機器の使用、その中での安全配慮など不十分
シャワーの水温を確認し、末梢から中枢の順で実施できていたが、声掛けや説明が不十分である。
残存機能を活用する事ができていない時がある。
座位姿勢を整えるなど、安全への配慮が足りない。声掛けも少ない。
声かけと同時にケアを行い、スピード優先の傾向が見られた
洗い方が雑で洗い残しが多い。

10～15年目 1～3点と評価した理由
湯温を自分で確認せず、利用者に確認しているので、利用者から「暑い」「冷たい」と言われている。
利用者の全身状態が確認できていない
事前の説明がなく入浴介助施行している。自立支援の促し不足
利用者がシャワーの水を「痛い」と言っているにも関わらず、掛け続けていた。
事前準備が不十分で業務が止まってしまう様子見られる。
抹消からの温度確認ではなく肩にそのままお湯をかけていた。声かけ確認もやや一方的
介助前には動作の声掛けを行っていたが、一方的な指示の声掛けとなっており利用者の声・反応の確認ができていない場面がある 特に口頭での意思表示が困難な方に対して無言で介助を行う場面が見られた 利用者の反応がどのような形で得られるか個人の特性の理解が必要である

16～20年目 1～3点と評価した理由
流れ作業のように見える
基本的な洗身介助は行っているが、洗いが不十分になりがちな耳穴や、指の間、体胴のしわの間等丁寧さに欠けることがある。また残存能力の活用が行えておらず、全介助の為、今後も指導が必要。
温度の注意など不足している
「お風呂に行きますよ。」など大まかな声掛けで終わっている。こちらの都合で誘導するので、体調確認、同意が不十分のことがある。
観察が雑な為、見落としが多い
基本的な介助はできているが、大きな声で声掛けするなど、プライバシーの配慮に欠ける。
入居者様のペースではなく介助者のペースになることあり。

「入浴介助」の介護技術について、いずれの経験年数群においても、必要な準備ができていない、湯温確認、洗い方、体調確認や観察の未実施、自立支援の促しができていない、プライバシーに配慮できていないといった基本介護技術の提供ができていないことにつき、「要指導」との指摘がみられる。

⑥ 整容（洗面）
清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を洗って拭き乾かす介助を行う
1年目 1～3点と評価した理由
入居者のペースに合わせての介助が出来ていない事がある。
利用者の顔を拭く時に少し力加減が強く感じた
声掛けを行いながら行えるようになるとよい
個々のADLに合わせた支援方法の把握と実際にきちんと顔が洗えているかどうかの確認が必要
時折顔の汚れに拭き残しがある。
声掛けを忘れてしまうことあり、安全面の注意が必要。
あまり丁寧に使われていない。自分で上手くできていない時の一声も声掛けを行ってほしい。
2・3年目 1～3点と評価した理由
利用者が行いやすい様にポジショニングを考えていたが、袖口が濡れてしまう事あり。袖口を折り曲げるなどの配慮が必要。
目の周り、デリケートな部分を乱暴に行っていた。
声掛けは行っているが、チューブの洗顔ホームを手の平でのばさずに顔に塗っており、適切な使用方法ではなかった。
洗う・拭くは行えているも、観察ポイントの理解は出来ない様子
眼脂の拭き取りや髭剃り介助が不十分
気管切開部分に対しての注意が不足。
慣れないせいか時間がかかりすぎです
4～6年目 1～3点と評価した理由
「顔を洗って下さい」と声掛けなし。すぐに温タオルにて介助にて拭いている。
目を拭く際にながし拭きをしてしまうので目じりが赤くなってしまう
力が強くたまに利用者様から痛がられる 手順は理解している
基本的な介護技術は取得できておらず自己流である。
乾かし方不十分
あまり丁寧に洗面を行う事ができていなかった。
自分のペースで進めていた、ご自身でできることへの促しがない
7～9年目 1～3点と評価した理由
説明がたりなかった。（説明なくタオルを渡した）
顔拭きの順番、ガーゼの交換が不十分

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

顔拭きができる利用者に対しても介助していた。自立支援に対する意識が不十分である。
耳の裏も拭き乾かすことを忘れている。
腕を伝って袖口などが濡れた後の、拭き取りや更衣などがきちんとできていない時がある。
同じ面で違う個所を拭いており、目やにが取れていない。
目ヤニなどのふき取りができていない

10～15年目 1～3点と評価した理由
自立支援の促しができていない。
入浴後でも目ヤニが取れていないことあり。
洗面は出来ているが、乾燥予防は出来ていない。
顔の汚れが落ちていない
声掛けが不十分であり確認がない。
同意を得ずにそのまま介助に入る事がある。一つ一つの動作が少し早い時がある。
本人に確認しながら丁寧ではあったが、自分で出来る方に対する自立支援洗ケアが出来ていなかった。

16～20年目 1～3点と評価した理由
洗いまでは出来ているも、拭き取りや乾燥では不十分さが見られ、それに対するリスクの知識も浅い為、指導が必要。
洗顔の際、水洗いや石鹸の使用等の生活習慣や好み、肌の状態があるが、利用者様に対し確認を行われていなかった。
入浴時にタオルで顔を拭くが目脂の拭き残しがある時がある
手段改善の余地あり
温タオルを手渡す程度。洗面所への誘導はしている。
髭剃りや女性の口周りのケアなど、気づかないのかそのままにしていることが多い。
ご自身で洗って頂く様声掛けをしていない

「整容（洗面）」の介護技術に関しては、経験年数を経ているも、自立支援ができていない、洗顔の際の力の加減、拭き乾かす介助の仕方、観察の未実施などにつき、「要指導」として指摘されている。

⑦ 整容（洗髪等）
髪、頭皮、肌、爪などの身体部位の手入れの介助を行う

1年目 1～3点と評価した理由
介助自体に粗さがあり、なぜ介助一つを行うのかを十分に理解出来ていない。
爪の手入れがまだ経験が不足している。
洗髪しながらシャワーをかける時など慣れている利用者であっても行為が移るときに声掛けが必要
洗髪時の洗い残しがある
自ら気づき行うことが少ない
爪が伸びていたり、皮膚の乾燥などへの気づきがない事がある
皮膚状態の観察がしっかりできていない。

2・3年目 1～3点と評価した理由
整髪・肌の状態観察が不十分（保湿剤の活用など）
頭皮や皮膚などに関しては概ねできているが、爪に関しては伸びていても気が付かない、汚れがついていることあり。
利用者への声掛け配慮が不十分。
寝癖が残ったままであったりひげを剃っていない
髪をとかさずボサボサであった
洗髪後に泡がきっちり洗い流せていなかった。
洗髪後の頭皮の状態を確認していない。

4～6年目 1～3点と評価した理由
腹部や下肢の緊張感を和らげる姿勢をしない。タオルで泡を拭き取らない。髪の毛のブラッシングをしない
利用者によって観察が不足していることがある
観察力が足りず、爪、皮膚の状態の変化、異変を確認する事を忘れていたので指導する。
爪が伸びていたが確認行っていない。
爪や皮膚観察が不十分
自分から気づいて手入れを行う事がない。
乾燥後整容無

7～9年目 1～3点と評価した理由
洗顔の準備、浴後の爪切り行えず（本人は爪が伸びていた）
かさついている、発赤がある等の皮膚観察は出来ているが爪切りの介助に自信がない様子がある。
一つ一つのケアが雑。爪が伸びていても気にしない。怪我をするリスクを考えてほしい。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

なんとなく櫛を通しただけになっていた。利用者に声をかけ利用者の好みを確認しながら実施するよう伝える
洗髪時シャンプーが顔にまでかかっている。
爪が伸びているが報告がない。
髪、頭皮を利用者に声を掛けながら洗浄しているが、爪の洗浄、爪切りは行えていない。髭の剃り残しがある。

10～15年目 1～3点
洗髪の際にやや丁寧さが欠けていた。洗い流しが不十分。
爪の手入れ(短く綺麗に切れていない)が出来ていない。軟膏を塗り忘れていた事がある。
乾燥等皮膚状態の確認ができていない。
爪切り(特に足)が行われていない。爪の間が汚れている。
指示されないとやらない
爪が変形している場合に手入れを怠っている。ヤスリなどを使って手入れをする必要あり。
整容の意味が分からない

16～20年目 1～3点と評価した理由
髭剃りは適宜実施しているも、整髪(乾燥が不十分なことがある)や爪切り等はあまり実施していないので、今後も指導が必要。
入浴後の保湿、爪の手入れが不完全。
整容に対して気づきが無く、見過ごしてしまっています。
一方的に進めている
利用者の身なりや清潔に対してあまり気にかけおらず、口元が汚れていても退所の準備をしている。
白癬の方の爪の手入れが状態によりできない事がある
爪が伸びていても切ったり他職員へ申し送り切ってもらおう等すぐに対応できていない。

「整容(洗髪等)」の介護技術については、各経験年数群において、爪の手入れの視点が持っていないこと、洗髪の仕方、整容の観点自体を持っておらず、実施できていないこと等が、「要指導」として指摘されている。

⑧ 全身清拭
清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、全身を拭き乾かす
1年目 1～3点と評価した理由
末梢から中枢の順番で手順通り出来てない。
拭き取り不十分。スピードが遅い。
皮膚の状態に応じた拭き方の配慮に欠ける
事前の説明なく清拭を行っていた
手順が悪く寒い思いをさせている
適切な用具は用いていたが、細部に至るまでしっかりと清拭を行えておらず、指導を要した。
胸を隠す等プライバシーへの配慮が足りていない
2・3年目 1～3点と評価した理由
全身清拭の機会が少なく用具の準備忘れや手順を忘れている事が多い。
寝たきりの方の清拭時、順序を確認しながらできていたが時間がかかり過ぎて利用者に風邪を引かせてしまう可能性がある。
スクリーンを用いてプライバシーの配慮はできていたが、保温の面で、バスタオルで覆う等の配慮が不足していた。
実施時にバスタオルをかけるなどのプライバシーの配慮ができていなかった。
抹消から中枢に向けて拭くことができていなかった。
足浴・手浴・洗面はできるが、全身になると必要物品が増えるため準備ができていない
時間が掛かってしまい、利用者様に負担がある。スムーズに行えるよう、引き続き指導が必要
4～6年目 1～3点と評価した理由
利用者への説明なく同意を得ない。室温をそのままにしている。バスタオルでプライバシー、不必要な露出、保温ができていない。抹消から中枢にむかって拭かない。体幹は筋肉の方向に沿って拭けていない。拭いた後、乾いたタオルで水分を拭き取らない
無言で行っており、作業のようになっていることがある
抹消から中枢に向かって拭いていない。
露出部にタオルをかける等の配慮。寒さ対策が必要。
ホットタオルだけではなく、乾いたバスタオルの準備も必要。身体が冷えてしまう。
他の業務などで忙しい時は、声掛けを行わずに始めてしまう。意思疎通が難しい利用者に対しては、声掛けを怠ってしまう時がある。
手順を理解していない

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
末梢から中枢の手順で洗えていない。露出の配慮が不十分
手順良く行えるが、タオルで体を隠すなどの羞恥心への配慮が足りない。
道具が不十分であり、裸で待たせた。
清拭後の拭き乾かす介助が行えていません。
抹消部から中枢部へ向けての清拭が身についてない。
不慣れで手順が頭に入ってなく時間かかった
背中・足元のふき取りが出来ていなかった。

10～15年目 1～3点と評価した理由
居室の室温を温めずに清拭を開始していた為、利用者が寒い思いをしてしまった。
バスタオル等でのプライバシーや保温する配慮に欠けていた
清拭したのちの乾燥が不十分であった。
時間超過。プライバシーへの配慮、全身不可
観察などをしていない
時間超過。相手への負担を考慮し、全身は不可
室温管理や清拭時のお湯の温度を気にしていない

16～20年目 1～3点と評価した理由
時間の関係もあつたと思われるが、もう少ししっかりと拭きてからのほうが利用者が寒い思いをされなかった
事前の体調確認や保温・プライバシーへの配慮等が不足しがちなため、適宜指導が必要。(必要性は理解しているが忘れる)
タオルの温度の確認はできていた、清拭をする方向がちがっていた
室温調整、バスタオルを使い保温、プライバシーの配慮が欠けていた
利用者の羞恥心や快適性に配慮した手順となっていなかった。
基本の清拭方法・手順が全く理解できていない。
観察が雑な為、見落としが多い

「全身清拭」の介護技術については、必要な準備ができていない、保温に配慮できておらず、利用者に寒い思いをさせている、手順を遵守していない、プライバシーに配慮できていないといった、基本介護技術が提供されていない対応につき、指摘がなされている（各経験年数群に指摘あり）。

⑨ 顔の清拭
清浄や乾燥のための適切な用具や手段を用い、顔を拭き乾かす

1年目 1～3点と評価した理由
声掛けが少ない
タオルをお渡しすれば一部は拭ける方だが、全介助していた。
清拭する箇所の順番がまだ把握しきれていない。
目頭などの細かい部分が拭けていない。
ホットタオルなどを使用して、清拭しているが眼の周りなど十分に拭けていないところがある。
乾式タオルの準備がかけていた。
おしぼりでの清拭ではなくお湯やタオルを使用してほしい。

2・3年目 1～3点と評価した理由
目垢を取り除く際に乾燥して固まっていた。目垢をふやかしたり、抑え拭きを優しく行なうなどの配慮が必要だった。
顔を拭くだけになっている。
皮膚の弱い利用者に対して普通にこすっていた。
清拭は出来ているが乾燥の対応していない
本人への同意が不十分
目尻から目頭に向かって拭く。同じ面で数回拭くなど、手段を理解できていない。
顔拭きは、ただ拭いているだけで、タオルを裏返しにする等の感染への意識も薄く、目ヤニもそのまま

4～6年目 1～3点と評価した理由
タオルの衛生面の扱いを改善する必要がある。
きちんと清拭行えておらず、目やにがついている。
経験がなく手順の理解・確認ができていない。
目の周りの眼脂を取ろうとタオルでこすってしまい、赤くなっている。
順番・力の加減がうまく出来ないため、その都度指導が必要。
タオルの温度確認が不十分である。
タオルを裏返す等なく、感染への意識が薄い
説明はするが、同意を得ないまま介助することがある。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
ご本人の出来る事への声掛けができていない
目ヤニの拭き残しが見られる。
顔を拭く順番が違った
介助はされているが、タオルは冷たいままであり、温めたり等の意向確認はなし。又、タオルを裏返す等なく、終始同じ面を使用
顔拭きの順番、ガーゼの交換が不十分
目や耳の後ろなど、何度も使用したところで拭いていた
力が入り過ぎている

10～15年目 1～3点と評価した理由
朝、目やにがついたままだったりされていることが多い為
顔の洗浄について不十分であり改善の余地あり
ガーゼなどの物品が使用できていない
自立支援の促しができていない。
拭き方の手順が不十分ガーゼ面の交換がされていない。
声掛け不足。残存機能を活用し自分で拭いて貰えるような声掛けをしていない
拭いてはいるが目ヤニ、口周りは汚く、タオルを裏返す事なく、感染の視点も低い

16～20年目 1～3点と評価した理由
声掛けがみられない
高齢者の皮膚状態に関する知識が浅い為、目元や耳裏等が赤みを帯びることがある為、配慮点を重視した指導が必要。
丁寧に清拭行われているようだが、目の周囲等、皮膚が弱い部分への配慮が足りないようなので、まだ指導が必要だと感じる。
声かけが不足。作業のように手早い
耳を洗い忘れがち。
評価に相違なく、拭き残しが一部見られた。
手段に改善の余地あり

「顔の清拭」の介護技術に関しては、経験年数を経ている群においても、ガーゼやタオルの取扱い、感染への意識の欠如、手順どおりにできていない、利用者の皮膚状態に配慮できていない対応、等の指摘がされている。

2. 食事介助

① 体調の確認等

介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始めることに同意を得るとともに、声をかけて、利用者の状態を確認する

1年目 1~3点と評価した理由

事前の声掛けがなくコミュニケーションが薄く相手に説明が不足していると感じた。

状態観察、同意を得ることなく介助を行った。

事前の説明が普段から行えていない。また傾眠している利用者をそのままにしていたり、状態観察を行っている様子は少ない。

食べやすい座位の位置や体幹の傾きはないか等座位の安定を確認できていないこともある。顎が引けている状態か確認できていないときがあった。

声掛けをしたりしなかったりと、ムラがある。食事の内容をご利用者へ説明していない。覚醒を促す声掛けはできている。

同意は得ているが状態確認に不備がある

目線を合わせ事前説明、体調確認ができていない

2・3年目 1~3点と評価した理由

出来ている利用者と出来ていない利用者がいた。同意の確認忘れ

声かけが少ない。献立を説明していない

利用者の表情・姿勢などの確認ができていなかった。

当日の体調確認を怠っていた。声掛けが少ない。

無言で始めてしまうことがある

介助を始める前に声を掛けていたが姿勢を直さないままであった。

食事介助に慣れているが、同意や介助の際も手を拭くなどの動作が抜けており、指示する必要あり

声掛けが不十分で、利用者を怒らせていた。

4~6年目 1~3点と評価した理由

介助者からの一方的な声掛けになっている

食事前の説明、利用者様の同意をしていない。時折、声掛けをし状態を確認している。

介助に入る前に声掛けをしていない。姿勢が悪く、顎が下がっている状態に気づかない。

〇〇します、といった声かけがなく体調確認等の声かけもなし

介助をする為の声掛けが不十分であり、同意を得る前に介助している

姿勢の確保、お食事形態のチェック、顎が引けているかの確認がなかった。

利用者の状態確認（覚醒しているか等）が不十分

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
声掛けが不十分。ご利用者の状態をしっかりと確認せずに、作業に入ろうとする。
体調確認や、今から何を行うかが伝えられていない
説明については十分にできておらず、同意も得られていない状態で介助を進める傾向あり。
姿勢を直したが崩れたままであり、正しい姿勢ではないが、介助を実施される。誤嚥のリスクも高い利用者様である事から、正しい姿勢へ直す事は必須
体調確認不足。姿勢が崩れている利用者がいてもそのまま。
介後する者の言葉の意味を十分に理解できず、同意が不十分のまま介護を始めてしまうケースがあった。体調確認を行ったかも不明瞭であった。

10～15年目 1～3点と評価した理由
認知症の症状のある利用者に対して、介助の説明や同意を得る前に食事の介助を初めてしまう事が多い。
ご利用者様と同じ目線で話をしていたが、急に声をかけられたためビックリされていた。声の大きさなどを考える、必要あり。
食事姿勢や禁忌食・食札の確認（形態・量・とろみ具合）等の確認ができていない
食欲が湧くような声掛けをする等の工夫が感じられない。
覚醒が不十分なままで食事介助をしていた。
コミュニケーション不足、利用者の状態観察が不十分。
利用者の確認はするものの、声掛けが強要になってしまう。

16～20年目 1～3点と評価した理由
観察はしているが声掛けはみられない
事前・介助中の声掛けが不足。体調や覚醒の状態確認は行っているも、食事形態と食札の照合は出来ておらず、準備段階で重要なことへの知識が浅い為、今後も指導が必要。
座位の位置や体幹の傾き、安定感の確認をしていない。
「食事をしましょう。」と声掛けするが、状態確認が不十分。また姿勢の状態など食事前の準備を怠っている。利用者がやや浅座りになっている・両足底が床に着いていない。
姿勢の確認や顎が引けているか確認必要。
「お食事の時間ですよ」と声掛けは行うも献立説明や食べたいものの希望などを確認する事なく介助を始めていた。
声掛けが不十分、覚醒しているか確認がされていない。

「食事前の体調確認等」に関しても、入浴介助と同様、体調確認の未実施、声かけ、同意確認未実施が指摘されている。経験年数を経た群においても、姿勢確認、調整をしていない、覚醒不十分で食事介助を行うなど、事故につながる対応の指摘が散見される。

② 食事の介助

食事の摂取のプロセスやメカニズムを理解し、それを踏まえた食事の介助を行う

1年目 1～3点と評価した理由

姿勢を正すことなく傾きあり、顎を引かず介助を行った。

口内の食べ物を飲み込んだのを確認していない。

献立内容等の説明がなく進めている

利用者に合わせたトロミの調節が出来ていないことがある

嚥下の確認やペースが利用者に合っていないことがある。

飲み込みの確認が出来ていなかった。

前傾姿勢で顎を引いてもらっているが、足底が床についていなかった

2・3年目 1～3点と評価した理由

顎が上がっていても気にせず介助行う

嚥下の確認が不十分 一口が少し多い

姿勢が崩れているのにも関わらず配膳し自己摂取を促していた。

嚥下障害のある方への介助のペースが速い時がある。

禁忌食の確認や水分補給を促していない

自助具が必要な方に対して用意出来ていなかった。

食事の形態の違いの把握が不完全であり、個別対応の理解がまだできていないことがある。

4～6年目 1～3点と評価した理由

献立や中身を説明せず無言で介助。一口飲みこむの確認。食事はじめに一旦茶を飲み咽せの確認せず

足が床についているかどうか、姿勢をどうしたらいいかが不十分

飲み込みの確認が不十分

体位を直したり、食事に適した体位等の理解が不十分。

利用者のそしゃく状態観察やセッティングの状態観察が不十分な時がある。

立ったまま介助する場面がみられた。

メニューの説明ができていない。一口量が多い。

7～9年目 1～3点と評価した理由

口に運ぶペースが早い。誤嚥リスクあり。

姿勢の確認、禁食の確認全員把握が難しい

食事の献立を伝えずに提供していたため、誤嚥性肺炎のリスクがると感じられた

覚醒状態を見てケアが出来ていたが、まだ口腔内に食べ物が残っている状態で次の一口をすすめる面あり

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

むせ込んだので、とりあえずトロミをつけようというレベル
食事形態の確認、療養食の確認をしていなかった。
姿勢が崩れたまま、顎が上がった状態で介助している

10～15年目 1～3点と評価した理由
口の中に入れる量の加減が出来ていない。
利用者の食欲がわくような声掛け、本人の好みの把握、嚥下の確認のための自身の目線や介護位置等、正確に行えていない。
摂食嚥下のメカニズムを説明できるほど理解していない。
飲み込む前に次の食事を口に運んでいる
利用者様の食事形態をあまり理解できていない。
嚥下のプロセスを理解していない。食事介助時の座りが浅い。1口の介助量が多い。嚥下しきれていないのに次の介助をしようとする
メニュー等の声かけ、椅子に座り高さも合わせていたが、後屈していても姿勢を正す事なく、介助を行っている

16～20年目 1～3点と評価した理由
食事姿勢の保持・補正が不十分。介助がスピード重視になることも。介助中、嗜好を聴いたり味を聴く等の声掛けがほとんどなく介助動作に集中し過ぎな為、今後も指導が必要。
食事時の口腔内確認不足が見受けられる。
食事介助中に姿勢がやや仰け反った際に、そのまま介助を行っていた。
利用者へ食事の献立や中身の説明が不足していた。
姿勢確認不十分みられる
立位姿勢のまま食事介助を行っていた。
顎が上がっていたがそのまま介助していた 途中で気づき姿勢を直していた

「食事介助」に関して、各経験年数群において顎が上がった状態での食事介助、食事姿勢の未調整が指摘されている。声かけなしの介助、一口の量が多い、飲み込み確認の未実施、介助ペースが速い、立ったままでの介助といった、誤嚥を招く介助行為が確認されており、基本介護技術は提供されていない実態につき、指摘されている。

③ 口腔ケア
口腔内の清掃の介助とチェックを行う

1年目 1～3点と評価した理由
うがいが出来る利用者に対しうがいが出来ていない。
義歯の取り外し方が不適切。
義歯の取り外しを忘れて口腔ケアをしていることあり。各利用者の義歯の有無等更に把握が必要最後の仕上げをしないので、口腔内に残差物が残っている。
義歯の装着がスムーズに行っていない
全介助の方の口腔ケアができていない。やり難い方の口腔ケアをあきらめてしまう。
歯磨きが出来ていなかった

2・3年目 1～3点と評価した理由
ブラッシングはやっているが、汚れを確認し除去はできていない。
口腔内の残渣物の確認が行えていない。
入歯の清掃ができきれいな時がある
口腔スポンジを使用する際、歯や歯茎の前側のみしか行っておらず、歯の内側や上あごの清掃ができていない。
口腔内の確認及び手順が違い改善点が多い
口腔内の傷などの確認が不十分
ブラッシングが不十分なところがありました。口腔内の確認ができていませんでした。

4～6年目 1～3点と評価した理由
目線を合わせて介助していたが口の中の状態確認をしていなかった。
口腔ケアの声掛け時、口腔ケアを嫌がる利用者様に対しての対応がやや強引であった。
自立されている利用者様の確認不足
歯間に食渣が詰まっていた。
口腔内の清掃の介助が雑であった。
義歯の取り扱いが乱雑
認知症があり、なかなか口を開けることが出来ない方への声掛けの工夫必要。

7～9年目 1～3点と評価した理由
磨き残しあり。肺炎リスクあり。
食後の口腔内確認を怠った。
磨き残しや舌の汚れの確認をしていない。
舌裏と上唇の裏に残渣物あり。ブラシの当て方不十分。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

拒否のある方の対応ができなかった。
歯ブラシが使用できない方に、クロスガーゼの使用を忘れていていることがある。
適当にやって確認が不十分

10～15年目 1～3点と評価した理由
ケア前に口の中のうがいがされていなかった
スポンジの水分が多かった、ムセにつながる可能性あり
口腔内の掃除の後のチェックを忘れている。
口腔ケア後の口腔内のチェックが不十分。少量の残渣物あり。
義歯の装着が上手くできず代わってもらったことがあった
最終仕上げや拒否の方はしっかりできていない。
本人に口腔ケアを任せており、チェックをしていない。

16～20年目 1～3点と評価した理由
義歯装着には練習が必要
口腔ケアを拒否するご利用者へのケアが苦手。強行的に実施はしないが、残渣物があることも。
口腔内の観察、確認を怠った。
歯ブラシ未使用。うがい声掛けは行っていた。
口腔内の確認不足で、行っても口腔内に残っている。
うがいの回数。うがいをしない場合の対応
知識はあるが口腔ケアが雑なことがある。

「口腔ケア」については、口腔内残渣物がある、との清潔保持ができていない、観察ができていない対応が指摘されており、基本介護技術を有していないことが読み取れる。また義歯の着脱ができていない、との指摘もあげられている。

④ 記録・報告
自分で対応した事柄を記録し、報告する

1年目 1～3点と評価した理由
記録は出来るがアセスメントまでは出来ていない。
何を食べたら咽込みがあったのか細かく記録する事が改善の余地あり
チェックは行えているが、食事量の変化や排便の変化などの問題点を見つける、疑問に思うことから、利用者の異常を予見することが今後求められる。
自己判断で報告しないことがある

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

水分補給の記録もれあり
チェックリスト以外の具体的な状態の記録が少ない。
記録の仕方がわからないのでは？

2・3年目 1～3点と評価した理由
食事、排泄チェック表の記入はしているが、記入わすれ、記入もれある。
担当ご利用者の食事に関する処遇を決定するにあたり、他部署を含めた報連相ができていない。記録も残っていない。
記録し忘れてしまう
食事摂取量表への記録は行えている、歯や義歯の異常があった際に報告のみで終わってしまっており、記録ができていない。
食事摂取量の記録は行っていたが、利用者にあった摂取量（食事が多い）の食事を提供できていない為、正確な摂取量ではない画面があった。
報告漏れ、記録漏れが少し見られた。
食べた食事のみ記録していた

4～6年目 1～3点と評価した理由
記録を忘れることがある。食事の様子記録が不足。
食事摂取量、排泄の記録は出来ているが、摂取量、排泄が見られた時間の記録はしているが、摂取中、排泄中の具体的な状況の記録が不十分。（評価者の指導が不十分であった）
どういう状態だったかの報告はできるが記録は不十分
5W1Hで記録ができていない
報告は行えているが、記録が抜けている所がある。
飲み込みやムセなどの記録が書かれていない。
摂取量は記録されているが、介助に要した時間や、利用者の状態、様子に関する記録が抜けていることが多い。

7～9年目 1～3点と評価した理由
チェックリストへの記入はできているが報告が遅れることがあった。
食事チェック表に記載はあるものの、食事摂取量の少ないご利用者に対しての理由の記載に体調面や医務への報告の記録がなく不十分だった。
記載漏れがあるときもあるので、食事のチェックを下膳時に記載することが必要。
食事の摂取量やスピード、その日の気づき等が記録に上がっていない時がある
詳細な記録がされていない
食事摂取表への記録は行えている、歯や義歯の異常があった際に報告、記録ができていない。
記録の細かさがなく、嚥下状態や、確認事項がぬけていた

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

10～15年目 1～3点と評価した理由
利用者様の食事状態の変化や食べ方の姿勢などにもう少し気づきがあると良い。記録や報告も不十分ではある。
記録漏れが目立っていると評価した。
むせ込みがあったが記録ができていなかった
記録忘れや、記録ミスが目立つ
抜けること多い
残すべき食事の記録がなかった。
口腔内を観察し異常があった時の記録漏れ報告忘れがみられる。特変があれば必ず声を上げる様に指導した。

16～20年目 1～3点と評価した理由
状態の変化を詳細に記録することが出来ていない。
食事板、トイレの排泄板の記録忘れがある。
水分摂取量の記録があいまいである。
記載漏れしていることが多々あった
記録や報告忘れがある。
報告はきちんとしてくれるが記録のところで文章にまとまりがなく長く読まないと大事なところがわからない 要点の整理が苦手

「食事介助に係る記録」に関しては、経験年数群に関わらず、記録ミス、記録忘れ、異常があった際の未記録といった、記録が情報共有の手段、根拠情報には足りないものとなる職員対応が指摘されている。

3. 排泄介助

① 体調の確認等

介護をする前に、これからどんな介護をするか利用者に説明して、介護を始めることに同意を得るとともに、声をかけて、利用者の状態を確認する

1年目 1~3点と評価した理由

事前の声掛けが不十分で利用者様が十分に理解出来ていないように感じた。
 流れ作業になってしまっている時がある 声掛けはできているようで出来ていない時もある
 排泄介助前、声掛けはできていたが介助内容は伝えていなかった。
 どこで見守っていればよいかの確認が足りなかった。しっかり声をかけが必要
 介助の説明により、尿便意感覚の有無の確認が出来ていない。
 排泄を一種の時間帯と捉えているのか、時間を意識している事が目立つ。終えられなかったら後続者に託す。託すだけでなく自分も他者をフォローする。という相互扶助意識が必要。
 同意を得ず「トイレ行きますよ。」の声掛け。

2・3年目 1~3点と評価した理由

声掛けをするが、利用者に説明は不十分。声掛けをして、すぐ介護しようとしていた。
 これから何をするのか等説明が忘れていた時がある
 声掛けが不十分、同意は得ていない
 排泄の間隔を確認していない時がある
 確認の声掛けや観察力の指導が必要と感じる。
 事前の説明が不十分。利用者が理解していない状態でケアを行おうとする様子が見られる。
 無言でしていることが多い。

4~6年目 1~3点と評価した理由

介助者からの一方的な声掛けになっている
 排泄前の体調確認はできていない
 認知症の方の表情や、状況に応じた声掛けや確認が不足
 声掛けや説明が不足していた。もっと声掛けができたと思った。
 時々、羞恥心を考慮しない声が見られる。注意していきたい。
 利用者への声掛けが、不十分。介護者都合での簡単な声掛けが多く、きちんと同意を得ていない。
 体調確認できず、尿・便意の有無も確認できていなかった。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
声かけは行っていたが、利用者さんの状態や返事を待たない。
介助に入る前に利用者の状態確認が出来ていなかった。
説明のみで状態確認をせず介助を行ってしまった。
「パンツが汚れているから、」と声掛けをした為拒否されていた。ケアの内容をすぐ話さず利用者様との関係性を作ってから行う。またネガティブな表現を使わない方が良い。
排泄状況の確認の声掛け時の声が不用意に大きい。羞恥心を考慮していない。
業務本位になってしまい、利用者にお伺いをかけるような声掛けができていない。
説明はしているが、一方通行になっている。

10～15年目 1～3点と評価した理由
一部流れ作業気味になり、声かけをせず誘導したり、声かけと行動が同じタイミングになっていることがある。
説明無しに排泄介助を開始する場面があり
体調確認はできていない
長時間排泄に立っていない利用者に対して、そのまま気にすることなく「寝ていたから」等、そのままに声をかける事もなかった。
どんな介護をするのかは説明しているが、同意まできちんととっていない。
本人に伝わっているかを確認してほしい。ゆっくりでいいので大切なことは確実に伝えるといった意識を持ってもらいたい。
体調や排便尿の確認をしていた。排便-3日目であったが、看護師の報告せず「座っとけば大丈夫」との声掛けであった。

16～20年目 1～3点と評価した理由
作業となってしまう様子もある。
説明は行っていたが、体調の確認は行っていなかった。
トイレ介助をする際のプライバシーへの配慮が出来ていない。
毎回体調確認となると実施できていない
介助前に体調確認が出来ていない
トイレへ行くという声かけがなく時間になったの誘導であった 同意がとれていない
声掛けが不十分、排泄の間隔を考えながら行うことが出来ていない。

「排泄介助の体調確認等」については、声かけ、説明が不十分、同意をとっていない、排泄間隔を確認していない、利用者の状態を確認していないといった指摘がされている。経験年数を経ている群において、羞恥心への配慮ができていない、排泄介助の声かけ自体をしていないといった指摘も挙げられている。

② トイレ・ポータブルトイレでの排泄介助
トイレ・ポータブルトイレでの排泄の介助を行う

1年目 1～3点と評価した理由
本人の足底が浮いていった。前傾姿勢をとって無く、身体が後ろにそった
トイレに座っている状態でその場を離れてしまうと転倒転落リスクがある利用者に対してもその場を離れてしまうことがある。
声掛け・座位の安定は確認していたが、排泄後体調の確認ができていなかった。
個々の利用者の状態把握が不足、まだ指導が必要。
利用者のADLの理解が不十分であった。
排泄時正面に立っていた 目線からそれた位置(横)に行くよう指導
立位が安定しない方に対して、車椅子の位置が悪くひざ折れた場合事故につながる可能性が高い。

2・3年目 1～3点と評価した理由
ポータブルトイレ使用時に、羞恥心への配慮が足りない。
自立支援を意識しての介助は行えていない。また皮膚観察などは不十分で報告は少ない。リーダーから記録のするように言われて行う程度。
ポータブルトイレに座らせた後からもずっと利用者と話しているためなかなか用が足せない。もう少し羞恥心を感じるべきだ。
ポータブル介助にあたっては、在宅だとプライバシーの配慮にかけており、タオルで覆うなどの配慮が必要。
ズボン、下着を下す際の声掛けが出来ていない 前屈姿勢、床に足がついているか座位の安定ができていない
安定した足底の確認ができていない。
プライバシー、自立支援等、ほとんど意識されていない。ヒアリングにて、言われてみて、「あー」となる

4～6年目 1～3点と評価した理由
座位の仕方や前屈姿勢になって頂くことなど、基本的なことは知識不足で自己流である。
排便時、きれいに拭き取り行えていない事あり。また、手間取ってしまう
座る際ポータブルトイレが倒れそうになる。
トイレでの座位保持が不安定。足底がきちんとついていない。
基本的な介護技術は取得できていない。プライバシーへの配慮も出来ていない。
介助する前に、必要物品が事前準備されていない。
姿勢の確認、扉の開閉時のロック、声かけ等、プライバシーへの配慮に欠ける

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
きちんと立位とれていないままズボンを下げようとしていた
排尿時座位に不安がない利用者だがトイレ内におりプライバシーの保護が不十分。
下着の上げ下ろしや便座に座る際などの声掛けが不十分で、明確な同意を得られていなかった。
移乗介助時、ドスンと勢いのある介助になってしまう。
移乗時の足の位置がトイレに近かったり遠かったりと安定しない事がある
今後の指導として、羞恥心に配慮した声掛けが必要。下衣を下ろす・陰部清拭時に声掛けが不十分である。
ズボンやパンツを下す際、身体を支えながら下ろせていない

10～15年目 1～3点と評価した理由
声掛けが出来ていない。力づくで介助を行っている
「拭いて」「上げて」等、出来る部分の動作まで、声かけや促す事無くやってしまう。
少し、焦らせる介助の仕方だった。
ADLを理解せず、介助している。
自己流でやられていて、危険な部分があります。
拭き残しの確認を忘れる。
ポータブルトイレ使用の際はカーテンを閉めるなどプライバシーへの配慮がほしかった

16～20年目 1～3点と評価した理由
本人の出来る部分まで介助をしていてやや過介助
トイレでの介助時、ご本人の身体能力(残存能力)に関係なく、力任せで便座への移乗を行うことがある。
スタッフ介助で行っている。残存機能を生かしていないときあり。
相手の羞恥心に対するフォローアップの声掛けにやや乏しい。
トイレに座った際の安全確認、両足が床についているかの確認不足ズボン下着等下す了承を得ていない
足底がついているかの確認が出来ていない。
プライバシーの配慮にかけている時がある。

「排泄介助」について、経験年数各群において、立位不安定、座位不安定、プライバシーに配慮できていない、利用者のADLを把握できていない、残存能力を活かすケアができていないといった、基本介護技術が提供されていない対応につき、指摘がされている。

③ 尿器・便器を用いた介助
尿器・便器を用いて排泄の介助を行う

1年目 1~3点と評価した理由
左記の器具を使うことがほとんどなく今後もし使う時は説明が必要
差し込み便器の差し込みが浅かった。
使い分けができるが不慣れなためまだ指導が必要。
使用頻度が低いため、必要物品の準備やセッティングに不安があり、手間取っていた。手順は理解できていた。
プライバシーへの配慮が行えていない。また処理方法も衛生的でない。

2・3年目 1~3点と評価した理由
どんな体勢をとったらよいか利用者への促しができたらよかった。
時々差し込みに失敗することがある。
不慣れな面もあり指導必要
尿器・便器の使用方法が不十分。また使用中のプライバシーに配慮が不足していた。
まだ、実施している回数が少なく出来ているとは感じなかった。
実施したことがなく、方法の習得が必要。
プライバシーの配慮を忘れている。

4~6年目 1~3点と評価した理由
羞恥心への配慮に指導が必要。
清拭使用し冷たさや固定するなどの工夫が必要
プライバシーへの配慮が足りないことがある
尿器の、便器の当て方にズレが出てしまう。
尿器使用時タオルなどで陰部を覆うなどできずプライバシー保護をできなかった。
自分で立位になり尿瓶に排泄する為手渡し立位を安定しているか確認。ドアの外で待ちコール後尿瓶の破棄洗浄をしている。手洗いで清潔にしている
尿器を当てる際に掛け布団やタオルをかけるなどの配慮が足りていない。

7~9年目 1~3点と評価した理由
尿器や便器を使用して介助する機会が少ないので手順が悪い
便器をあてる際、臀部と便器の間にすき間があり、安定した位置にするように指導を行った。
しっかり確認・声掛けは行っているが、同意を得ているか返は確認が取れないまま介助を始めている
プライバシー保護、露出の軽減への配慮が不十分
便器を使用する事はなかった。尿器をしっかりとあてる事を意識しすぎて、利用者様に痛がられる

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

事があった。
臥床中の排尿介助時、寝衣を汚してしまうため指導が必要
尿器使用時タオルなどをかけずプライバシー保護を怠った。

10～15年目 1～3点と評価した理由
尿器等の使用後の清掃が不十分であった。
プライバシーの配慮に欠ける
尿器のセッティングの仕方が不十分。
不慣れであり、手間取った。
尿器などの衛生管理が不十分である。
尿器の使用方法の理解や利用者の状態に合わせた仕様が不十分であった。
尿器等の使用方法の理解が不十分であった。

16～20年目 1～3点と評価した理由
利用者の方への声掛け、確認が不十分であると感じる。
あまり使用することが無いため、少しセットするのに手間取っていた
尿器等の使用方法の理解が不十分であった。
位置が合わない時もある
使用頻度が少ない為、若干使用に戸惑いが見られたが、再度使用方法と共に再確認と指導した。
使用頻度が少ないためセットするのに時間がかかっていた
羞恥心に対する配慮が欠ける

「尿器・便器を用いた排泄介助」については、事業所において扱っておらず、未実施との回答が複数あげられたが、実施し評価した事例からは、器具を扱いができていない、手順の誤り、プライバシーに配慮できていないといった指摘があげられている。

④ おむつ交換
おむつを交換する

1年目 1～3点と評価した理由
テープの位置がずれている。後ろがしわになっている。何度もやり直しがあったので、最初におむつをあてる時にしっかり伸ばす
オムツ交換前にカーテンを閉めるなどのプライバシー配慮ができていない。ご利用者の体が曲がったままオムツを当てているため、オムツが偏ってしまっている。パットをしっかり伸ばしていないため、オムツ内で折れ曲がっている。オムツからパットがはみ出している。
プライバシーへの配慮が不足している

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

体型に合っていないおむつを選定している時がある
交換するだけでなく当て方から痛みや違和感の確認はできていません。
オムツの位置がずれて、シーツが汚染することがある。
パットの位置がずれていることが多い。ギャザーもきれいに当たっておらず、漏れが見られる。

2・3年目 1～3点と評価した理由
概ね出来るが、パットのあて方が雑である。体位交換が正しくできていない。
オムツをテープで締める際に緩さなどを利用者に確認できていない オムツのギャザー立てが行えていない
利用者に介助内容を伝え、承諾を得、体位変換時、柵を持って頂く等、協力動作の促しも出来ていたが不慣れにより度々体位の入れ替えを要した。
残存機能の活かしていなかった。またパッドが尿量に合っていなかった。
オムツ交換時に居室内でもカーテンで仕切るなどの配慮が不足。
パットの位置やギャザーが潰れていたりして正しくあてられていなかった
オムツがよれていることがある、衣服やシーツにしわがある

4～6年目 1～3点と評価した理由
尿意等聞かずオムツ交換をする事は伝える。パットを丸めて入れず、押し込むように入れる。陰部を拭く順が違う。ズボンの後ろを整えず、シワや上がりきっていない。量・性状の記録なし
羞恥心への配慮に指導が必要。
交換は出来るが、衣類のしわ等への意識不足。
使用する物品が不足している。介助に入る前の確認が不十分。
声掛けはきちんと利用者の目をみて行い、同意を得ている 体調面の確認は職員間での大まかな確認は行っているようだが、直接には行ってなかったような為、都度の声掛け確認は必要。
おむつの当て方で前後の位置のズレ
利用者に合った声掛けは出来ているがオムツやパットの装着が上手く行えず汚染してしまう事が多い。

7～9年目 1～3点と評価した理由
介助に入る前に、物品に不備があった
おむつの当て方が悪く、準備や羞恥心の配慮に欠けていた。
オムツ交換を行うことを伝え始めたが、カーテンなどでプライバシーの保護ができていなかった。交換後の衣服などはしっかり整えられていた。
忙しさに追われ、声かけがないときがある。
オムツの当て方が不十分で横漏れしている
おむつ交換時の清潔、不潔の確認不足
ベッド上周囲の安全確認が不十分。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

10～15年目 1～3点と評価した理由
パットが折れ曲がって入っているため漏れているときがある。
陰部洗浄の実施と、手袋の着用を忘れている。
臥床した状態でおむつ交換をする際のプライバシーの配慮や清潔の保持が不十分。
アウターまで濡れてしまう事が多く、指導が必要。
部分的に手順を間違っている。排泄物の量や性状についての観察が不足していた。
陰部を下から上へ拭きあげている。オムツが前後、左右でバランスよく当たっていない。全体的な手際が悪く汚れたグローブで周囲をさわってしまう。
手技は合っているが、出来上がりは中心線がズレており、汚染のオムツも床に直置きと感染への意識も低い

16～20年目 1～3点と評価した理由
パットの当て方など雑な部分がある。プライバシーの配慮や、声掛けを多めにした方がいい。
手袋は取ってから着衣を触るように。
オムツでの漏れが多く、利用者に不快な思いをさせていることが多い
羞恥心に配慮する。
交換時の体位変換技術及び声掛けが不十分である。
大雑把なところがあり、オムツ内のパットがズレている時がある。
声掛けなく行っている

「おむつ交換の介助」では、必要物品の準備ができない、おむつ・パッド装着の仕方や手際に関する指摘、プライバシーへの配慮ができていない、利用者の残存機能を活かした介助ができていない、しわたるみがあり、褥瘡予防ができていない、といった基本介護技術が備わっていないことにつき、指摘されている。

⑤ 食事や排泄等チェックリスト等による記録・報告
自分で対応した事柄を記録し、報告する

1年目 1～3点と評価した理由
記録、報告は出来ているが特変があった際の記録、報告の仕方の指導が必要。
排泄時間・尿量は記録ができていたが、便の性状を記録できていなかった。
基本の声掛けは出来ているが、情報から状態を考察することが出来ていない。
チェックの記載漏れを度々指摘されている。記録の漏れに関しても常にチェックが必要・
自身で行った介助内容の記載のみで、食事量や排泄の有無など具体的な報告がなされていない。
記録が単調で記録すべき事柄が抜けていることがある

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

記録・報告は行えているが、情報集が不足しており他者から見てその様子が分からないことが多い。

2・3年目 1～3点と評価した理由

記録し忘れてしまうことがある

記録はできていたが報告が薄くうまくつたわっていないことがあった。

報告の失念が多い。

尿量の記録が抜けている事がある

チェック表への記載は出来ているが、異常時の記録が出来ていない。医療職への報告は出来ている。

記録の抜けが多く、記録の重要性を理解できていない。

排泄チェック表への記載は出来ているが、尿性状等、排泄物に関して介護記録に記載する意識が少ない。

4～6年目 1～3点と評価した理由

便の状態や詳細な記載が不足していることがある。

記録忘れ、排泄物の状態の記載なし。

行為の記入はあるが利用者の様子など不明な点もある。

些細な事でも記録や報告に繋げて欲しい。毎日体の状態は変化する事もある為

異常を発見した際、看護師へ速やかに報告ができていないが排泄表、介護記録への記録ができていない。

記録を忘れている

排せつの形状や、量など細かな記録がない

7～9年目 1～3点と評価した理由

記録自体はできているが普段と違う場合に原因を探ることができていなかった。

尿・便の性状観察が不十分。

食事量や排泄量などを記載する記録用紙はあるが、実施状況を記載する用紙はない為、特記として他記録用紙に記載するかどうかは各職員の判断となる

報告する事はできているが、記録を残す事に際しては忘れて退社している事が多々ある。確認の怠慢がある為、日頃からの意識が必要である。

記録はあるが、報告のポイントに不足があった。

記入漏れがあった。後回しにすることがある。

排泄物の量、形態、状態の記録がされていない。

10～15年目 1～3点と評価した理由

個々の利用者様の排泄間隔や様子などに対して、変化や気づきがもう少しあっても良い。

記録が残っていることはない トイレ介助が必要な利用者の異変時には報告がある 記録に残せるように指導が必要

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

声かけ誘導、介助については完全にできているが、記録時に必要内容が抜けていることがある。
排便間隔が空く方の報告漏れがある。
気づき等の報告が不十分である。
記録内容が、必要十分とは言えない。言葉の使い方が未熟
口頭の報告は適宜できているが、文章に起こすことが苦手。

16～20年目 1～3点と評価した理由
特に指示がないと記録していない。
主観的な記録・報告はできている。ただ客観的にとらえるといった記録は少ない。
記入もれがある
排泄量等チェックは出来ているが対応した事柄を記録に残せていない。
誰が見てもわかる内容の記録となるような工夫が見られなかった。
記録忘れ、排泄物の状態の記載なし。
対応されたことが記録に残っていない。

「排泄介助記録・報告」については、経験年数を積んでいる群でも、必要事項の報告漏れ、未記等、記録が根拠情報、情報共有の手段として認識されていない可能性が読み取れる。

4. 移乗・移動・体位変換

① 起居の介助

ベッドから起き上がったり、起き上がった後の座位を保持するよう介助を行う

1年目 1~3点と評価した理由

本人を側臥位にしないまま、被評価者の力強さで行っていった。

体調や、顔色を確認できていた。テコの原理を上手く活用できていなかった。

端坐位から立位に移る前に、足がしっかり着く高さにベッドを調節していなかった。

座位が保たれていなかった

顔色や、様子を気にしていない

声掛けはできているが、起き上がりのできるご利用者まで介助してしまう。できることまで介助してしまう傾向あり。

自立を促すための声掛けと注意視点をもってほしいです。

2・3年目 1~3点と評価した理由

概ねできているが、起き上がり可能なご利用者も介助してしまっていた。

ベッドの高さ等入居者目線でセッティングできていなかった

座位を保持する際、床にきちんと足がついていないことがあった。

座位保持出来たか否か判断が早すぎる

たちくらみや転倒に繋がる恐れもあるので勢いを付けての立ち上がりや急な立ち上がりは中止してください

見よう見まねでやっている感あり。

テコの原理を忘れている。

4~6年目 1~3点と評価した理由

起き上がった後、座位安定していなく後方に倒れこまれていた。確認不足

利用者様が起き上がった後に柵に掴まっていなかったため、ふらつく。安全確認、声かけが足りない。

起立性の低血圧のある利用者がおり起きた際の体調の有無を確認する

ボディメカニクスの活用が足りない為、入居者にも介助者にも負担のいくやり方になっている。

力が強く荒さが目立つ

ベットから起き上がった後、左側へ倒れそうになられている。支えていない。

患側、健側が頭では理解していてもケアとして組み立てが必要。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
「いまから起きますね」との声掛けはあったが、状態確認は行えていなかった。
麻痺側への配慮が不十分
利用者の残存機能を活かすことなく全介助で行ってしまう。
安全な姿勢を確保する点では問題ないが、声掛けが不十分であり、利用者に不安を与える可能性がある。
ベッドの高さが足がつかないままで起こした。
浅座りについては直していたが、座位保持しながら靴を履いてもらう際、靴に集中し上半身を見ていないため、不安定になっていても気付いていなかった。
テコの原理が使えず力任せだった。座位保持のバランスが保てずふらついていた。

10～15年目 1～3点と評価した理由
声掛けから移動がすぐに行われておりゲストの呼吸の間が必要
ボディメカニクスのテコの原理使わず、介助をおこなった
体が後傾してしまう利用者への起居では、無理に起こそうとする介助が見られたため、リフトの活用性の理解が必要。
ベッドをギャッチアップしたまま座位を取らせようとしていた
ボディメカニクスを有効に活用し自立支援を促していく必要がある。
声掛けなく無言で行っている
利用者の残存機能を十分に活かすような声掛けがかなり不足していた。端坐位になった際、足の位置の確認も十分でなかった。

16～20年目 1～3点と評価した理由
90歳代の女性高齢者のベッド上での座位保持は難しく、ギャッジアップ後の背抜きなど、もう一工夫が必要です。
残存機能を活かして行うことが出来ていない。
力で仰臥位から直接起き上がらせていた。
ボディメカニクスが十分活用できていない
どの利用者でも対応する能力はある。利用者の残存機能を活かしきれず力任せの部分がある。
ベッドでの座位バランスの確認を怠り不安定になっていた。
利用者の出来ることをあまり意識しておらず、意欲に繋がるような声掛けが少ない。

「起居の介助」においては、各群においてボディメカニクスを活用していない、力で介助している、利用者の患側健側を考慮していない、ベッドの高さ調節をせず、足底がつかない高さでの起居介助の実施、端坐位の際に利用者が不安定になっていても気付いていない等、基本介護技術が提供できていない対応についての指摘があげられる。

② 車いすへの移乗の介助
ベッドから車椅子へ移乗の介助を行う

1年目 1～3点と評価した理由
利用者様への事前説明が無くトランスファーのポジショニングが不十分であった
車椅子の位置は問題ないが、フットレストやアームサポートを外し忘れることがある。
本人の残存能力を使わず、全介助で行っていった。声掛けをし前傾姿勢で立ち上がりを行うことが必要であった。
安全な介助のため、周囲の環境にも目を配る余裕があると良い。
利用者の重心を意識できていなく、自身の負担が大きくなっている。また、足の位置や移乗後の予測が出来ていないところがあった。
ズボンを持ち引っ張るように立たせておられる。
車椅子の座らせ方が浅く腰もひけている。足の位置回転もぎこちなさあり

2・3年目 1～3点と評価した理由
一部介助の方も全介助してしまう。残存機能を生かす介助はできていない。
車椅子のアームサポートやフットサポートについて、取り外しができる機能を使わずに、勢いで行っている時がある為、事故が起こる可能性を感じた。
健側から移乗介助出来ない時がある
フットサポート等の開放を怠っている時があり、自分はぶつけないなど過信している様子が見受けられた。
体を密着させて移乗ができていない、ズボンの裾を持って移乗しがち。都度注意と指導
移乗介助時のスピードが速く旋回時の足の確認が不十分
移乗の際、足の位置を意識していないので車椅子に足が当たってしまった。

4～6年目 1～3点と評価した理由
車椅子の位置が遠い。また足底がしっかりついていない。抱えて移乗行っている。
ズボンを引っ張りもちあげていた。
移乗することに集中してしまい、周囲の安全に配慮出来ない。車いすの角度・位置・ベッドの高さ。
本人様が辛そうだった
利用者の残存機能を生かしておらず介助者本位で移乗している
フットレストに足が当たっていた。
ベッドの高さが低く、立位時のふらつき。又、ベッド端座位位置が深く立位困難。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
声掛けができない。ご本人の出来る事を理解していない
ズボンを掴んでの介助が見受けられる。
ベッドの高さの調整なく、足の位置等、立ち上がる為の環境作りが不足しており、自立支援への結びつきを感じない
フットレストに足が当たる等、距離感や足の向きなど細部に意識が行き届いていない。
力に任せて移乗を行っています。ボディメカニクスを使用した移乗の方法で介助しましょう
ベッドと車椅子の距離が離れている。
患側に車椅子を設置し、健側にポジショニングしていた。

10～15年目 1～3点と評価した理由
利用者の状態によっては、移乗後の体勢が安定しておらずばらつきがある。
移乗後ゲストの麻痺側の手の位置を確認されていたが靴を履いていなかった
ボディメカニクスの水平移動ができていない
無理な姿勢での介助をする場面がみられた。
車椅子を決められた場所の反対側につけ介助していた。
車イスのブレーキが片一方かかっていない。
車椅子の位置が悪く、職員、利用者に負担がかかっていた。

16～20年目 1～3点と評価した理由
対象者の能力把握不足
重心移動を重視した介助が行えていない為、力任せの介助になっている。
安全への配慮を怠った。
安全を考慮しているためか、残存機能の生かすことが疎かになっている。
健側の活用の声掛け不十分
移乗する際にズボンなどを持って釣り上げて行っていた。
利用者との体の密着がなく、不安定な部分があった。

「ベッドから車いすへの移乗介助」にあたっては、経験年数を積んでいる群であっても、利用者の動作能力を見極めていない対応、ズボンを掴む介助、ボディメカニクスを活用していない、安全な移乗に向けての環境整備ができていない等、基本介護技術の欠如の指摘がされている。

③ 車いす移動の介助
車いすを用いた移動の介助を行う

1年目 1~3点と評価した理由
移動のスピードが速すぎて相手へ恐怖心を与えてしまっている。
曲がりの動作での声掛けが出来でなく、本人びっくりした。
車イスから手が出ていたり、足がフットサポートから落ちてしまっていたりした際に危険予測が出来ていない。
手、腕の置き位置確認、声掛けが甘い。剥離、事故の危険認識指導
フットレストに足が設置していない時がある。行先の説明など声掛けが不十分。
フットレストからの足のずり落ちがあった。細部への観察が十分とはいえない。
ロックの声掛け、肘の保護を忘れることがある。

2・3年目 1~3点と評価した理由
移動時、利用者様の手足の位置確認ができていない
移動介助の際の車椅子の介助のスピードを適切に行えていない。
目的地までの安全確認ができていない。
安全性を確認していない
動く前の声掛けが不十分な部分があった。
車椅子の操作がうまくいかず、角にぶつかることが多くあった
車椅子のアームレストを上げる、フットレストの開閉を怠っていたため、本人の腰の位置が高く、移乗する際の体の動きが不安定であった。
安全確認が不十分で、机との間に手を挟めそうになることがあった。

4~6年目 1~3点と評価した理由
スピードが自身が歩行するスピードと変わらない
動き始めの声掛けが不十分
室内~玄関段差移動下り時にブレーキを利用していない
移動の際に足が床に落ちているのを確認せず移動しようとした。
何度かぶつける。足をフットレストに乗せていない。
移乗の際足の位置が上手く設定できず、稀に足が絡まってしまう事あり。継続して指導必要。
姿勢が不安定のまま移動していたことあり
車椅子の操作方法を理解せずに、段差などを力任せに上げてしまう

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
行き場は伝えたが声をかけずに進んでしまった。
適切な移動速度を保っているか。
車椅子の位置が、ソファーと離れすぎ
本人の力を使う機会を奪ってしまった。
車椅子を押す速度がはやい
フットレストの確認を怠っている部分があった
車椅子の点検不足により安全面にかける。

10～15年目 1～3点と評価した理由
車いすの移動の際の声かけができていない
フットレストに足を乗せずに移動したり、前タイヤを上げて移動したりしている。
声かけや注意が足らず、声かけの音が小さく、移動前に手の置く位置などが伝わっていない事がある。
自分のペースで押し、利用者の目線を意識していなかった。
フットレストを降ろしたまま移乗をしていること多々あり
空気圧の確認はおこなえていない。
車いすのスピードが速すぎて、角を曲がる際利用者が怖がっていた。

16～20年目 1～3点と評価した理由
寝室から廊下に出る動線が狭く、壁を傷つけないよう移動するコツをつかむ必要があります。安全面は良いです。
動作直前の声かけが行えていないことが多く、移動スピードも速まることある為、今後も指導が必要。
使用前の点検未実施が見られた。
移動前に目的の場所への「ここに行きます」などの声掛けがなかった
自分のペースになりがち。利用者に配慮した移動速度に注意が必要。
タイヤの空気圧の確認が出来ていない。
移動の場面では、声掛けを行わずに介助を始めた。車椅子を押す速度が速かった。

「車いすを用いた移動介助」については、行先の声かけができていないといった指摘の他、移動速度、利用者の姿勢や手脚の位置確認、安全確認の未実施、車いす衝突、そもそも車いすの安全確認を行わずに介助していること等、事故を引き起こしかねない職員対応が、指摘されている。

④ 福祉用具の使用方法及び点検業務

福祉用具の使用方法を理解し、福祉用具が安全に使えるか点検を行う

1年目 1～3点と評価した理由

点検に関して施設としての意識の問題もあるがあまり行えていない

実施したことがない。

車いすの空気圧が低下によりブレーキの効きが悪く移乗時に車いすが動いた

車椅子を移動したのち、ブレーキのかけ忘れやブレーキを外し忘れたまま力任せに動かしているときもある

行ったことがない。スタッフが使用した後に確認すると使えない状態だった時がある。

安全性を確認していない

安全点検を行っていない

2・3年目 1～3点と評価した理由

点検は行えていない。福祉用具の使用方法はなんとなく使用している傾向あり。

ブレーキの確認はしていたが空気圧等減少したまま使用、また、生地の破れ等で使用しづらのまま使用していた。人に言われ交換。

使用方法の知識の根拠がないことに気づいていない

使用のみで確認・点検動作には至っていない

車イスの空気が抜けたまま運用されていることが多く、確認不足であると感じる。

歩行しやすい杖の高さではなかった。(低かった)杖の高さを調整し、利用者に歩きやすさを確認してもらった。

スライディングボードの上下が分からず、戸惑うことが多い。車椅子の点検、リフトの使用方法が曖昧。

車いすの空気圧が低下によりブレーキの効きが悪く移乗時に車いすが動いた

福祉用具について使い方を理解していない様子。歩行器の高さの調節ができなかった。

4～6年目 1～3点と評価した理由

福祉用具の使用方法の理解をしていない

気にしていない様子。

福祉用具の仕組みや知識が少ない

点検を日常的に行う習慣はない。

車いすの空気圧の点検等をしていない

スライディングボード等、使いこなせていない用具もある。

車椅子、ポータブルトイレなどの点検は出来てない。

使用はしているが、利用者の体の位置確認等の配慮に欠けており安全な使用とは言えない。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

タイヤのパンクやブレーキが緩くてもそのままにしていることあり。
適切な福祉用具の利用方法は理解不足。個々に必要な用具を探ることはできていない。

7～9年目 1～3点と評価した理由
使用前の点検していない。
毎日のことであるが、タイヤの空気やブレーキの利きに関して、点検ができていない
車椅子の汚れやタイヤの空気が抜けている等に気が付かないことがある。
使用方法などの知識はあるが、点検を怠ってしまっていることがある
点検方法を知らなかった
福祉用具の使用方法は概ね理解しているが、点検はしていなく、使用してみて故障していれば修理する。
福祉用具に不具合があってもそのまま使用する

10～15年目 1～3点と評価した理由
点検業務等は施設で決まっておらず実施が十分ではない。
習慣化されていない。改善が必要。
福祉用具の扱いに不慣れな部分あり
スライディングボードの使用手順違いがあった。
車いす使用の際の空気圧確認ができていなかった。その他の用具についても、完全には点検項目を把握できていなかった。
使用方法など最新の情報を学習しておらず、過去の知識のままで学習する事を行っていない。また行うよう助言も聞き入れない。
点検方法を知らなかった

16～20年目 1～3点と評価した理由
用具により使用方法が十分に解っていないこともあり事前点検が不十分。用具により正しい知識を学ぶ必要あり。
車椅子のタイヤに空気が十分に入っていなかった。ブレーキの利きも甘くなっていたが、気付いていなかった。
歩行器のセット等出来ていないことがある
リフト浴の指導は受けているが使用方法を充分理解しておらず、苦手意識もあり現在避けており介助できていない。
装具の装着が緩い。
福祉機器使用時ブレーキをかけ忘れることが度々見られた。また、安全点検もチェックのやり忘れが3回見られた。
福祉用具に不慣れである

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

「福祉用具の使用方法及び点検業務」に関しては、使用方法を把握していないことにつき、「要指導」との指摘があげられている。また、経験年数群に関わらず、点検自体を実施していないとの指摘が挙げられている。この点、点検業務は個人に任されている確認の側面だけではなく、組織としての問題であることも含めて指摘があげられている。

⑤ 歩行の介助

歩行（常に片方の足が地面についた状態で、一歩一歩足を動かす）の介助を行う

1年目 1～3点と評価した理由

利用者様のスピードや歩調に合わせた介助が出来ていなかった。

支え方が不安定

利用者様の歩行のペースに合わせておらず、歩きにくそうだった。

立ち位置、歩行動作（平面や階段）を理解していない。

注意すべきところに気づいていない

歩行時の声掛けができていない

利用者の杖を持った腕の前についてしまった。

2・3年目 1～3点と評価した理由

歩行速度が速く、声掛けが少なかった。

利用者のペースに合わず、職員ペースでの歩行になっていた。

半身麻痺のある方で、杖→患側→健側の順番で歩行をするという基本を理解していなかった。

付き添い歩行時の危険予測ができていなかった。歩行時の声掛けが抜けていた。

ただ着いているだけであり、掛け声、足の位置の確認はしていない

立ち位置が遠く介助に不適切。

歩行不安定であっても続けようとし危険があった。

4～6年目 1～3点と評価した理由

なんとなく横にいただけである。どちらに転倒する可能性があるか等考える事もない。

声かけと足の確認が不十分

後ろにいただけ、声掛けが少ない。

平地での歩行介助は理解しているが階段の昇降時の介助方法の理解が不十分。

動作誘導に不安あり。杖を含めた3点の動き方を理解する必要がある。

声掛けの不足。麻痺側に立っていない。

歩行時の声掛けのスピードが利用者に合っていない

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
利用者さんの動きを全く見ずにただ歩く。
どちらにつくべきか理解できていない
見守りは行っていたが、声掛けがほぼなかった。
利用者のテンポでなく少し引っ張ったように介助していた
利用者のペースにあっていなかった
なぜ側に居ないといけないかが理解できていない
利用者に対する自分の位置確認と修正

10～15年目 1～3点と評価した理由
一步一步確認して介助行えているとは言えない。
患側後方に立たず患側前方に立ち声掛けを行う。
利用者のペースで歩行されていない
膝折れしやすい状況への対応が理解できていなかった
膝折れなどの入居者個々の情報を見誤ることがあった。
歩行動作の声掛けなし、介助位置が悪い。
声掛け不足。麻痺側に立っているが、ふらついた時すぐに支えられる位置ではない。

16～20年目 1～3点と評価した理由
歩行介助時の立ち位置は理解しているが、手引き介助の際、手を支持する高さをご利用者に合わせず自分の身長位置で行っており、不安定さが生じている為、気づき・配慮の点での指導が必要。
目を離している。
見守り時の介助者立ち位置や声かけに指導が必要。
自分のペースになっていた。
麻痺の有無や、杖使用などを考慮した介助はできていない。一律して支える介助をしている様子あり
歩行時支えが弱く、自分も不安定になってしまう時が度々見られた。
急いではいなかったが、少し腕を引っ張るなど本人のペースに合わせていない場面あり。

「歩行介助」について、立ち位置の誤り、転倒の危険を考慮できていないこと、声かけの欠如、利用者のペースに配慮できていないなど、基本的な歩行介助技術が備わっておらず、介助行為の意味（根拠）を理解していない対応につき、指摘がされている。

⑥ 体位変換
利用者がベッド寝ている生活が続くときに、姿勢を変えて体を移動させる

1年目 1～3点と評価した理由
なぜ体位交換が必要なのか理解できておらず褥瘡の箇所が圧迫されている事あり。
オムツ交換後、褥瘡リスクがある方にも関わらず介助前と同じ方向を向かせていた。
体位交換するが、ベッド柵と顔が近い状態になることがある。
側臥位の角度が不十分だったり、クッションが当たっていない時がある。
どこに手を置き、支えるところが分からないことがある。
テコの原理を活用していない上に、残存能力を生かしてない
ベッドの下の方にずり落ちた方に対し、身体に摩擦を与えてしまっていた。

2・3年目 1～3点と評価した理由
体位交換の要点を理解できてない。なんとなく右向き左向きにしている。体位交換の説明シートを熟読できていなかった。
右側臥位から左側臥位になる際に声をかけていたがあっちそっちの声の掛け方で戸惑う
ボディメカニクスの活用、クッションやタオルの活用など理解できていない。
除圧や安楽な姿勢であるかの確認が不十分であった。
体交自体知らなかった
除圧やポジショニングの経験、知識が不足している
利用者様の手の位置等の確認はなく、ただ側臥位にできたという状況体位変換の必要性もヒアリングにて聞くが、答えられず

4～6年目 1～3点と評価した理由
オムツ交換時、ボディメカニクスが使えず無理な態勢で行った。
自己流であり、残存機能を利用するような介助は出来ていない。
側臥位に体位交換後に圧抜きをしておらず、肩が内側に入っており皮膚もずれがあるままであった。
側臥位にしたとき利用者様に安楽か確認せず退室してしまう
肩と臀部を持ち体位変換をしている。膝立て、テコの原理を使うことなく自分の力でやっている
衣類・寝具のしわを整えていない。
足が重なっていたり、背部にクッションを入れ忘れなどが見受けられる。

7～9年目 1～3点と評価した理由
力づくで体位変換を行った。
体位変換行っても衣類のしわがよっていたりクッションもポイントごとにあたっていない。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

職員自身の体の大きさに合わない、力任せの体位変換を行っている事があり、利用者の身体がシートなどで強くこすれている事がみられた。
褥瘡好発部位を意識して除圧できていなかった
除圧できるほどしっかりと向きを変えていない。
クッションは当たっているが、所々隙間がみられる。
利用者に膝を曲げてもらったり横を向いてもらったりできることを促さず介助にて行っている

10～15年目 1～3点と評価した理由
体位を変えるのに、ボディメカニズムを使用したやり方が不十分だった。
膝を軽く立てず体位変換を行っていた
安楽な姿勢が確保できていなかった。
臥床位置の確認不足 テコの原理活用不足 最終確認不足
声掛けなく無言で行っている
側臥位時のポジショニングが中途半端で、すぐ体勢が崩れがち
利用者との体に距離がある為、ベッド上で引きずる様に移動している。リハ職員から言われた通りのポジショニングができていない。

16～20年目 1～3点と評価した理由
なぜこの体位にするのか理解できていない感じだった。利用者が楽な体位なのか確認が抜けている
摩擦を最小限度に防ぎながら体位変換の方法をもう少し学びましょう
指示やアドバイスのあった体位のみしかできず、他の体位にはできない。指示された体位には適切にできる
体重の重い方に対しての体位交換が困難。褥瘡ができやすい部位の除圧ができていない。指導必要。
利用者の出来ることをあまり意識しておらず、意欲に繋がるような声掛けが少ない。
膝を曲げてもらう等患者のできるところまで介助しており残存機能を活かした介助が出来ているとは言えない。
体交マットが上手く使えていない どうすれば利用者の負担にならないか指導が必要

「体位交換の介助」については、1年目群、2～3年目群では体位交換の目的を理解できていない、経験年数を積んでいる群では、除圧ができていないといった指摘がされている。各群において利用者の残存能力を活かしていないといった、指示された体位にしかできないといった、ボディメカニクスを活用していないといった基本的な介護技術の欠如を指摘している。

⑦ 立位の介助

立位になったり、立位を保持するよう介助を行う

1年目 1～3点と評価した理由

両足の幅が狭くふらつきがあり、危ない。基本研修のし直しの必要性を感じる

足底がしっかりついているか等の確認不足あり

安全・安定する立位方法の説明が出来ると良い

身体が引けている。

立ち上がりの際に利用者の足が引けておらず、立位を保持するには負担の大きい状態であった。

ボディメカニクスの理解が不十分で力任せになってしまうことがある

手すり等を使って行うなどの工夫・知識の向上が必要。

2・3年目 1～3点と評価した理由

声掛けしていない時がある。力任せな時がある

足の位置がしっかりと床を踏みしめられる様な位置になく、立ち上がった後も立位を保持できず、いったん座って頂いて、やり直している事がみられる。

立位をキープさせる時間が足りない。声掛けも足りない

足の力が弱い方の場合には膝折れ等に注意し無理に行わない。また、「膝や背中を伸ばして下さい」等声かけを行って下さい

立ちやすい動作を再度勉強しましょう。また、利用者のタイミング。できないタイミングであるという判断ができるようになりましょう。

ボディメカニクスを理解していない

利用者の足が閉じており支持基底面が小さいことがある。

4～6年目 1～3点と評価した理由

腰や臀部を持ち立ち上りを介助。足の幅などの声掛けがない

立位の際、足底がきちんとついているか確認行わず介助しようとしていた。

足に力が入るように等の声がかけれなかった。

立位介助時、手を引っ張る傾向あり

立ち上がり時足の位置確認をしていない。

声掛けの不足。麻痺側に立っていない。

立位保持時の介助位置や転倒リスクも考慮できると良いと思います。

7～9年目 1～3点と評価した理由

立位時、足の幅が十分にとれていなかった。

ふらついた際に慌てず落ち着いて対応する力が必要

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

利用者の足の位置確認が出来ていない
ベッドの高さは低いままであり、立ち上がる為の条件を揃えていない
片麻痺のため若干健側に体重を乗せることで支えての立位可能であるが、重心が患側になっていたため、不安定であった。
立位をとった状態での姿勢保持の声掛けが不十分。
立ち位置に指導が必要。

10～15年目 1～3点と評価した理由
保持の声掛けがなかった
「立ちますよ。」の声掛けのみではなくほかの声掛けも必要
ベッド端座位から立位⇒車椅子の動作の際に、靴を履かせずに介助していた。それ以外の介助は適切に行っていた。
立位を取る前に周りの環境の状態を把握するとよい。
声掛けなく無言で行っている
全体的な声掛け不足。手すりからの距離が近い為、利用者が立ち上がりにくい
立位に対しての促しや同意は得ていたが、全介助の方に対して力で立たせる場面がみられた。(一緒に倒れそうになった)

16～20年目 1～3点と評価した理由
付き添う位置などは実施できているが、過剰のときもある
ご利用者の立位時、どういう介助が必要か、どこにリスクがあるか等を即時判断が出来ない。支持する介助時も介助者の身体が離れており、腕や手だけで支持しようとする傾向がある為、今後も指導が必要。
安定した立位保持への促し声かけ等が不足。
立位動作に必要な、立つ前の足を引いて等の声掛けや確認が場合により不十分である。
残存能力を引き出す介助ができない
膝折れや下肢筋力低下の方の注意に欠けている時がある
立位保持させるような介護が出来ていない。

「立位の介助」については、環境把握ができていない、介助者の立ち位置の誤り、利用者の安全確認、足底確認ができていない、ボディメカニクスを活用していない、転倒リスクに備えられていない介助方法等、基本的な介護技術の欠如につき指摘がされている。

5. 感染症対策・衛生管理

① 安全衛生教育

身体介護業務に伴う安全衛生に関し、感染対策（適切な手洗い、健康上のリスクへの対応、疾病予防に必要な知識、自己ケア等）の詳細な知識を有する

1年目 1～3点と評価した理由

適切な手洗いの工程を抜かしてしまうことがある。

適切な手洗い、プラテ(手袋)の使用が出来ていないことがある。

適切な手洗いなどスタンダードプリコーションの理解が不足している。

疾病予防に必要な知識はない。

1 処置 1 手洗いに対する意識が薄れることがある

スタンダードプリコーションができていない。感染リスクのある場面でも、手袋を使用せず介助する等の行為が度々見られた。ご利用者の既往を把握できていない。

知識はある程度あっても、ケアの前後の手洗いなどが不十分

2・3年目 1～3点と評価した理由

ご利用者の既往を把握できていない。スタンダードプリコーションができていない。

手順があいまい

マスクをしていなかったり、アルコール消毒が不十分である。

嘔吐物の処理に不十分なところあり

ディスプレイ使い回し

清潔・不潔の認識が少しあまい。

衛生管理が不十分です。一処置一手洗いができていません。

4～6年目 1～3点と評価した理由

オムツ交換後手袋を脱いだあとの手洗いが無い。居室を出る時の手洗いが無い

ひとケアごとの手洗いは行えていない。

ガウンテクニックなど不十分なところがある。着脱の順番なども逆になっている時もあった。

感染諸対策についての意識がまだ低い。

疾病予防に必要な知識が十分とは言えない。

理解はしているが、できていないことがある。必要性を理解できていない

感染対策の知識不足（嘔吐物の処理や対応など）

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
マスクは着用しているが、手袋の着用、ケア前後の手洗いが不十分である。
オムツ、清拭、エプロン等感染の媒介となるものを、床に直接置いていた事が数回あった。
パット交換時に使用してもらはずの排泄エプロンをしよせず介助していることが多々ある。清潔・不潔の区別をしっかりと。手洗い、消毒は問題なく行えている。
手洗いが短いなど感染の事に対する意識が低い。
排泄介助後のエプロン、手袋の適切な処理ができていない
忙しさに負けて不十分
1ケア1ケアの手指消毒が行えていない

10～15年目 1～3点と評価した理由
知識に乏しい。聞かれても「分からない」という。
適切な感染対策（个人防护具の着脱）の順番が間違っていた
研修参加がすくなく、基本的な所しか知識がない。
標準予防策をとれていない時があった。
1ケア1手洗い実施不足
手袋やビニール袋を使用して介助をおこなっているが、その都度消毒や清潔の徹底ができていない
手洗いをする習慣が時々ないように感じました。

16～20年目 1～3点と評価した理由
感染対策に関する知識は有しているも、実際の現場での感染対策は手洗いや消毒の頻度からみて不十分さが見られる為、今後も危機意識・リスク管理を高める指導が必要。
手洗いを忘れることがあった。
安全衛生教育が不足している
感染予防対策の対応を忘れる事がある。
パット交換時の汚染物の扱い方に指導が必要
適切な手洗いが曖昧なことがあった
感染対策への意識・知識が不十分

「感染症対策・衛生管理」においては、各経験年数群において、手指衛生ができていないこと、感染症標準予防策が遵守されていない実態につき、指摘がされている。

6. 事故発生防止

① 緊急時・事故発見時の対応

事故が発生した時は、上司にすみやかに、事故発生時の状況を具体的に（いつ、どこで、誰が、どのように、どうしたか等）報告する

1年目 1～3点と評価した理由

いつ、どこで、誰が、までは報告できるが、どのように、どうしたかは判断できず
 報告手順がバラバラになり、客観的な状況を把握するのに時間を要す。
 質問をすると返答できるが、自身でみたことを話すことが苦手
 慌ててしまい、5W1Hに沿った報告ができない。こちらから質問すると答えられる。
 NSへ状況報告ができていたが、何をしようとして、どのように転倒されたか具体的な報告ができていなかった
 報告が薄くうまくつたわっていないことがある。
 報告が遅い時がある

2・3年目 1～3点と評価した理由

指示があれば適切に動くことができる。報告は促しがないと抜けることあり。
 状況を簡単にメモ書きするなどして「どのように」「どうしたか」をより具体的に報告するよう改善する。
 報告内容が5W1Hになっていない。
 報告がバラバラ、対応を覚えていない。
 見て見ぬふりする
 すみやかな報告を受けたことがない。
 あいまいな表現での報告が多い。また事故発生時に報告する意識が薄い。
 事故が起きた際、報告が遅い。対応ができない様子。説明が分かり難い。

4～6年目 1～3点と評価した理由

報告がなかなかない。どのように伝わりにくい
 5W1Hをつかっての報告が不十分だった
 内容は理解できるが「いつ、どこで・・・」という報告になるよう反復練習する必要がある状態。
 要因が何か分析できていなかった。
 よく観察せず報告する（バイタルをとらない）
 報告を忘れてしまう事がある
 隠ぺい傾向在り
 報告はできていたが内容が薄い

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
何をしようとしていたのか具体的に報告がなかった
事故発生時、速やかに上司に事故発生したことは報告できているが、状況報告や記録に不十分な部分がある。5W1Hを活用できていない為、助言が必要である。
事故報告書の作成において状況説明や原因分析が不十分。
事故発生時の報告であわてることがある
状況報告が鮮明に行えていない
事故発生時の報告は実施できていたが、対応策等の見解がないケースがあった。危険予知について乏しい部分あり。
報告はできるようになったが、なぜおこったのかなど、考えようとしていない

10～15年目 1～3点と評価した理由
報告することがない。報告するように指導継続している。
5W1Hの表現が欠けており、情報として不十分。
他者任せな言動になっている。
5W1Hを使用し報告しているが、事故予防・対応策の提案が上手く出来ない為、改善が必要。
いつ、どこで、誰が、までは報告できるが、どのように、どうしたかは判断できず
発生時焦りが見られる、報告が出来ない
表皮剥離の報告はあったが具体的な報告ではなかった。また、看護師への報告はされていたが介護との共有がなかった。

16～20年目 1～3点と評価した理由
事故発生時の対処方法・記録の不足部分があり。
報告を受けたことがない。(剥離等、気付いているか不安がある)
自己解決してしまうところがある。
分析した事故発生状況をケアチームで情報共有する機会が少ない。
緊急時の判断が、ヒアリングベースでは完璧ではない
記録を5W1Hを利用して記録できていない。今後の再発予防策を考える
報告はできているが、必要な報告の漏れがある

「事故発生防止の対応（緊急時・事故発見時の対応）」では、経験年数に関わらず、事故報告として必要事項を整理し報告することができていない対応が挙げられている。経験年数を積んでいても、観察が不十分、原因分析が不十分、自己解決してしまう等、観察、検証検討のプロセスを踏めていない対応、すなわち対応ができていない、との指摘が読み取れる。

② 介護職種における事故防止のための教育

身体介護業務に伴う安全衛生に関し、事故防止、安全対策（リスク管理、車いすの点検等）の詳細な知識を有する

1年目 1～3点と評価した理由

まだ点検業務に慣れていないため不備は見られている。

事故リスクのある場所の確認不足がある

ヒヤリハットの早期予防が未熟である。

車いすの点検ができない。安全対策について、根拠が分からない時がある。

どこに、何が危険があるのかまだ理解できておらず、危険予知が出来ていない

事故防止のことはまだ教えていない

事故防止やリスク管理等は足りていない

2・3年目 1～3点と評価した理由

安全対策が不十分、考えられない

何がリスクに繋がるのか理解が乏しいと感じた。

車椅子の点検や事故防止に向けての話し合いの時間が無いこと問題だと思えます。改善に向け施設と話し合いが必要な案件です。

上司に言われると理解は出来るが、自分自身で知識を広げようとする方法は検討出来ない様子あり。

ヒヤリハットの記録における事故再発防止策などは理解していたがリスク管理を行うまでの十分な知識が不足している。

ヒヤリハット発見時、対応を検討することで、リスク防止へとつながるが、ヒヤリ発見記入のみで、どうする？が不足していた。なお、今回ヒヤリハットの法則とともに指導行う。

リスク管理等に関しては、上司に任せてあるといった感じ。知識としてはあまりない様子。

4～6年目 1～3点と評価した理由

事故防止、安全対策の知識がない

ヒヤリハットの報告用紙を確認してはいるが、理解できていない。

車椅子の点検など自ら進んではしない。指示されて、言われたことのみ実施できる。

ヒヤリハットの記録が少ない。また予防への意識は乏しく、ご利用者の「できる」ことより、リスクをなくすために「やめさせる」ところに視点がある。

どうしたらいいのか？対策方法ができておらず、車いすの点検もできていない。

リスクに対する予測が不十分。こうなるかもしれないという気づきをもっとできると良い。

故障していてもそのままである

スキルをアップされない。現状維持。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
車椅子の点検・確認が抜けていた
安全対策について、自身の技術不足をあげていることが多い。技術の問題だけでない着眼点がほしい。
転倒予防対策に客観性がない
事故要因分析や安全対策が表面上の分析で終わっており、なぜ。の分析を行う必要がある。
事故防止に関する気づきや記録を残す、予防策を講じることが消極的である。
決まった再発防止策は対応できているが、福祉用具の点検や不備によるリスクに関して指導不足である。
再発防止策を講じることが消極的である。

10～15年目 1～3点と評価した理由
リスクに対しての意識、対応はまだ不十分な面あり
福祉用具の知識、点検不足。
リスク管理に関しては疎いときがある
リスクマネジメントがほぼ出来ていなく、この介助を行えばよい、といった様な機械的な事しか出来ていない。
ユニット内での意見の吸い上げが不十分で、リスクマネジメントに対する視野が狭い。
原因を多方面から考えることができなかつた。予見可能性が不十分であった。
意識は出来ているものの、現状の把握に観察力の不足があった。（利用者のADL状況のアセスメントなど）

16～20年目 1～3点と評価した理由
リスク管理、車いす点検を行っている様子は見受けられない。
勉強会にあまり出られず。
知識があまりなく研修もうけられていない
フロア全体を見れていない時もあり、環境設定が行えていない。同線に車いすや座イスが置いてあり障害物になっているのも気付かず。
報告書をだして終わりの状態になっている
認知症や福祉用具に対する知識不足から、危険予測の視点がなく指導を要する。
事故防止などの詳細な知識、車椅子点検などが不十分であった。

「事故防止のための教育」に関しては、経験年数の浅い段階では、教育ができていない、リスク管理の知識不足としているものの、経験年数を積んででも、着眼が持てない、表面の分析で終わっている、リスク管理は疎い、報告書を出して終わり等、指摘があげられている。

③ 介護職種における疾病・腰痛予防
身体的快適性や健康および身体的・精神的な安寧を確保する（例えば、バランスのとれた食事をとる、健康を害するものを避ける、予防摂取を受ける、定期的な健康診断を受ける、ボディメカニクス等を活用する）

1年目 1～3点と評価した理由
自身の健康状態への関心はやや低い。睡眠時間、休養など確保するよう促している。
動きに迷いがあり、介助時の体制が不自然。腰痛になりそう。
ボディメカニクスをもっと活用し、体の負担を軽減する。
腰痛ベルトを使用し、移乗時等気をつけている。
感情のコントロールが出来ていない時がある
精神状態やや不安定な部分あり。
自身の健康管理に対する意識が低い

2・3年目 1～3点と評価した理由
バランスの取れた食事をしていない
睡眠不足の傾向がある。
ボディメカニクスの活用が不足しているため、体重がある方の介助は難を要する。
適切な姿勢でのケアが出来ていない
センサー頻回や立ち上がりが多く転倒リスクがある方に対して精神的にやや疲弊している場面が見受けられる。
精神的な安寧が確保できていない様子があり心配。
ボディメカニクスの活用に未熟であるが健康管理には十分気をつけている

4～6年目 1～3点と評価した理由
腰痛や足が痛いということもあるようなので、ボディメカニクスを活用した介護方法の工夫が必要。
生活リズムに不規則さがある。
体調不良、腰痛があり休むことがあった
少し無理のある態勢でも腕力で介助してしまうことがあった
気分のむらや感情定期的になることが多い。
アンダーマネジメントが必要。
体調崩しやすいところがあるので、基礎体力をつけるための工夫や生活リズムの見直しをしてみてください。

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

7～9年目 1～3点と評価した理由
力で介助をしているところがあり腰を痛める介助を行っている。
定期的な健診は受けているが食生活や腰痛予防は出来ていない。
人員不足などからの精神的安定が、保たれていない部分がある。
辛さや疲れが表に出てしまっている時がある。
食事に偏りあり。アドバイスに対して否定的
腰痛予防に関して始業前に体操など行えていない。
自分の健康についての意識が欠けている。自分の身体の事は後回しにしてしまい、無理をしてしまう。

10～15年目 1～3点
ボディメカニクスの理解ができていない
自身の健康管理に課題が少しある。
業務に入る前に腰痛体操など行うことない。コルセットの使用はあるが、介助量も多く腰痛への不安あり。
昔の力で行う介助をする時がある、ボードやスライディングシートを使用した介助方法を学んでほしい。
身体的にも精神的にも無理をしていることが多い
健康面は問題ないが、精神的に余裕がなくなると「できない」と言われ、介護を避ける傾向あり
力仕事のようにおこなっていて、ボディメカニクスが使えていない

16～20年目 1～3点と評価した理由
セルフケアは行っているとのことだが、現場での介助がどうしても力任せになりがち(腰痛等生じやすい)。効率の良い介助方法やボディメカニクスの知識向上を指導していく必要がある。
スライディングシートなど、補助具を使用しているときと使用していない時がある。残業が多く疲労度が高い。改善が必要。
ボディメカニクスを利用した介助方法が行えていない。
ボディメカニクスの知識面で不十分な点があり、腰痛を引き起こした経験がある。
膝痛の持病あり。精神面での弱さがBPSDへの対応の仕方に投影されることがある。
業務オーバーになっけていても、無理をしてしまうことがある。健康診断後のセルフケアができていない。
お酒の飲み過ぎ、メタボリックあり。時折腰痛にて行動制限あり。

「介護職種における疾病・腰痛予防」に関しては、各経験年数群で、ボディメカニクスを活用できておらず、腰痛予防ができていないとの指摘があげられている。

(2) 記載データ分析考察

今回分析した介護技術評価の要指導（評価点1～3）とされた観点とは、すなわち現場で提供されたケアの実態であり、現場での喫緊のOJTが求められる事項と整理できる。

本節では、抽出による定性分析によっているものの、要指導（評価点1～3）とした評価根拠（評価の理由）では、各経験年数群において、基本介護技術による提供を行えていないものと評価できる介護職員が2～3割程度存在し、指摘されているケアがこれらの職員によって日常的に提供されている実態が表出されたもの、と読み取ることができる。

日頃のサービス提供にあたって、利用者の意向の確認、声かけ、説明と同意の確認、利用者の体調確認が省かれている、利用者による選択がされていない、利用者の身体機能に配慮したケアはなされていない、利用者のプライバシーが尊重されていない、安全への配慮がなされていないと読み取れるこれらの対応は、すなわち利用者の尊厳が守られていない介護が実践されており、評価基準を用いた他者評価を通じて示されたと整理できる。

誤嚥リスクを理解せずに、誤嚥につながる姿勢での食事介助を行う、褥瘡リスクを理解せずにおむつ交換や体位交換を行うなど、基本となる介護技術行為の意味、根拠を認識せずにケア提供にあたっている可能性、専門知識によらず、誤った理解や認識でケアを実施してきた可能性、各介護行為の意味を理解しつつも、利用者の尊厳への配慮、事故リスクを軽視し、それを習慣化させている可能性などが考えられる。

介護記録に関する評価をみても、経験年数を積んでいる群においても、記録の正確性、意味が共有できておらず、よって恐らく事業所での介護記録は、根拠記録、情報共有ツールとしての体をなさず、OJT活用には及ばない状況で定常化されていくことが予想される。

「要指導」とされた評価根拠の中には、組織としての業務の在り方、管理の在り方を早急に見直すべきと思われる指摘事項も散見される。

経験年数群別に関わらず、日常的に基本的な介護の遵守事項が実施されていないことが実態であるとする、これらは個々の職員の能力・スキルの問題というより、組織における教育システムの欠如といえる。

今回の介護技術評価が示すように、評価基準に対応して、職員の介護行為を把握すること、ケアスキルを把握し記録化することにより、消滅性ゆえに表出化されにくい日々のケアの現状を可視化することができる。所属する職員のスキルの把握は、OJTの初めの一步と位置付けられるが、職員スキルの把握自体を行っていない場合、組織の実課題としては認識されないままとなる。

今回の「要指導」と示されたデータは、日常の職員の行為が「尊厳の保持に向けた実践」となっているのか、評価者が目を向け、確認を行った結果である。「要指導」該当者への教育指導が急がれることは勿論であるが、介護事業所においては、入職者、初任

第2章 介護技術評価票データ分析によるOJTの在り方の検討

者や経験年数の浅い職員に対する研修に注力するだけでなく、経験年数を積んだ介護職員を放任するのではなく、基本に立ち返る機会を持ち、軌道修正をはかることも必要である。教育システムの欠如は、利用者へのケアとして返されてしまう。職員スキルの把握により、個々の課題に即したOJTの仕方が具体化するものと思われる。

4. 介護技術評価票データ分析からの示唆

第2章の介護技術評価票データ分析においては、介護職員3,898件の基礎的な介護技術評価結果を取り扱った。使用した評価基準に照らし、各項目で約2～3割程度「要指導」との他者評価結果となっている。

自己評価・他者評価結果集計分析からは、初任者研修修了相当のスキル評価において、1年目～4、5年目あたりまで、職員各自が「できている」ものと思い込んでいる傾向が示された（入浴介助、食事介助、排泄介助、）。このことは、仮に職場でスキル把握の機会がない場合、できているものとの思い込んだままでキャリアを積んでいくことを示唆する。また、ケア提供前の声かけ、説明、同意取得、体調確認といった項目は、経験年数10年を超える職員において、実施できていない者が存在することが示された（入浴介助、食事介助、排泄介助）。

全身清拭、誤嚥を防ぐ食事姿勢等の基本介護技術を踏まえた食事介助、口腔ケア、トイレ等での排泄介助、おむつ交換、起居の介助、ベッドから車椅子への移乗介助、体位交換、排泄記録、福祉用具の使用理解と点検業務、緊急時・事故発見時の対応についても、経験年数10年以上であってもできていない者がいる傾向が示された。

このことは、基本介護技術を遵守し日常的に提供し続けることの難しさを示唆しており、経験を積んだ職員であっても、基礎に立ち返る機会、振り返りの機会を仕組みとして持つことの有用性を示すものといえる。

自己評価・他者評価結果分析につき、統計検定結果を踏まえると、1年目職員に対し基本介護技術のOJTを行い、着実にできるようにしていく教育が有用であること、経験年数7年程度の職員に対して、基本介護技術についてできていることの確認、共有を行い、職員自身の不安を払拭することが有用であることが示唆される。

評価項目全体における自己評価・他者評価差異 経験年数推移からは、4～5年目の地点で自己評価・他者評価が一致する傾向がみられる。スキルが平均点(3.90)に到達するのは、経験年数8～11年となっている。経験年数14～15年目以降下降の推移も示しており、右肩上がりとはなっていない。

評価項目のうち、事業所で提供していない行為項目も含まれることを考慮しても、初任者研修修了相当のスキルを日常の当然のスキルとして提供できるようになるのに、相当の年数を費していると読み取れ（食事介助では、平均点に達するのに6～7年要している）、評価項目のレベル（初任者研修修了相当）に対応して、習得に要する妥当な期間とはなっておらず、育成の仕組みが必要な職員には届いておらず、非効率を産んでいる可能性が示唆される。

サービス種別自己評価・他者評価分析によると、サービス種により経験年数推移、得点の傾向に差があることが示された。

介護老人福祉施設では、経験年数8～11年の段階で成長が鈍化し、14～17年目にかけてスキルの低下がみられ、ベテラン職員層の成長支援が求められる。

認知症対応型共同生活介護については、全体的に平均点を下回っており、スキルの伸長が鈍く、基本介護技術を重視した介助が行われていない可能性、スキル向上に向けての教育システムが機能しにくいこと、このため事業所単体に育成を委ねるのではなく、自治体による公的支援の必要性が示唆される。

通所介護においても、平均を下回っており、入浴介助や食事介助については、6～7年目まで伸長がみられず、通所介護サービスのみに従事している場合、基本介護技術の習得には繋がりにくいこと、ジョブローテーションを組み込みキャリアパスを設計することの有用性を示唆する。一方、訪問介護では、経験年数全体を通して平均を大きく上回り、経験年数を積むごとにスキルが上がる傾向が読み取れる。介護老人保健施設においても、経験年数を積むごとにスキルがあがる傾向がしめされており、教育の仕組みが機能しているものと読み取れる。

サービス種別にみる異なる傾向は、サービス種自体の特徴を示しているだけでなく、教育システムの整備状況の差異を表している可能性がある。教育システムの差は、提供サービスに影響することは、当該記載データ分析からも明らかである中で、所属事業所のサービス種、経験年数をふまえた教育プログラムを設計することが有用といえる。

